

競技会役員



総 務

1 任務

総務は競技実施場所で起こっているすべてのことについて責任を負い、その任務については CR15 に記載されている。

競技会の規模に応じて総務員を置き、任務の一部を代行させることができる。

<主な任務>

- (1) 競技会を準備・管理し、競技会を順調に進行させる責任を負う。
- (2) すべての役員の任務遂行の状況を監視し、競技規則に精通していなければ、その代わりを指名する。
- (3) 新記録（日本・アジア・世界）が誕生した場合の記録公認要件の確認と、申請手続きに関して関係部署への連絡・指示を行う。
- (4) 各会議で変更になった事項や新たな決定事項があれば、競技会開始前に関係全部署に連絡、周知徹底を図る。
- (5) マーシャルと連携し、許可・権限のある者以外は競技場内に入れないように競技場内を規制・整理する。
- (6) 抗議・上訴がなされた場合に対応する（裁定は審判長、ジュリー）。
- (7) トラブルが発生した際の情報収集、関係部署も含めた対応策の検討を主導し、指示を行う。
- (8) 式典表彰の管理を行う。
- (9) 広告および展示物に関する規程が遵守されるよう、関係部署に指示を行う。

2 競技会準備段階での任務と留意点

準備段階からすべてに関与し、主催者や関係役員に対して大会・競技運営に必要な準備の指示を行い、進捗状況を管理する。必要に応じて、総務自らが対応する。

(1) 競技施設・用器具関係

① 公認競技場借用の申込内容の確認

- ・日時、借用器具、夜間照明使用可否、サブトラック借用有

無，雨天練習場借用有無等

・競技場備付用器具，会議室，控室 等

② 競技場との打合せ

・開場・閉場時間，送付物の送付先，持込物品の搬入方法等

③ 競技会運営サポート業者等との打合せ

・用器具提供会社，情報機器提供会社，映像処理会社，広告代理店等

(2) 役員・補助員関係

① 競技役員の出欠状況確認，補充指示

・審判編成，審判員各人の経験・習熟度（場合によっては解任し，別の者を指名する）

・主要役員間での事前連絡指示，部署別準備状況の確認

② 補助員の割振り確認，補充指示

③ 大規模大会では「審判員必携」の作成指示，監修

④ 服装

・大会個別の指定服がある場合は各役員への周知，配布指示

(3) 競技規則関係

① 大会要項の決定，プログラムの作成指示

・大会要項，出場資格，競技注意事項，申合せ事項の確認

・申込状況（種目，組数，人数）の確認

・ラウンド，進出条件などの決定

・競技日程の決定

② 特に注意を要する事項の確認

・抗議対応

手順の確認と場所の確保

・ドーピング検査有無と準備状況

関係役員（NFR，DCO，シャペロンなど）の手配と検査場所の確保

・国際大会や WRk 対象競技会の場合は国際ルールの確認，関係者との打合せ

(4) 競技運営関係

① 主催者との各種打合せ。特に主催者が陸協以外の場合は，主

催者の要望と競技運営の上での制約の調整が重要。

- ② 大会で使用する通信機器準備，審判部署間の通信網整備
 - ③ 報道対応
 - ・TV中継がある場合はTV局との打合せ（放映時間，競技時間の微調整必要時の対応，映像，PAの場内利用等）
 - ・報道関係者対応の準備（ビブス，ADカード，取材エリア，会見場所，作業部屋，待機場所，通信回線等）
 - ④ 諸会議
 - ・監督会議，審判主任者会議等の実施計画
開催日時，場所，議題，決定事項の反映・伝達方法等
 - ⑤ PC使用の場合はデータ，PC不使用の場合は流し用紙の準備
 - ⑥ 記録用紙関係の準備
本連盟ウェブサイト
「日本陸上競技連盟が定めている記録用紙などの様式」
* <https://www.jaaf.or.jp/about/resist/athleticclub/form/>
 - ⑦ 各種計画書の作成・確認
 - ・進行計画（進行表）
 - ・式典表彰計画，プレゼンター一覧
 - ・競技場整備用具搬入計画
 - ・競技者係招集誘導計画表
 - ・荒天，地震発生等緊急時対応計画等
 - ⑧ 医療・治療体制の確認
 - ・医師の手配
 - ・救急措置時の手順（消防，病院，競技場からの搬出方法等）
 - ⑨ 広告ボード，場内広告掲示物の設置場所確認
 - ⑩ 道路競走・駅伝での各ポイント設置状況確認，実施に際しての道路使用許可，交通規制等について警察その他関係者との折衝状況確認
- (5) 庶務事項
- 1 物品，消耗品，賞品等の準備，管理
 - 2 アスリートビブス準備，選手への配布方法
 - 3 プログラム準備，関係者への配布方法
 - 4 競技会関係者昼食・飲料準備

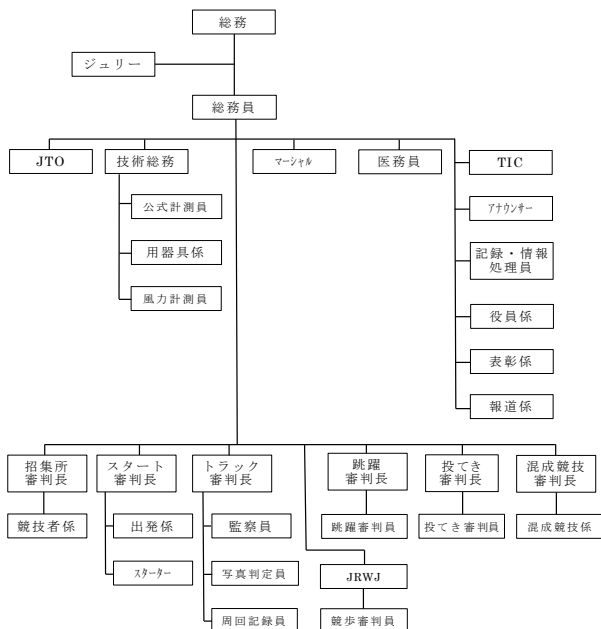
- 5 来客・来賓，スポンサー対応検討
- 6 道路競走・駅伝での競技役員輸送方法，随行車輛配置，競技役員間の連絡網整備，医師の手配，救急措置時の対応方法検討

3 競技会当日の任務と留意点

- (1) 競技場施設・用器具の準備状況
主催者，技術総務と分担して必要事項のチェック
- (2) 競技役員の集合状態の確認，補充措置
- (3) 抗議・上訴への対応
 - ① 総務，抗議担当総務員，審判長，ジュリー，TICの役割分担の確認
 - ② 受付からの流れ，対応場所の確認
 - ③ 結果発表時間の確認
抗議に備えて，公式記録発表時刻の記録を指示しておく。また，あらかじめ，基準時刻は何にするかを決めておく（アナウンスか，大型映像表示か，掲示板への記録用紙の掲示か）。
- (4) 競技場内の規制・整理状況のチェック，マーシャルへの指示
 - ① 事故防止の観点から，練習場も含めて事故予防対策の徹底
 - ② トラック競技，フィールド競技ならびに競合する個所の規制・整理，特に投てき競技の危険防止対策の徹底
 - ③ コーチ席の確保
- (5) 掲示広告物のチェック
 - ① 広告ボードの位置，内容，スタンドでの展示物等のチェック
 - ② 広告および展示物に関する規程の違反物，競技運営の妨げになる物の移動，撤去指示
- (6) 審判長裁量（判断）事項への対応
原則，判断自体は審判長だが，運営上，その内容を共有する必要がある。
 - ① 競技時間・場所の決定・変更（再レースの時間設定等）
 - ② 警告・除外
 - ③ 失格
 - ④ 競技規則にない事項の審判長裁定

- ⑤ 混成競技の組み合わせ変更
- (7) 新記録誕生時
 - ① 記録の保全（ゼロコントロールテスト写真，フィニッシュ判定写真，投てき物の再検査指示等）
 - ② 記録申請に関する部署への連絡・指示
 - ③ 関係者のサイン徴求
 - ④ 記録原票の保管指示
- (8) ドーピング検査
 - ① 実施方法，検査場所の確認
 - ② 関係者への連絡
- (9) 進行状況確認
 - ① 競技進行（進行担当総務員），式典表彰（表彰担当総務員）
 - ② 招集状況（招集所審判長・競技者係主任）
 - ③ 遅れが出た場合の回復方法の検討・指示（進行担当総務員）
 - ④ 道路競走・駅伝（審判長，関門役員，移動審判員）
- (10) 記録・情報処理員からの記録原票の受領保管，主催者に対する記録申請指示
- (11) 報道機関等への情報提供
 - ① 記録，資料
 - ② 記者会見等の設定
- (12) その他
 - ① 競技の判定に時間を必要とし，状況を説明した方がよいと思われるケースがあれば報道関係者，関係競技役員，チーム監督，競技者，観客への説明を行う。また説明方法，説明者，説明内容検討を指示する。
 - ② 競技会前に準備したその他事項の実施状況確認

<国内・主要審判関係イメージ>



スタンドからの怪しげな撮影行為に対する対応

関係者以外の怪しげな撮影に対しては、以下のような対策が考えられる。

1. そのような撮影を可能にする場所は「撮影禁止区域」とし、張り紙などで周知する。
2. 仮に怪しい人物がいた場合、マーシャル、総務員などが撮影を遮るような位置で往復するなど、撮影が困難になる状況を作り出す。
3. 女子走高跳の着地場所はトラック側に設置し、直近のスタンド側からは背面しか写せないようにする。

4. フィニッシュしたランナーの腰ナンバー標識回収の際、できるだけ迅速にランナーをスタンドから見えない場所に誘導する。フィニッシュ後に倒れこんですぐに動けないような場合は、補助員（女性が好ましい）の協力を得ながら、できるだけ撮影を遮ることのできる位置取りをしてもらう。駅伝など道路競技の場合は、救護場所を幕で囲うなど外から見えないようにする。
5. 以下のような場所も可能性があるので、マーシャルや総務員は注意が必要である。
6. 走幅跳・三段跳の砂場の競技者と対面する延長線上
7. ハードルの正面
8. 障害物競走の水濠付近

とはいえ、当然善意の撮影者の場合もあるので「熱心に撮影されていますね。選手のご家族の方ですか（選手の学校関係者の方ですか）？」などの声掛けも牽制効果がある。

それでも続く場合は、「昨今は疑われることがあるので」と説明し、少し場所を移動してもらうなどの対応をお願いする。いずれにしても落ち着いて丁寧に対応することが肝要であり、家族や競技関係者であればすぐに理解してくれるであろう。

体調に異常をきたした競技者への対応

先ほどから呼吸が荒く、大量の汗をかいて走行（歩行）していた競技者が、ふらつき、コースを逸脱し始めた……。転倒した競技者がそのままうずくまり、動けない状態が続いている。

近くにいる競技役員の貴方はどのような行動をすべきであろうか？

TR6「助力」では、「主催者によって任命された医師は競技者の生命・身体保護の観点から、競技の中止を命じることができ、審判員や公式の医療スタッフが声掛けをしたり、介護のために身体に接触したり、競技者が立ち上がったリ医療支援を受けたりするための身体的な手助けをすることを助力とは見なさ

ない」としている。

「下手に声掛けや身体に接触してしまい、それが原因で競技者が失格になったら……」と懸念する声もかつてはあったが、何より競技者の生命・安全を保護する姿勢を第一に持ち、勇気ある行動が望まれる。

競技場内で発生した場合、即座に審判長または医師の判断により、競技の中止が決定されるが、道路競技においては、必ずしも審判長や医師がそばにいるとは限らない。そういった場合、現場の審判員から審判長や医師に現況が報告され、対応の指示を受けて措置できる体制作り、連絡網の整備が必要である。

また、大会要項や競技注意事項、監督会議等を通じ、緊急事態発生の際には、審判長や医師の判断により、競技を中止させることがある旨を周知徹底しておく必要がある。

何より道路競技における監察員の仕事は、観客の整理やコースの整備だけでなく、選手の観察も重要な任務になっていることを認識していただきたい。

進行担当総務員

1 任務

進行担当総務員（以下「進行」）は、CR15〔国内〕に記載されている総務の任務の中で、競技会進行に関する部分を分担する。

その主要任務は、

- ① 競技会進行に関するあらゆる情報を収集し（集約させ）、関係部署間の調整を図り、競技進行に問題が起こった場合にはその対応について、総務の指示を仰ぎながら解決方法を見出し、関係部署に指示をする。
- ② 本連盟主催の競技会でイベントプレゼンテーションマネージャー（EPM）が任命されている場合は、現場との調整役として協力する。

ことである。

進行の任務分担や人数は、競技会の規模や性格、競技種目数、日程などを勘案して決める。特に大規模競技会においては、進行の配置が不可欠であり、以下のように複数の担当者で役割分担するとよい。

- ・総括担当（全体進行担当）
- ・トラック進行担当
- ・フィールド進行担当（跳躍担当、投てき担当）
- ・式典表彰担当

2 役割分担と留意点

競技中におこる様々なことに対応するために、総務・各審判長および各部署主任（任命されていればTICや報道係）等との連絡手段として無線等を準備する。

そして、常に競技エリア全体を見渡せる最上階に位置し、状況によってはアナウンスを通じて全体に指示を出す必要もあることから、アナウンサーと同室がよい。

以下、進行担当が複数配置された場合の、分担内容である。ほとんどの競技会ではこれを一人ないし二人体制で行っていることが多

いが、任命された人数に応じて分担を考えるとよい。

(1) 総括担当の任務と留意点

最も重要な任務は、競技日程の円滑な進行である。場合によっては瞬時に判断することが求められるため、総務と共通の認識が不可欠であり、事前に綿密な打ち合わせをしておく。EPMが任命されていない競技会では、準備段階から「魅せる」競技会を意図した演出関連の計画をすることもある。

① タイムテーブルの検証と調整

タイムテーブル設定の段階で、複数種目の競技開始が重ならないよう気を付ける。複数の種目で競技開始時刻が重なってしまう場合は、競技開始の順番について現場との調整が必要となる。あらかじめ種目間の調整をできるだけ綿密に計画し、それでもなお現場での調整が必要な場面では競技運営に負担のないように早めに具体的に指示することが必要である。

② アナウンサーの役割についての確認

アナウンスの方針、用語の統一、選手紹介について等アナウンサー主任と打合せをしておく。

③ 大型スクリーン（以下「スクリーン」）についての確認

スクリーンを使用する場合は、どのような映像と文字情報を映し出せるのかの確認、表示とアナウンサーとの役割分担の調整をする。

④ 競技進行の管理

総務と協力し、進行計画表を作成し各部署へ配布する。競技開始後は計画通りに進んでいるかをチェックするとともに、すべての競技や表彰等の実施時刻を記録しておき、遅れが発生した場合の検証や次回以降のタイムテーブル作成に役立てる。また、抗議に備えて結果発表の時刻も記録しておく担当も決めておく。

魅力ある競技会とするため、フィールド競技の最終局面や大会新記録への挑戦など、観客に注目してほしい場面とトラック競技のスタートが重なる場合は、スタートを遅らせてフィールド競技に注目させる必要も出てくる。その際は早めに出発係と

連携を取り、トラック競技の選手に不利益を与えないよう、入場を遅らせるなどの指示を出す。タイムテーブル通りに競技会を進めていくことだけにとらわれることのないように注意する。

⑤ テレビ中継の対応

テレビ中継が行われる競技会で EPM が任命されていない場合は、総務とともに中継局ディレクターとの打ち合わせも行う。

(2) トラック・フィールド担当の任務と留意点

総括担当からの指示を現場に伝えたり、競技進行状況、競技役員の配置・活動状況、招集状況や招集完了後の競技者の誘導ならびに練習状況、施設用器具の設置状況などを詳細にチェックする。

① トラック担当

- (a) 1組毎の競技開始・終了・速報・結果発表時刻等などを進行計画表に記録しながら、計画通りに進んでいるかを確認する。組数が多く遅れが生じやすいトラック競技は、種目単位で一括りとし、組ごとに準備が整い次第スタートさせ、各種目の最初の1組を計画通りの時刻にスタートできるように努める。(テレビ中継がある等で、正確なスタート時刻を求められている場合はそれに応じる)

遅れが出た場合は、レース間の無駄な時間を省くよう指示を出し、少しずつ回復へ向けていく。例えば、待機場所からトラックへ出すのに時間がかかっていたり、スタート練習では流しでスタート地点へ戻るのに時間がかかり過ぎていたりすれば、出発係への指示が必要になる。

- (b) レースのスタートとフィールド競技の注目させたい場面が重なり、総括担当から指示があれば、トラック選手の入場を遅らせるなど、出発係へ連絡をして調整を図る。その際には、「この幅跳の選手が跳んだら(投げたら)」というように具体的なタイミングを示す方がわかりやすい。
- (c) 競技日程が遅れた場合、招集所からの誘導を遅らせる場合がある。本来、競技者係と出発係との連携で対応することだが、進行からも指示を出すようにする。

- (d) レース前後の情報がスクリーンに適切に表示されているかを確認する。全体を見渡せる高い場所にいる場合はブレイクラインマーカー・周回表示板・ラップ旗やコーナートップ旗・スターティングブロックやレーンナンバー標識などの設置や撤去・代用縁石の設置や撤去・ハードル・縁石が取り外されている場所に正しくコーン（または旗）が設置されているか等を確認し、必要であれば現場に知らせる。
- (e) レース終了から写真判定中の速報（ライブリザルト）・確定された結果の発表まで、迅速にできているかを確認する。
- (f) Lane by Lane 実施の場合は、その要領についてスタートチームと事前打合せを行い、共通認識を持っておく。雨天の場合は、スタート練習の間に行ったり、中長距離種目ならスタート後に紹介する等、臨機応変に判断する。

② フィールド担当

- (a) 種目毎の入場・練習開始・競技開始・終了・結果発表時刻などを進行計画表に記録しながら計画通りに進んでいるかを確認する。遅れが生じた場合は、どこに原因があるのか見極め、遅れを取り戻すための指示を出す。（例：砂場ならしの時間、試技時間の開始のタイミングなど）
- (b) 競技進行が長引き、次の組や種目の入場時刻になってもまだ前の種目の競技者がピットに残っている場合は、入場を遅らせる指示をする。これは本来、競技者係とフィールド審判員との連携だが、状況を見て早めに判断する。
- (c) 注目してほしいタイミングとトラック種目のスタートが重なる場合は、総括担当に試技時間などの情報提供をして何を先に行うのかの判断を仰ぐ。
- (d) 風向風速も含めた競技中の記録表示板の位置や表示時間は、観客やアナウンサーが情報を得やすいものかを確認しておく。TOP8の発表は、手元のパソコンで確認でき次第発表することもある旨、フィールド競技役員と事前に打合せをしておく。

- (e) 高さの種目は特に、試技時間が正しく運用されているかを確認する。
- (f) 試技途中の経過発表はタイミングよく、競技終了後の結果発表は迅速にできているか確認する。
- (g) 「One by One」実施の場合は、練習状況を把握し予定時刻に始められるように指示をする。要領についてフィールド審判員との事前打合せを行い、共通認識を持つておく。

(3) 式典表彰担当の任務と留意点

式典表彰が計画通りに行われ、競技進行に支障をきたすことなく、勝者を称え厳かな表彰・式典となるよう、細かい配慮をする。式典表彰要領について、表彰係やアナウンサーと事前打合せを行い共通認識を持つておく。また、進行計画表により競技終了、結果発表、表彰開始予定時刻を確認し、表彰式の実施時刻等を記録する。

① 表彰係と共有する表彰要領の作成

(a) 表彰実施予定時刻・所要時間

(b) 表彰方法

- ・表彰対象は何位までか
- ・表彰の順序は上位からか下位からか
- ・選手権章・賞状・メダル・優勝杯・花束・副賞等渡すものは何か
- ・賞状を読むのか、読むなら何位までを読むのか
- ・控え場所から入場、表彰台、退場の導線
- ・リレーの賞状等の授与は全員か代表者か

(c) 表彰者（プレゼンター）リスト

氏名、肩書、読み方、プロフィールなど、誤りがないように充分注意する。リストはアナウンサー主任と共有し、変更があった場合は、表彰担当とアナウンサーに確実に伝達できるよう連絡手段を決めておく。

② 表彰の流れ

- (a) 表彰係から受賞者が揃ったとの連絡があったら、「次の組がフィニッシュしたら」「5000mがスタートして最初の1000mのラップを言ったら」等と具体的に表彰開始のタイ

ミングを指示する。

- (b) 表彰開始の合図は、アナウンスなのか音楽なのか等、表彰係と確認しておく。音楽担当者には進行からの合図でスタート、表彰式終了コメントに合わせてフェードアウトをしてもらうよう確認しておく。映像担当には表彰タイトルや競技の模様の映像など、スクリーンに表示する内容を確認しておく。
- (c) プレゼンターには、アナウンスのコメントに合わせて対象者へ渡してもらうよう表彰係を通して依頼する。
- (d) 表彰後にフォトセッションがある場合は、表彰式の終了コメントをもって後の流れは表彰係に引き継ぐこととする旨、表彰係との認識を合わせておく。

③ 雨天時の表彰方法

表彰場所の変更がある場合は、受賞者や観客にアナウンスする（必要ならば報道係を通して報道関係者へも知らせる）。表彰要領に変更がある場合はアナウンサー・音楽担当者・映像担当者に確認をしておく。

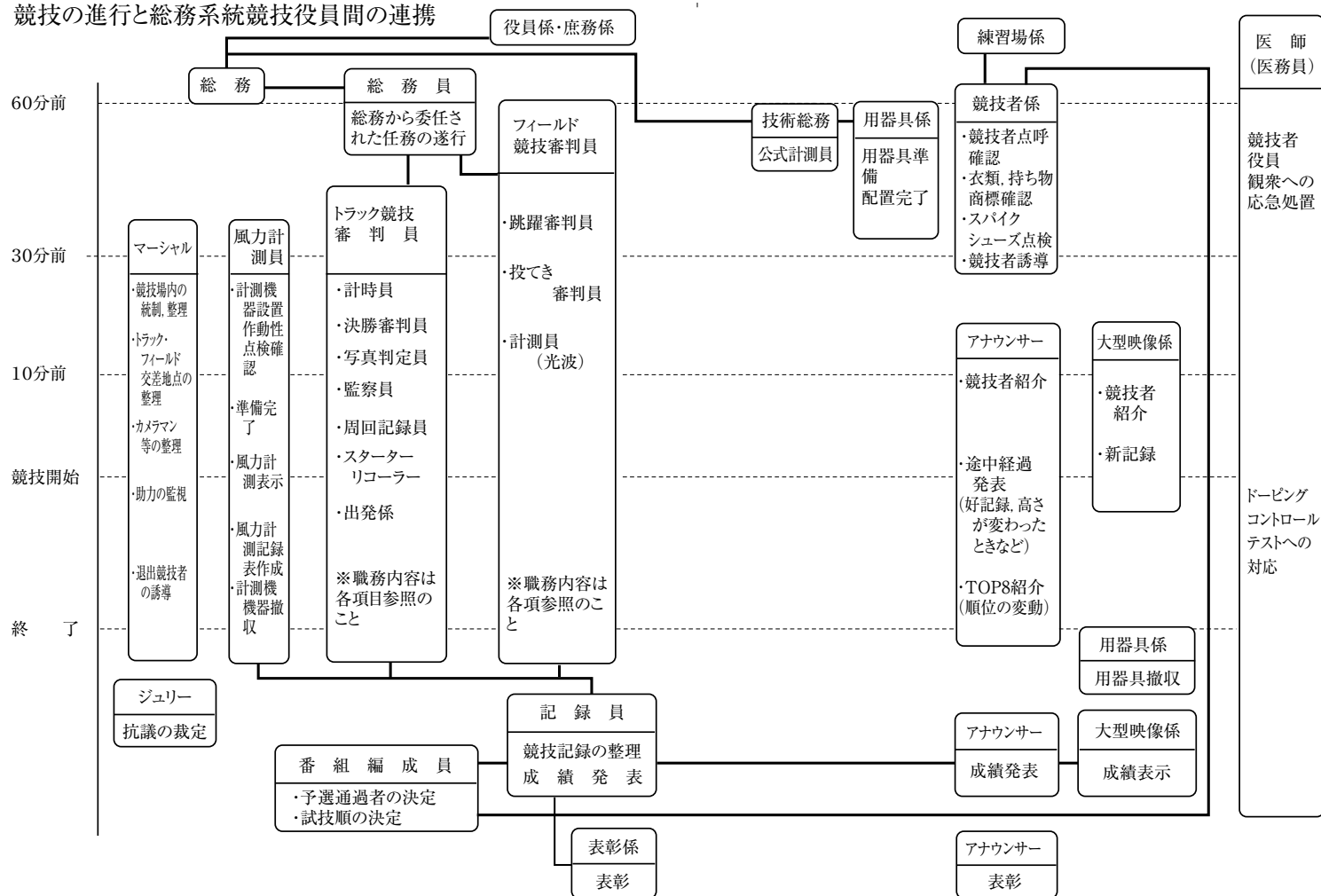
3 競技日程の遅延を防ぐために

以下は、過去の事例から競技日程の遅延の原因となりやすい事柄である。原因を探り、遅れの回復の手立てを見つけ出すための参考にしたい。

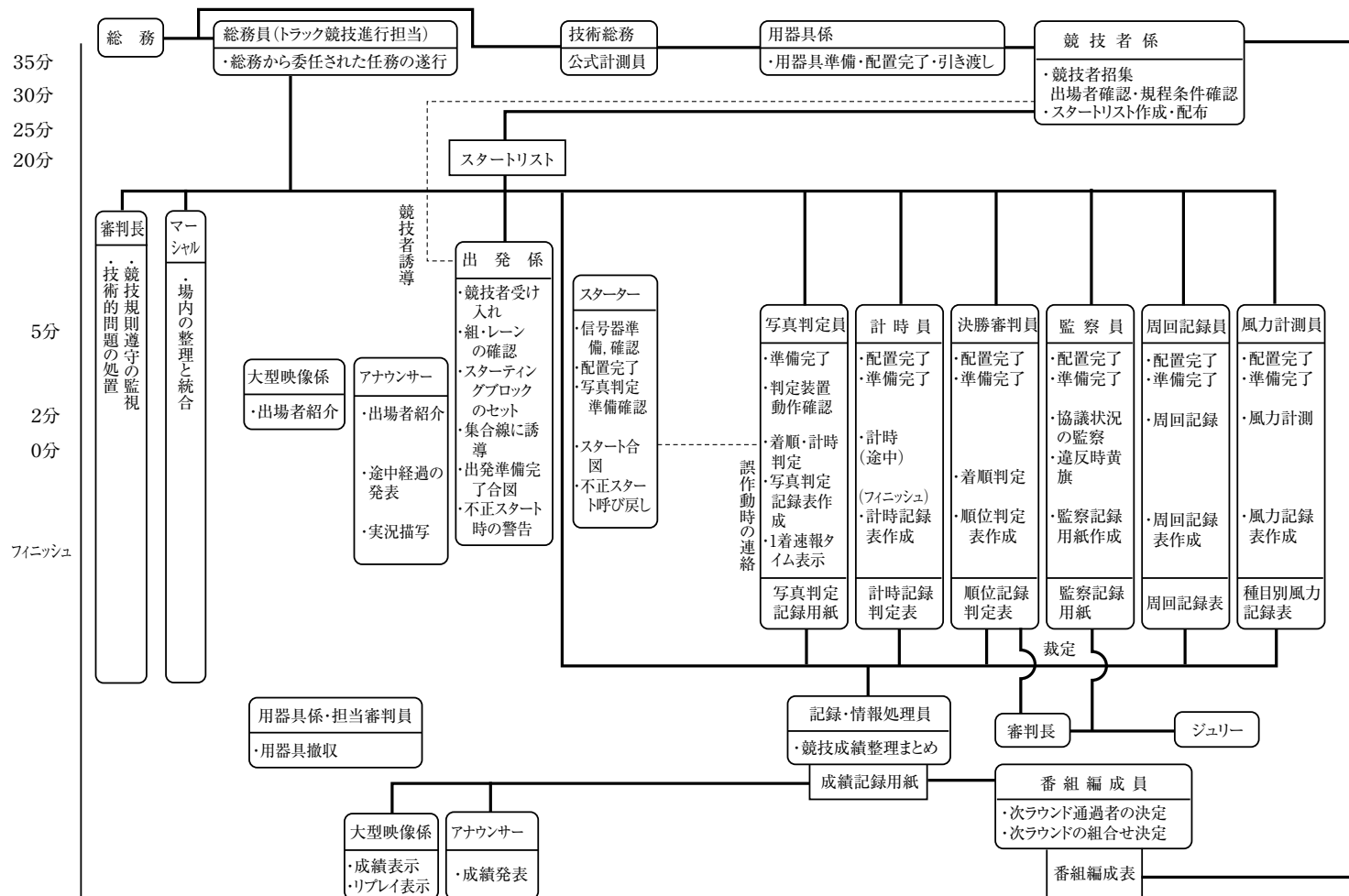
- ① 競技日程作成時の検証不足（競技場の大きさや広さによる招集所からの移動時間、日程が出場人数に適しているか、スターターの移動を考慮したものか、フィールド種目とトラック周回種目との重なり等）
- ② 競技役員の集合時刻設定が遅いことから発するすべての部署の準備遅延
- ③ 招集完了時刻が適正でないことや、人手不足などによる招集業務の遅延。リレー種目では各コーナーへの誘導が手際よくできているか。
- ④ 番組編成用紙、スタートリスト配布の遅延
- ⑤ 雨天荒天時対応の検討不足

- ⑥ トラック競技でのスターティングブロック設置の遅延・バトン準備の失念・ハードルの置き間違い・写真判定システムの不具合や微妙な判定，スタート関連の連携の滞り等
- ⑦ フィールド競技の誘導の遅延，練習方法の徹底不足，選手紹介や練習開始時の要領の共有不足，呼び出しのタイミングの悪さ，砂場ならしに時間がかかる，試技時間のカウントダウンを競技者に合わせている，TOP8選定の不手際，機器の故障等。
- ⑧ ハンマー投で，右投と左投が混在し補助パネルの操作に時間がかかる。

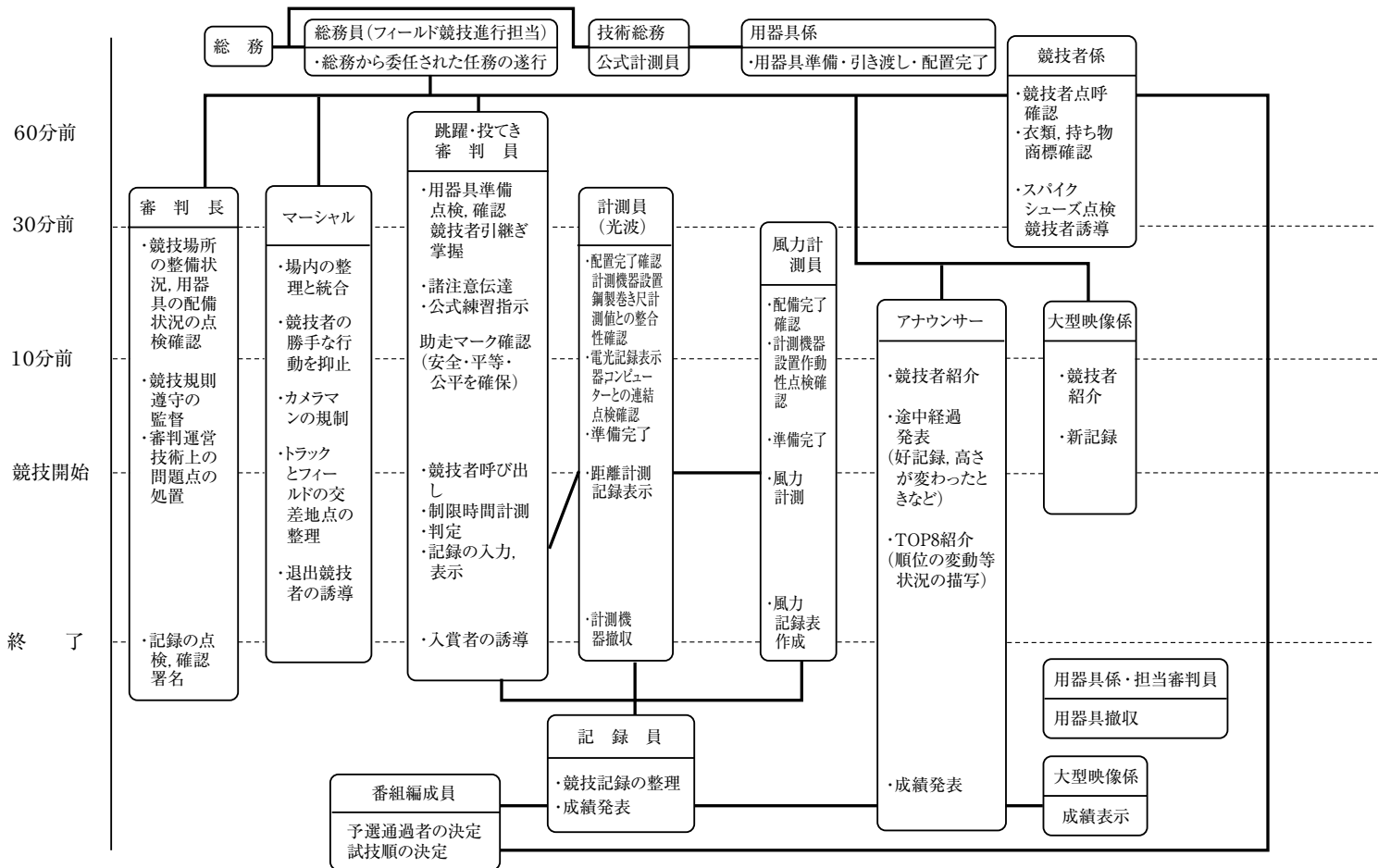
競技の進行と総務系統競技役員間の連携



トラック競技の進行と競技役員間の連携



フィールド競技の進行と競技役員間の連携



総括進行表の例②（第94回日本陸上競技選手権大会進行表）

第3日目 6月12日(日) TV放映 NHK総合:16:00～18:00(予定) Live

時刻	開始時刻	競技種目等	ラウンド	人数	トラック競技					S	映	速	R		
					誘導時刻	競技紹介	スタンバイ	予定時刻							
								招集	アナ					出発	アナウンス
14:30			(担当役員)												
	14:45	女 100mH 準決 (2-4)	1組	8	14:30	14:42	14:43	43	46	46	47				
	14:51	女 100mH 準決 (2-4)	2組	8		14:48	14:49	49	52	52	53				
	14:55	女 100mH 決勝リスト発表													
15:00															
	15:15	男 100m 準決 (2-4)	1組	8	15:00	15:12	15:13	13	16	16	17				
	15:21	男 100m 準決 (2-4)	2組	8		15:18	15:19	19	22	22	23				
	15:25	男 100m 決勝リスト発表													
15:30	15:30	女 400mH 決勝	1組	8	15:15	15:27	15:28	28	32	32	33				
	15:45	女 800m 決勝	1組	8	15:30	15:42	15:43	43	48	48	49				
16:00															
	16:05	男 800m 決勝	1組	8	15:50	16:02	16:03	03	08	08	09				
	16:15	男 400m 決勝	1組	8	16:00	16:12	16:13	13	16	16	17				
16:30	16:30	女 200m 決勝	1組	8	16:15	16:27	16:28	28	31	31	32				
	16:45	女 100mH 決勝	1組	8	16:30	16:42	16:43	43	46	46	47				
17:00	17:00	女 5000m 決勝	1組	21	16:45	16:55	16:57	57	17:18	17:18	17:20				
		スタート後紹介				16:58	16:59	17:00	17:18	17:18	17:20				
	17:25	男 5000m 決勝	1組	44	17:10	17:20	17:21	21	41	41	46				
17:30		スタート後紹介				17:23	17:24	25	41	41	46				
	17:50	男 100m 決勝	1組	8	17:35	17:47	17:48	48	51	51	52				
18:00															
18:30															
19:00															

S:スタートリスト紹介、映:リプレイ、速:記録速報、R:結果報告、Eは掲示終了、数字は発表時間

S		R		大型掲示			時刻	フィールド競技					表 影	
実行時刻		表彰			S	R		E	跳躍		投てき			
		表彰							男走高跳	女走幅跳	女円盤投	男砲丸投		男やり投
							人数	22	19	16	13	22		
							14:30	競技開始		030 表彰			30女:円盤投	
									招集完了					
									練習開始					
							14:50				招集完了			
							15:00			00 表彰	練習開始	00男:砲丸投		
									紹介					
							15:15		競技開始					
							16:18	28	33			紹介		
											競技開始			
							16:22	43	49					
							16:00							
							16:48	03	09					
							16:51	13	17				18女:400mH	
													22女:800m	
									TOP8					
							18:15	28	32					
							16:30	競技終了						
								結果発表						
							17:30	43	47				48男:800m	
							16:50		競技終了		TOP8	51男:400m		
									結果発表					
							17:43	57	17:20					
								17:00	17:20					
							17:20					競技終了		
												結果発表		
							18:11	21	46				30女:100mH	
								25	46					
							17:30							
													43女:5000m	
							18:25	48	52					
							18:00	00 表彰	03 表彰				00男:走高跳 03女:走幅跳	
											06 表彰	06男:やり投		
												11男:5000m		
												15女:200m		
													25男:100m	
							18:30							
							19:00							

フィールド競技進行表の例①（第 94 回日本陸上競技選手権大会跳躍進行表）

第3日目 平成23年6月12日(日)					TV放映 NHK総合 16:00 ~ 18:00 (生中継)							
競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
14:30	男 走高跳	B	22	予定時刻	13:30	13:40	13:50	13:52	13:55	14:25	14:30	2m05
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 2m33(2006:90回日本選手権) 池田(現:井村)久美子(XX*)			船橋直幸 PB 2m33 3連覇を含む5回優勝 高根広海(日 JZCT)PB 2m24 前年度優勝				
15:15	女 走幅跳	メイン	19	予定時刻	14:15	14:25	14:35	14:40	14:45	15:10	15:15	15:15
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 6m86(2006:国際CP大阪) 池田(現:井村)久美子(XX*)			神見 咲智子(九重工)PB 6m85 山 沙英子(山口TC)PB 6m56			岡山	
					大会記録7m09(74回) R ベレズネヤ(ソ連) 日本人最高:6m82(85回)花岡麻帆(office24)			井村(田:池田)久美子(IDEAR) SB:6m54				

競 技								結 果		備 考
2回目開始	3回目開始	3回目終了	トップ8発表	4回目開始	5回目開始	6回目開始	競技終了	競技所要時間	結果発表	
2m10	2m15	2m19	2m22	2m25	2m28				18:00	
15:35	15:55	16:15	16:18	16:20	16:30	16:40	16:50	1'35	16:55	18:03

フィールド競技進行表の例②（第 94 回日本陸上競技選手権大会投てき進行表）

第3日目 平成23年6月12日(日)					TV放映 NHK総合 16:00 ~ 18:00 (生中継)							
競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
12:30	女円盤投	A	16	予定時刻	11:30	11:40	11:50	11:55	12:00	12:25	12:30	12:30
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 58m62(2007:中部実業団) 室伏由佳(XX*)			室伏由佳:9連覇中(全11回優勝)				
13:00	男砲丸投	B	13	予定時刻	12:00	12:10	12:20	12:23	12:25	12:55	13:00	13:00
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 18m64(09:新潟国体) 山田壮太郎(法大)			山田壮太郎(富士通)PB 18m64 徳島 聡(旭化成)セーブ)PB 18m56				
15:30	男やり投	A	22	予定時刻	14:30	14:40	14:50	14:55	15:00	15:25	15:30	15:30
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 87m60(1989:国際CP) 廣口和洋(アーク)			村上 幸史(XX*)浜松AC)PB 83m15 11連覇中				
					大会記録 81m70(73回) 廣口和洋(アーク)			ティン元晃(早大)PB 79m10 井 藤(七十七銀行)PB 78m86				

競 技								結 果		備 考
2回目開始	3回目開始	3回目終了	トップ8発表	4回目開始	5回目開始	6回目開始	競技終了	競技所要時間	結果発表	
12:45	13:00	13:15	13:18	13:20	13:30	13:40	13:50	1'20	13:55	14:30
13:15	13:30	13:45	13:48	13:50	14:00	14:10	14:20	1'20	14:25	15:00
15:55	16:20	16:45	16:48	16:50	17:00	17:10	17:20	1'50	17:25	18:06

インカム配置の例（東京国体）

MMM		有線				有線・無線				トランシーバー	PHS
		1	2	3	4	5	6	7	8		
1	総務統括								SS-8		1
2	技術総務								SS-8		1
3	ジュリー（上訴）								SS-8		
4	トラック審判長					BR-5					
5	跳躍審判長									1ch	
6	投てき審判長									2ch	
7	進行統括								BP-8		
8	トラック進行			SS-3		SS-5		SS-7			
9	フィールド 進行	SS-1	SS-2								
10	表彰進行				SS-4						
11	フィールド 1・跳躍	BP-1								1ch	
12	フィールド 2・跳躍	BP-1									
13	フィールド 3・跳躍	BP-1									
14	フィールド 4・投てき		BP-2							2ch	
15	フィールド 5・投てき		BP-2								
16	写真判定					SS-5	BP-6				
17	スター・リユラー						BR-6				
18	スター・リユラー						BR-6				
19	監察主任					SS-5	BP-6				
20	監察 1					BR-5				3ch × 6	
21	監察 2					BR-5					
22	監察 3					BR-5					
23	監察 4					BR-5					
24	出発 1							BR-7			
25	出発 2							BR-7			
26	競技者 1（トラック）			BP-3							
27	競技者 2（フィールド）			BP-3							
28	マニヤル（場内指令）									4ch × 6	1
29	記録室					SS-5			SS-8		
30	周回記録					BP-6					
31	ミックスゾーン										1
32	用器具 1								BP-8	5ch × 3	
33	用器具 2								BP-8		
34	表彰				BP-4						
35	ドーピング室										
36	練習所										2
37	駐車場										1

	使用数	残	合計
BP（ヘルトバツク）	14	1	15
SS（スピーカー・カステーション）	13	2	15
BR（ブレスト）・無線インカム	9	7	16
PHS	7	0	7
トランシーバー	19		

技術総務

1 任務

技術総務は、競技会ディレクターまたは総務の権限の下で行動する。任務については、競技規則 CR16に記載されている。

国際競技会では、技術総務の下に副技術総務として複数の担当をおき、チームで任務にあたっている。国内競技会では技術総務の任務の一部を公式計測員（CR36〔国内〕）に任せている競技会もある。公式計測員は、2018年にWAの競技規則から削除され、日本独自の審判となっている。

- (1) トラック、助走路、サークル、円弧、角度、フィールド競技の着地場所および用器具が競技規則に合致しているかを確認する（CR16.1.1）。
- (2) 技術代表によって承認された競技会の技術的・組織的計画に従って用器具が準備され、設置・撤収することを確認する（CR16.1.2）。
- (3) 競技場所の設備や用器具等が前述の計画に従っていることを確認する（CR16.1.3）。
- (4) WA規則で行う競技会か国内規則で行う競技会か事前に確認する。WA規則ではルールブック〔国際〕事項となるので、使用する用器具など注意する。
- (5) TR32.2に従って、競技会に許可された個人の投てき用具を点検し、マークを付ける（CR16.1.4）。技術総務の担当あるいは〔国内〕公式計測員が行い、報告する。主催者が用意した投てき用具リストに掲載されていないものであることも確認する。技術総務が特に決めない限り、2個までの持ち込みが認められる。
- (6) WRk対象競技会では、投てき物は本連盟検定品かつWA認証品を使用するので（TR32.1）、使用される投てき物すべてが本連盟検定品かつWA認証品であることを副技術総務・〔国内〕公式計測員と協力して確認する。
- (7) TR10.1に従って、〔国内〕公式計測員〔国際〕有資格計測員か

ら必要な証明書を受け取る。(CR16.1.5) 日本陸連で公認競技場及び WA 認証競技場の検定をしている。検定報告書を競技場に閲覧できるようにしておくといふ。国際競技会は WA 公認競技場で行われるので、その報告書を閲覧できるようにしておく。

〔国内〕

1. 国内競技会での公認競技場は、公認競技会を開催し得る十分な精度のある適切な施設であることを確認した報告を受ける。公認陸上競技場の検定報告書を競技場に閲覧できるようにしておくといふ。
2. 投てき用器具の確認は、副技術総務の担当あるいは公式計測員 (CR36〔国内〕) が代わって行い、報告を受ける。
3. 技術総務の直接指揮下に、用器具係をおき、用器具係には各競技に必要な用器具を整備させ、開始前に配置、終了後に撤収させる。
4. マラソンコース、競歩コースが公認計測されたとおり正しく整備されているか確認する。スタートライン、コース表示板、km表示板、中間点、折り返し点標識、関門の器具・機材、競技に支障となる個所のコーン等の位置、給水・給食の設置等を確認する責任を負う。公式計測員が配置されている時には、連携して業務を行う。

2 競技会前の準備と留意点

- (1) 使用される競技場が、公認競技会として開催されるのに十分であるかどうか事前に調査をする。競技の実施が可能であるかどうかを技術総務、副技術総務あるいは〔国内〕公式計測員が確認する。もし、不都合なものがあれば、競技場管理者と折衝して整備を依頼する。
- (2) 競技場の機器、機材が使用するに可能な状態かどうか、用器具係に調査検討させ、不十分なものについて競技場管理者に整備を依頼する。
- (3) 常備用器具については管理者の了解を得て用器具係に検査させ、使用可能なものとその他のものを区別する。また競技会の規模に応じて、その員数を決定し、不足の場合には補充の計画

をする。

- (4) 競技実施種目および競技開始時刻が決定したら、競技場管理者にできる限り早く連絡し、用器具の借用と諸準備を依頼する。
- (5) 出場する競技者の記録から投てきの距離ラインを決定する。
- (6) 用器具係から、プログラムに基づく運営進行表を提出させて、競技の円滑な進行を図る。
- (7) 副技術総務の担当あるいは公式計測員から主催者が準備する投てき器具のリストを提出させる。
- (8) 主催者に許可された個人の投てき用具の持ち込み方法、返却方法を総務、技術総務、副技術総務の担当あるいは公式計測員と決定する。TICで持ち込み受付、返却する。返却の間違いの可能性があるので、投てき場では返却しない。
- (9) 道路競技では、距離ポイントを確認すると共に使用する用具の手配、確認をする。

3 競技当日開始前の準備と留意点

- (1) 縁石、スタートライン、フィニッシュライン、テイクオーバーゾーン、助走路の状況、投てき場所を角度線、投てきの距離ライン等を確認する。
- (2) 跳躍審判長と協議し、跳躍場所をあらかじめ決定する。
- (3) 投てき審判長と協議し、投てき場所をあらかじめ決定する。
- (4) 任命された競技役員に競技場の諸施設、用器具等の準備状況を説明する。そのためには現地の報告に頼らず準備段階で視察・確認しておくべきである。
- (5) 用器具は、用器具係主任に引き渡す。
- (6) 特に雨天時における準備態勢や危険防止の措置（ハンマー投の防護ネット、危険エリアへの立ち入り禁止措置）などの用意も必要である。走路、助走路の水分除去方法も、用器具係を指揮して措置する。
- (7) 副技術総務の担当あるいは公式計測員、用器具係から、それぞれの分担事項について報告を受け、正しい状態で競技が実施できることを確認し、その旨を各審判長と総務に連絡する。
- (8) 道路競技では、競技開始前に技術総務車で出発して、競技に

支障となる個所のコーン等の位置，スタートライン，フィニッシュライン，折り返し点，中間点，5 km毎のポイント，給水・給食の設置等のポイント，ラインが引かれていることなどを確認する。

4 競技中，競技終了後の留意点

- (1) 競技進行中は全体を監察し，たえず審判長や総務と連携を取り合い競技の円滑な進行を図る。
- (2) 競技実施場所を変更する場合は，審判長，総務・各総務員などと連携し対応する。ただし，風の強さや風向きの変化は競技実施場所を変更する条件ではないことを覚えておく必要がある。
- (3) 投てき競技において，世界記録，エリア記録，日本記録，U 20・U 18日本記録，室内日本記録，室内U 20・U 18日本記録が達成された場合には，副技術総務の担当あるいは公式計測員が達成された時に使用した投てき物の再検査を実施しなければならない。(CR31.17.4) 選手がどの投てき物を使用したか，担当投てき審判員は記録をしておく必要がある。
- (4) 使用した競技場の機器，機材，用器具が正しく返却されているか確認する。また，不具合や故障，破損などの報告を受け，競技場管理者に報告し，対応を協議する。

5 パラ種目の留意点

パラ種目が競技会で行われるようになってきている。パラ陸上の競技規則はWAの競技規則に基づくがパラ陸上独特の競技の競技規則は，WPA(World Para Athletics)の競技規則で定められている。パラの競技役員と確認しながら，間違いのないようにするべきである。

特にパラ種目では，以下のことに留意する。

- (1) WPA公認大会は国際競技規則が適用されて行われる。(国内適用は適用されない。)
- (2) 車いすの競技者のリレー競走ではテイクオーバーゾーンが40mとなる。テイクオーバーゾーンの入の設置が事前に必要となる。(出の位置は変わらない。) 競技場には40mの位置はマーキ

ングされていない。公式な種目として行う場合は、曲走路では、パラ種目のマーキングを競技場に義務付けしていないので、事前に所定の角度から設置しないと正確な位置が設置できない。

- (3) 視覚障害のクラス（T11およびT12）レーンのすべてまたは一部を走るトラック種目、車いすの競技者が含まれるリレー競走については、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるために、スタートラインの延長を行う。奇数レーンを割り当てて実施する。（例：第3レーンのスタートラインを第4レーンに延長する。競技者には2レーン分が割り当てられる。第3レーンとしてレースが実施される。）

また、ユニバーサルリレーにおいては、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるため、テイクオーバーゾーンのラインも延長する。この時第4走の車いすのテイクオーバーゾーンは40mとなる。

- (4) WPA競技規則「最初の50mで競技者の衝突が起きた場合にスターターが呼び戻しを行う権限を有する」とあるので、800m以上の車いす競走においては、スタートから50mの位置をマークしておく必要がある。マークにコーンを置く。
- (5) 車いす800m競走において、危険回避のために、ブレイクラインにコーンや角柱は置かない。その代わり、高さ1.5mの旗をインフィールド側とトラック外側に設置する。また、50mm×50mmの色付きの平らなマーカー（ガムテープでもよい）をブレイクラインに置くことができる。
- (6) 視覚障害のクラス（T11およびT12）の走幅跳は、1.00m×1.22mの長方形のパウダーゾーンが踏切エリアとなる。また、砂場の幅は安全確保のため、3.5mが強く推奨されている。3.5mの確保が不可能な場合は技術代表が追加的な安全措置（マットを両サイドに置くなど）を要請できる。
- (7) 投てき種目では、パラ陸上独自の重さの設定がある。
- (8) すべての座位投てき（F31～34およびF51～57の砲丸投・円盤投・やり投・こん棒投）は直径2.135～2.50mの円形の中心角34.92度から投てきを行う。特に座位やり投の中心角も34.92度である。

ジュリー (Jury of Appeal: 上訴審判員)

1 任務

ジュリーは TR8 に規定された抗議について裁定し、また競技会の進行中に生じた問題のうち、その決定を付託された事項について裁定することを基本的な任務とする。その決定は最終的なものである。しかしながら、新しい事実が提出され、それが規則に適合していれば、再審議してもよい (TR8.9)。

2 配置

全国的な競技会および国内の大規模な競技会では、通常3人または5人からなるジュリー（主任1人を含む）を任命する。国内競技大会では、ジュリーの秘書は任命しない (CR12 [国内])。

オリンピック、世界選手権大会などでは、大会の規程で WA 評議員が毎日5人～7人ずつ交代でつくことになっている。これにならって、本連盟が主催する国内大会では、主管団体選出のジュリーに加えて本連盟理事からも交代で選出され任務にあたることになっている。

裁定にあたって、上訴している者に関係するジュリーは任にあたるできないので予め代理を決めておくことが望ましい。

3 実施要領（抗議と上訴の手続きと裁定について）

1 競技者の参加資格に関する抗議の手続きと裁定

加盟団体（都道府県陸上競技協会）あるいは加入団体（クラブ、学校、職域）の責任者より、文書をもって、競技会の開始前に大会総務になされなければならない。

2 競技の結果または行為に関する質問・抗議の手続きと裁定

注）国内大会でも2024年から TR8.4.1 及び TR8.5 を適用することができるようになり、競技中に審判長に対し、ただちに口頭で抗議することが可能になった。但し TR8.4.1 は SIS 使用時のみである。

（a）担当総務員は、競技者又は代理人による質問・口頭による

抗議の受付時間やその内容を記録する。

- ・正式発表後30分以内、国内では「同一日に次のラウンドがある場合には15分以内まで受け付ける」というルールを適用している。

(b) 審判長から判定理由等を当該者に伝える。

注) 黄旗などの措置があった場合は、その内容を事前に把握しておく迅速に対応できる。

(c) 当該者が審判長の裁定に納得できない場合、競技者又は代理人、又はそのチームの責任ある代表者がさらに Jury に「上訴」することができる。この場合、審判長裁定後30分以内（同一日に次のラウンドがある場合には15分以内）に、担当総務員に「上訴申立書」を提出し、現金10,000円を預託する。担当総務員は預託金預り証を発行する。担当総務員は審判長を経て、Jury に回付する。

- ・担当総務員はそれまでの対応状況や説明を実施した時刻を記録する。
- ・担当総務員から Jury に状況を連絡する。
- ・抗議に部外者が介入すると、冷静な対応が阻害されるので、関係者以外の入室ができない抗議者控室を必ず設置する。
- ・上訴申立書を提出した抗議者は、裁定を待つ間、抗議者控室で待機する。
- ・上訴申立書のひな型は104ページおよび本連盟ウェブサイトを参照のこと。

(d) Jury は、申立書に基づき関係役員より事情聴取を行い、必要に応じて録画されたビデオ、証拠物件や関係書類等を確認し、Jury で協議して、裁定書を作成する。担当総務員は裁定書の内容を抗議者に伝達する。

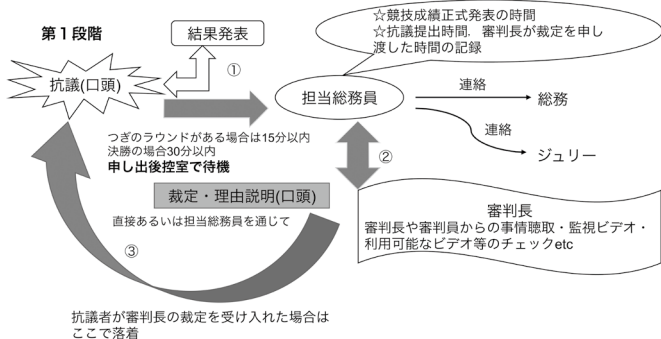
4 留意事項

- ① 競技中の Jury の席は競技場全体が見通せるような高い場所に設置すると共に、競技本部と連絡するための通信機器を準備する。
- ② 抗議と上訴の手続きについては、競技注意事項に明記し、監

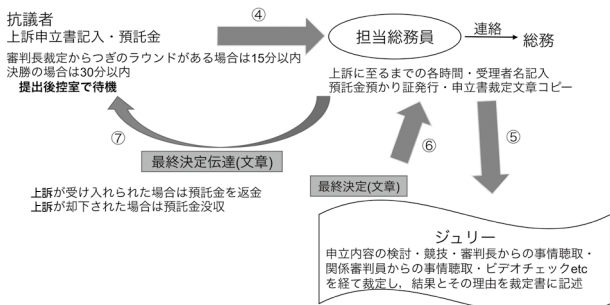
督会議などで説明しておくとい。

- 1 抗議者控室は、可能な限り個室を用意し、落ち着ける環境を確保する。
- 2 抗議受付場所を TIC としている場合、抗議担当総務員は TIC に常駐することが望ましい。

5 抗議提出から最終決定までの流れ



第2段階 抗議者が審判長の裁定を不服として上告が行われた場合



6 上訴申立書と記入例

この預託金が没収されることを了承いたします。

上 訴 申 立 書

No. _____

陸上競技規則 TR 8 により、金 10,000 円を預託して、下記の通り上訴申立てをいたします。

ただし、本申立てが却下された場合は、この預託金が没収されることを了承いたします。

西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

所属団体正式名または加盟団体名 _____

申 立 人 自 署 _____

記

競技会名 _____ 種目 _____

競技者氏名（ピブスNo. _____） _____

上訴理由

※以下主催者による記入

競技結果正式発表時刻 _____ 時 _____ 分

口頭による抗議申立て時刻 _____ 時 _____ 分 受理者自署 _____

審判長裁定時刻 _____ 時 _____ 分

上訴申立書受理時刻 _____ 時 _____ 分 受理者自署 _____

裁 定

裁定結果および理由

ジュリー代表自署 _____ (JAAF-34, 2020/12)

----- き り と り -----

領 収 書

No. _____

殿

金 10,000 円 上訴預託金として領収いたしました。 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

尚、上訴が受理された場合は、本書と引き換えに返金致します。本書を紛失した場合は返金できません。

競技会主催者名 _____

領収者自署 _____

(JAAF-34.2021/2)

上 訴 申 立 書

№ 1

競技規則TR 8により、金10,000円を預託して、下記の通り上訴申立てをします。

ただし、本申立てが却下された場合は、この預託金が没収されることを了承します。

西暦 2024年 x月 xx日

所属団体正式名または加盟団体名 ○○ クラブ

申立人自署 署 名

競技会名 ○○陸上競技選手権大会 種目 4×400mR 準決勝第2組

競技者氏名 (ピブス№ 147) △△ ○○

上訴理由

4×400mRの第2走者が△△が、第2曲走路出口から直走路付近を先頭で走行中、外側から追い抜こうとしたxxチームの競技者が、必要以上に肩や肘を入れてきたために、△△のバトンに当たって、バトンが手から落ちてしまった。審判長の裁定を受け入れられないので上訴した。

※以下主催者による記入

競技結果正式発表時刻 12時 13分

口頭による抗議申立て時刻 12時 25分 受理者自署 署 名

審判長裁定時刻 12時 35分

上訴申立書受理時刻 12時 40分 受理者自署 署 名

裁 定

裁定結果および理由

監察員の報告やビデオ記録によると、追い抜いていった外側の競技者は、故意に肩や肘を入れて△△競技者の走行を妨害したとは認められない。
よって審判長の裁定を支持する。

ジュリー代表自署 署 名

----- き り と り -----

領 収 書

№ 1

□□ □□ 殿

金10,000円 上訴預託金として領収しました。 西暦 2024年 x月 xx日

尚、上訴が受理された場合は、本書と引き換えに返金します。本書を紛失した場合は返金できません。

競技会主催者名 ○○陸上競技協会

JTOs (Japan Technical Officials) 日本陸連技術委員

1 任務

WAでは、オリンピックや世界選手権などの主要競技会に於いて、技術代表 (Technical Delegates: TD) および WAレフェリー (WA 審判長) をおいている。この WAレフェリーは、可能な限り競技が進行する各種目にそれぞれ1人、WAレフェリー主任によって指名され、その競技を担当することになる。日本陸連では2006年度から本連盟が主催・共催する競技会においては原則として JTOs (Japan Technical Officials 以下 JTO) をおいている。

かつて WAは International Technical Officials (ITOs) をおいて開催国の審判長を補佐する役割を与えていた。現在は ITOsが WAレフェリーとなり実際に審判長を務めることとなっている。一方国内では JTOの任務は従前のままとし、審判長の補佐役に徹することとしている。従って JTOに適用される規則は従前の ITOsのものであり、現行の〔国内〕として記載されている内容となる。

〔国内〕

1. 本連盟が主催する競技会には原則として JTOs (Japan Technical Officials) をおく。JTOsは総務の直下に位置づけられて、WAの WAレフェリーに準じた任務を行う。
2. JTOは、本連盟が承認した基準により選考試験を行い、理事会が認定する。
3. JTOはその種目の審判長に必要な支援を行わなければならない。JTOは、自身に割り当てられた競技種目実施中ずっと競技場所にいてはならない。JTOは競技が本連盟競技規則や競技注意事項等ならびに総務の最終的決定に従って行われていることを確認しなければならない。
4. 問題が起こった時や意見を述べる必要があると感じた場合は、最初の行動としては審判長に注意を促し、必要に応じて何をすべきかの助言をする。
5. もし助言が受諾されず、このことが競技規則や競技注意事項

あるいは総務の最終決定に明らかに違反している時は JTO が決定を下すことができる。それでも問題が解決しない場合は総務に付託する。

6. JTO は関係書類署名しなければならない。

〔注意〕 JTO は審判長が不在の時は、当該審判員主任とやり取りをする。

リレー競走（招待競技などではなく、正式プログラムとしての競技）が行われる場合には、JTO は各ティクオーバーゾーンの監察も行うこととしている。異常を監察した場合には各コーナー主任を通じて黄旗を掲げて審判長に連絡するか、JTO の専用無線を通じて審判長にビデオ記録を確認してもらうことがある。後者の場合、違反が確認されれば黄旗が揚がることなく審判長により失格の判定が下されることもある。

2 陣容

2025 年度は 54 名が有資格者と登録され、JTO として本連盟主催・共催大会、後援大会などで各種支援を行う。国内においては先述のようにレフェリー（審判長）としてではなく、審判長の補佐としてアドバイスをを行う。

原則としてトラック & フィールドの競技会では競技運営委員会委員をリーダーとして含む複数名で構成している。さらに複数日にわたって開催される競技会では、負担軽減のために走・跳・投の各種目に複数名を配置できるようにしている。本来、競技の責任者である審判長は 1 種目につき 1 名委嘱され、競技中ずっとその場にいるべきであるが、人材不足で 1 名しかおけない場合には JTO との連携を密にするべく事前の打ち合わせを周到に行う必要がある。現場における判断はまず審判長が行うべきであり、JTO は飽くまでアドバイザーに過ぎないことを確認しておく必要がある。

一方、ロードレース・駅伝の派遣は原則 1 名である。

JRWJs (Japan Race Walking Judges) 日本陸連競歩審判員

1 IRWJとJRWJ

国際競歩審判員 (IRWJs : International Race Walking Judges) はWAが育成認証する競歩審判員資格で、WAレベル (レベルⅢ) とAreaレベル (レベルⅡ) がある。WAレベルは、Areaレベルを取得後1年以上経過したのち、WAが行う INTERNATIONAL RACE WALKING JUDGES EVALUATION SEMINAR (IRWJES) でWAが定める基準に合格したものに与えられる資格である。Areaレベルの資格はWAが定める基準に合格した NTO 資格取得者が、本連盟の推薦を受けて、RDC (Regional Development Center) で行われる IRWJES でWAが定める基準に合格したものに与えられる。WAレベル、Areaレベル共に4年に一度更新試験が行われており、終身資格ではない。定年は70歳である。

JRWJは本連盟が認証する資格で、本連盟の主催、共催競技会では必ず任命しなければならない (TR54.3.3 [国内])。JRWJ 育成セミナー (JRWJ 規程第3条) ではIRWJESに準じて試験を行い、合格者をJRWJとして認定しており、その判定技能は国際レベルである。JRWJには上級資格としてS級があり、RWJECS (Race Walking Judges Education and Certification System) と本連盟が定めた試験に合格したものに与えられる (JRWJ 制度施行細則第7条)。なお、JRWJは全国各地でその判定技能や競歩競技の運営方法について普及する役目も担っているので、競歩競技会ではこれらのJRWJを活用していただきたい。

2 JRWJの競技会での任務

JRWJは、WAならびに本連盟が主催、共催、後援あるいは所管する競技会においてTR54に基づき競歩審判員の任務を行う。JRWJは主管陸協の競技役員と共に協調して任務を遂行する (JRWJ 規程第1条)。

3 JRWJの派遣基準

本連盟が主催共催する競技会への JRWJ の派遣は、開催される会場の地域性を勘案して競技運営委員長が決定し、委嘱する。それ以外の競技会への派遣は主催者が本連盟に派遣申請し、本連盟が審査したうえで派遣を決定する（JRWJ 制度施行細則第6条）。

4 S級 JRWJ

JRWJ で、WA が行う RWJECS で Level II または Level III の資格を得た者及び JRWJ の有資格者で本連盟が行う試験で本連盟が定める基準に達した者に与えられる資格である（JRWJ 制度施行細則第7条）。

5 JRWJの報告義務競技会役員

本連盟より競技会に派遣された JRWJ は任務完了後、2週間以内に報告書を本連盟に提出しなければならない（JRWJ 制度施行細則第8条）。

テクニカル・インフォメーション・センター (TIC)

テクニカル・インフォメーション・センター (Technical Information Centre : TIC) は、主に大規模の国際競技大会（オリンピック，世界選手権，ユニバーシアード，アジア大会，アジア選手権など）において設置される部署である。競技者，チームと LOC，大会主催者，技術代表とのコミュニケーションをとる重要な役割を果たす。競技会に対する要望なども受け付け，競技会を安全に適切に運営することにも寄与している。

1 任務

TIC は，競技会全体が WA 規則に沿って円滑に運営されるように，各選手団（監督，コーチ，選手）と競技役員（組織委員会，WA 技術代表等）の間に立って，必要な情報を関係者に提供することが主な任務となる。

日本国内で開催される全国レベルの競技会（例えば，日本選手権大会）では，TIC は主催者と競技者のコミュニケーションの（受付）窓口として，2010 年の日本陸上競技選手権大会で初めて設置された。競技場内の「競技者案内所（TIC）」という名称で，「質問・抗議の受付」「欠場届の受付」「持込競技用具の受付」「賞状（4～8 位）の配布」「遺失物管理」「記録証明書受付」「棒高跳ポール（送付・受付）輸送の手配」などを業務として担当した。

TIC は，大会期間中のサポートもさることながら，業務内容を整理し事前準備をしっかり行うことが業務を滞りなく遂行することにつながる。とはいえ，特に大規模国際競技大会（世界選手権等）のように TIC 業務を総合的に経験する機会は極めて限られるため，メンバーを早期に編成し，事前に準備に取り掛かることが肝要となる。

2024 年から国際競技大会では TIC をバーチャルに運営するか（Web 方式），実際に設置して運営するか，その両方を組み合わせて運営することができるようになった。また国内で設備や関係者の連絡体制を整えられるのであれば Web 方式の TIC を設置できるよ

うになった。

ここでは大規模国際大会での業務を想定して解説する。

2 配置

一般的には選手村と競技場に配置される。選手村ではSID(スポーツインフォメーションデスク)と呼ばれ、選手団の入村から競技開始までの様々な業務が行われる。競技場ではTIC(テクニカルインフォメーションセンター)と呼ばれ、競技に関する多数の業務が行われる。よって、人員の配置には配慮が必要である。

3 業務内容

両者の業務には多少の違いはあるが、主な業務内容は以下のとおり。

(1) 入村前準備資料

事前に準備しておくべき主な資料：エントリーリスト(チーム別、種目別)、チーム別の選手村チェックイン・チェックアウト予定表、最終の競技日程、各種申請書類等(3.(9)参照)。

(2) 入村手続き

入村時配布資料：テクニカルガイドブック(または、チームマニュアル)、監督会議質問票(監督会議前にTICにて受付、監督会議で回答できるよう技術代表に渡す)、最終確認書(チーム、種目別)、リレーオーダー用紙、上訴申立書、アスリートビブス、監督会議入場用パス(通常は各国代表者1～2名)、ピジョンボックスの鍵(ピジョンボックスがないこともある)等、必要な書類などを配布する。監督会議以降に入村するチーム(選手)もあるので、配布漏れ・連絡漏れを防ぐため、各選手団の入国(入村)、帰国(退村)予定表をもとにチェックし(受領者のサインをもらっておくとよい)、代表者・アタッシェの連絡先も同時に把握しておく。

(3) 監督会議(テクニカルミーティング)準備

会場内のレイアウトの確認(座席配置など)、参加チームのチェック、監督会議質問票回答の準備(通常は技術代表が準備し会議の場で回答する)、同時通訳者への情報提供等。

(4) ユニフォーム撮影（近年は省略されている業務）

競技会では撮影されたユニフォームだけが着用できる。入村時に各選手団の競技会用ユニフォームを撮影し、保停用メモリー（あるいはアルバム）に整理して技術代表、総務、表彰係、競技者係（招集所）に配布、TICでも保管する。撮影については以下の点を考慮する。

- 1 撮影漏れを防ぐため、入村受付からユニフォーム撮影までの導線の確保
- 2 撮影スペースの確保
- 3 デジタルカメラ、パソコン、カラープリンター、保存用メモリー（アルバム）、撮影用背景、ハンガー、留め具、商標サイズ判定用定規など必要用具・備品の準備
- 4 ユニフォームの商標やチームロゴ等のチェック
- 5 一度に多くのチームが入村しても対応できるよう、入村手続係と密な連絡をとり、迅速な撮影を心がける。
- 6 ユニフォームは全く同型のものでなくても、ランニングとレオタードなどで同じデザイン・配色でも可となることが多い。複数種類でも可のことがあるので、必要に応じ技術代表と確認をする。

TICではなく、事前にLOCが情報収集し、必要部署に配布する場合もある。

(5) 最終確認（ファイナルコンファメーション）の受付

最終出場者を確定させるため、当該種目の全エントリー競技者の最終確認書を受付、技術代表および番組編成担当業者に渡す。監督会議時および競技前日の指定時刻までに提出させる。

競技期間中は選手村・競技場のSID、TICで受け付けるので、受付完了分を確実に記録し、SID、TICで共有、必要に応じて欠場届も確認の上、未提出の場合は連絡をし、提出を求める。

特に監督会議終了時の提出は混雑を極めるため、余裕のあるスペースと、受付からチェック済コピーを返却するまでのスムーズな手順を確保したい。

(6) 情報提供

例：スタートリスト、リザルト（それぞれ、男女などで色分けす

ることがある), ディリープログラム, 招集時刻, 開会式・閉会式案内, 練習場案内(開閉門時間等), チーム関係者・選手輸送バス(選手村～競技場, 選手村～練習会場)時刻表, 気象情報, 総務や技術代表からの連絡事項および事務諸連絡まで必要な情報を掲示すると同時に, 各選手団のビジョンボックスに投函するかメールで連絡する。配布物が多いため, 帰国した国のビジョンボックスを閉鎖する等の管理も必要。なお, 最近はインターネットの活用で配布物が少なくなる傾向にある。

(7) 抗議・上訴の受付・対応(主に競技場 TIC)

競技に関する質問, 抗議, 上訴を受け付ける。受付時刻と公式記録発表時刻を確認・記録し, 抗議・上訴として受付可能かを判断する。同時に, 次の対応に備えて関係部署(総務, 審判長, 技術代表, 必要に応じて写真判定, ビデオルーム等, また, 上訴の場合はジュリーとも)と連絡を取る。たとえ口頭による簡単な質問や抗議であっても, 規則上は, 抗議の際の記録は必須とはなっていないものの, その内容を正確に記録しておく。

抗議受付の際は個別スペースを確保し, 飲み物を準備する等できるだけ落ち着ける環境を整備し冷静に対応する。必要に応じ専門の通訳者を付け, 回答者にはできるだけ文書で正確に内容を伝達する。ビデオ監察による判定を行っている場合は, 証拠としてそのビデオを質問者や抗議者に見せることになっているので, 必要に応じてビデオ監察審判長とも連絡を取る。

上訴の場合は預託金を受領, 預かり証を発行し, コピー, あるいは半券を保管する。ジュリーからの回答は掲示する。

(8) その他諸対応

上記以外に以下のような役割も担う。

1 各種視察等の受付

スタジアム視察, マラソン・競歩コース視察, Warm-up Meet, Starter's practice 等。

2 コーチ席の案内

フィールド種目にはコーチ席が準備されるので, その席へ案内する。チケットが必要な場合, 必要枚数を確認し, 各チームへ配布する。

- 3 リレーオーダー用紙の受付
受付時に、規則に則っているかを確認、チェックリストで管理し、技術代表、記録・情報処理員に回す。
- 4 アスリートビブス紛失時の再発行
ブランクのアスリートビブス、プリンターまたは各数字の型・マジック（赤黒等）、安全ピンをあらかじめ準備しておくといふ。リレーの国名が略称の時もある。
- 5 記録証明書申請 / ナショナルレコード申請時の必要書類発行の受付
証明書類への署名、リザルト写し、フォトフィニッシュ等、必要書類はその時々（国々）で異なるので、何が必要かを本人またはチーム代表に確認する必要がある。また、ナショナルレコードの場合はドーピング検査が必要な場合もある。関係部署が多岐にわたる可能性があるので、整理の上、早めに連絡をとり準備する。
- 6 有償ドーピング検査の付添者への連絡・対応
国により、ナショナルレコードにドーピング検査が必要なことがある。その場合は DCO (Doping Control Officer) に連絡の上、対応を確認する。費用を TIC で受領することもあるので、その場合は、領収書発行なども担う。
- 7 各種パスの管理
混成控室、フィールド競技のコーチ席、ドーピング検査の付き添い、練習場への入場、競歩ドリンクテーブルへの入場、翌日表彰の場合の待機場所（例えば TIC 等）への入場パス等の管理と配布。パスごとに受付簿を作り、枚数制限がある場合は重複がないよう管理する。
- 8 借り上げ投てき物の受理・返却
用具倉庫で行うこともあるが、TIC が受け持つこともある。借り上げ用の書類を準備し、必ず写し（半券）を保管する。実際の検査は技術総務が行い、合格の場合、附番した「合格シール」を投てき物に貼り（あるいは、直に投てき物に記載）、どの投てき物が誰のものを紐づけできるようにしておく。不合格になることもあるので、その際の本人への連絡方法も

確立しておく。返却の際は、書類と半券を確認し、間違いのないように返却する。

- 9 競技場持込禁止物品（スマートフォン、その他の通信機能を備えた機器、CDプレーヤー等）の保管・返却

通常、持込禁止物品は招集所で預かり、競技場 TIC で返却する。預かり品は封筒に入れるなど保管方法・場所を配慮の上、預かる際には受領書の写し（あるいは半券）を保管し、該当する選手に間違いなく返却する。

- 10 競技運営上の選手団要望書の取り次ぎ

関係部署と確認の上、回答を掲示する、あるいはビジョンボックスに入れる。

- 11 マラソン・競歩のパーソナルドリンク用容器の預かり、ラベル配布等

総務とも確認の上、受付時間を設定し保管用ボックス、ラベルの準備を行う。ラベルの記載、容器への貼付は、間違うと問題となることがあるので、選手（代理人）に直接行ってもらう方がよい。

- 12 競技場や練習会場への競技者やボールの輸送手段の案内

- 13 参加証（diploma）や記録証の配布

参加証は総務、記録証は記録・情報処理員など、関係部署とすり合わせの上、TIC業務かどうかを事前に確認し、必要に応じて担う。ただ、TICでは印刷は行わずあくまで配布窓口業務に留める。

- (9) 主な申請用紙の一覧

欠場届、リレーオーダー用紙、投てき物預かり証（＋半券）、個人持ち込み物預かり証（＋半券）、抗議受付用紙、上訴申立書（＋上訴預託金預かり証）、記録証明申請書、監督会議質問票、一般質問票、有償ドーピング依頼書（＋領収書）。

大会ロゴ入りで印刷できるとよい。

4 留意事項

- (1) 内容が多岐にわたるため、競技規則に精通することはもちろんのこと、ウォームアップからドーピング検査までの競技者の一連の動きや、他部署との連絡体制など競技会運営全体の流れを把握する。
- (2) 業務に漏れが出ないよう業務計画表（業務別、日程別チェックリストなど）を作成する。
- (3) 日本陸連競技規則と WA 競技規則の相違点（国際適用が基準）を理解し、大会要項なども熟知する。
- (4) 情報に相違が起きないように、競技場 TIC と選手村 SID とのホットラインを確立し、常時情報を 1 か所に集約し連絡ミスを防ぐ。
- (5) 各情報機器類（複合機、パソコンなど）、および必要文具を整備する。また、選手村 SID と競技場 TIC、TIC と総務など必要部署とのやり取り等のための通信手段（トランシーバー、IP 電話、メール、インターネット環境など）や、チーム閲覧用の PC の確保も必要。
- (6) 各 TIC に必要な言語の通訳者を確保する。また、通訳者は必ずしも陸上競技に精通しているわけではないので、その点にも配慮した運営が求められる。
- (7) 各国チームとの緊急連絡などに備えて、チームアタッシェ（各国チームに付く語学ボランティアなどの随行員）の具体的な仕事内容やその活動時間、連絡先などを確認する。

イベント・プレゼンテーション・マネージャー(EPM)

1 国内での運用

現在イベント・プレゼンテーション・マネージャー(EPM)は〔国際〕扱いとされ(CR17)、国内では指定された競技会にのみ、審判員ではなく、それを職業としている専門家を本連盟が任命している。但し、その任務は進行担当総務員と重なる部分が多く、進行担当総務員とEPMが協力しながら競技会を進めていく。EPMが任命されていない競技会では、進行担当総務員がEPMの果たす役割も含め、競技進行业務全体を担う。

2 EPMの役割

大型スクリーンを活用したVTR再生(リプレイ)の表示や音楽の効果的な活用などの企画も含め、「見(魅)せる競技会」を実現するための広範囲かつ専門的な役割を担っている。

- (1) 場内アナウンス、進行連携(放送、表彰、タイムテーブル管理)、大型スクリーン、フィールドイベントボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理等を織り込んだ図表等を含む「イベントプレゼンテーション実施計画(以下EPプラン)」を作成し、主催者(組織代表、技術代表)の承認を得る。
- (2) EPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を行い、総務と協働して進捗管理を行う。
- (3) 進行表を作成し、競技会で起こり得る事象についてあらかじめ検討し、解決策を準備する。
- (4) 競技会における進行・演出に関し総務から判断を委任され、EPプランと事前に策定した進行表に沿って競技会をコーディネートする。競技全体や審判員の動きを観察し、トラブル発生時には早期に対応ができるように心がける。

3 観客が満足する競技会演出

観客やテレビを通じて観戦している人々が満足し、競技者がベス

トパフォーマンスを披露できる競技会にするために特に留意するべき点は以下のとおりである。

- (1) 多種目が同時に展開し、観客が注目すべき場面は刻一刻と変化する陸上競技会特有の状況下で、「今、注目の種目は何か」を的確に把握し、注目させるという役割が求められる。注目種目がフィールド競技の場合には、トラック競技の進行を一時的に遅らせるということもある。
- (2) 生放送のテレビ中継では、中継局のディレクター等と連携し、中継が円滑に行えるように協働する。中継局とは進行表を元に、事前に綿密な打合せを行っておく。

中継局側の意向を踏まえつつも、全体のコントロールはEPMが行うという役割分担の明確化が重要である。

4 EPプランで検討される事項

主催者の意向、競技会の性質、出場者のレベル、関係者の役割・配置等を考えた上での詳細なEPプランが必要不可欠である。

(1) 策定の基本となる項目

- 1 アナウンスの方針、トラック競技とフィールド競技のバランス
- 2 アナウンサーの分担内容
- 3 大型映像装置への具体的な表示内容と活用方法
- 4 音楽と音響効果
- 5 役員相互の連携と連絡手段・方法

(2) 選手紹介のプレゼンテーション

競技開始時刻とは、トラック種目なら「On your marks」のコマンドがかかった時、フィールド種目は旗上げのタイミングである。EPプランはこの時刻を基準に組まれる。

- ・トラック種目なら短距離種目、長距離種目、リレー種目それぞれの選手紹介方法、ラウンド毎（予選、準決勝、決勝）の選手紹介方法等について。
- ・フィールド種目なら競技開始前に全員を紹介するのか、TOP8時なのかや、選手の並び方等について。

最近では、競技開始前に全員を一人ひとり映像・アナウンスで紹介

介し (One by One), TOP8は大型映像装置に文字情報を表示し、アナウンスすることが多い。

(3) 競技描写のプレゼンテーション

アナウンスのみか、大型スクリーンを使用し、画像と合わせるのか、フィールドイベントボードに何を出すか。ラウンドや人数による濃淡をどのようにつけるのか。

(4) 場内インタビュー

タイミング、実施場所、実施種目、TV中継局や報道係との連携方法、表彰係との連携確認、予定所要時間。

(5) 表彰式

表彰式のタイミングと実施要領、想定所要時間、プレゼンターの立ち位置、プレゼンターが複数いた場合の分担等。式典表彰マニュアルにて定められている場合は、その内容も考慮する。

(6) オープニング・エンディングとスポンサー紹介など

内容と所要時間の検討、アナウンス要領、ハイライトシーン映像の手配、スポンサー VTRの掲出予定時刻と内容等。

アナウンサー

1 任務

アナウンサーの任務は〔国内〕CR35に記載されているが、これらに加えて、「見（魅）せる競技会」実現への重要な役割を担っている。アナウンスのタイミングや言葉が選手や観客に大きな影響を与えるということを自覚して、事前準備を行い、マイクに向かう必要がある。

2 アナウンスする上での留意点

競技会におけるアナウンサーは、選手や観客、競技役員へ伝えるべき情報を正確かつ迅速に伝えることが第一の任務であり、アナウンサー自身のパフォーマンスのためにマイクに向かうわけではない。競技会を盛り上げるために求められることは、個性の強い喋りや絶叫することではなく、公正かつ冷静な姿勢で、その場にいる誰もが知りたい情報を的確に選び、タイムリーにコメントできる力量である。関係部署とのスムーズな連携に向けて、事前の打合せを行い、観客等がわかりやすいアナウンス内容にするためにも競技規則に精通し、出場選手の戦績の下調べ等の準備が重要になる。

- (1) アナウンスする時は、喋って良いタイミングかどうかを必ず確認する。トラック競技でスタートのコマンドがかかっているか、フィールド競技で今まさに助走を始めようとしていないか、投げるモーションに入っていないか等、全体をよく見て判断する。
- (2) 成績発表は情報を入手したら、できるだけ早くわかりやすく発表する（大型スクリーンへの表示を含む）。また抗議があった場合に備え、発表時刻を記録する。
- (3) トラック競技の途中時間は、ポイント通過後、速やかにアナウンスする。また、1着の速報をどのような要領でアナウンスするかについても関係者間で事前に決めておく（フィニッシュタイマーを用いる、ライブリザルトを活用する等、競技場設備により異なる）。

- (4) フィールド競技については、可能な限り1回ごとの試技を描写するように努める。競技会運営システム（以下「システム」）を使用していない競技会や、システムを使用していても手元に情報が届かない場合等は、フィールド競技審判員と連携して、記録表示器を活用する、無線等で情報を伝えてもらう、競技場所でワイヤレスマイクを用いてアナウンスする等の方法を検討する。
- (5) 大型スクリーンがある競技場では、文字や映像の表示に合わせてアナウンスすることを心がける。
- (6) PCを使用する競技会では、記録用紙などの紙媒体ではなくモニターを見ながらアナウンスできるようにする。迅速なアナウンスのため、また書き間違いの可能性があるので手元で紙に書き写すことはしない。
- (7) 日本陸連公式ウェブサイト・掲載の「陸上競技アナウンサーのしおり」「陸上競技のアナウンサー～初めてマイクに向かう人に～」にアナウンサーとしての心構えや数字の読み方を含めた基本的な言い回し、状況別のアナウンス方法、具体例等、実務についてまとめてあるので参照のこと。
- ・日本陸上競技連盟ウェブサイト委員会情報_競技運営委員会
<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>

3 注意喚起や連絡事項のアナウンス

- (1) 競技開始前やウォームアップエリア開放時の注意（対競技者）
事故防止の注意喚起、使用レーンの制限、芝生への立ち入り制限や禁止、投てき練習についての注意、練習時間等。
- (2) 競技上の注意（対競技者）
時刻規正、招集時刻や招集場所、持ち込み投てき物の取り扱い、リレーオーダー提出場所や時刻、表彰状や記録証の渡し方や配布方法について等。
- (3) 全般的注意（対観客）
熱中症対策、盗難防止対策、貴重品管理、迷惑撮影禁止、不審者警戒、応援マナー、場所取り禁止、緊急呼出（迷子）への対応、火災や地震の災害時における避難誘導等。

尚、競技に関係すること以外のアナウンスは、総務に確認をしてから行う。

4 選手紹介のアナウンス

選手紹介のアナウンスは、トラック競技とフィールド競技でやり方が異なるため、イベントプレゼンテーション実施計画（以下「EPプラン」）等があれば、要領を確認しておく。EPプランを作成しない競技会では、総務との間で要領を決め、競技会開始前の打合せでアナウンサーをはじめとする関係者が情報共有をする。

(1) トラック競技

- ① レーンナンバー・名前・所属を紹介する Lane by Lane (L by L) にするのか、組数・欠場レーン・出場人数のみの紹介とするのかにより、出発係からの準備完了連絡のタイミングが異なる。例えばレーンを使用するレース（出場者8名）なら、「On your marks」のコマンドまでのおおよその所要時間はL by Lが1分ほど、組数等のみなら15秒ほどとなる。過密ダイヤの場合は、予選は人数のみ、準決勝・決勝からL by Lを行う等の打合せをしておく。
- ② 見どころは、観客の注目を集めるためにも選手がトラックに姿を現し、流しをしている間に紹介したい。状況にもよるが、決勝では種目紹介を始めたら、他の種目のコメントを挟むことは避け「種目紹介（見どころ）→L by L→スタート」の一連の流れを意識する。
- ③ 最近ではビブスナンバーを言わないことが多い。予選では苗字だけ、準決勝・決勝からフルネームでのL by Lとする等、メリハリをつけてもよい。
- ④ 大規模競技大会（GGP、日本選手権等）では、最近は「くん・さん」をつけないことが多い。これは主催者の意向によるものであり、国内すべての競技会がこれにならう必要はなく、それぞれの競技会の性質に合わせて方針を立てればよい。
- ⑤ 長距離種目の場合でも、L by Lはスタート前を原則とする。人数が多い等の理由で、スタート時間が遅れると判断した場合はスタート後にせざるを得ないが、出発係、関係部署とは

事前に基本方針の打合せをしておく。

(2) フィールド競技

- ① 選手をフィールドに並べて試技順に名前と所属を紹介する One by One (O by O) にするのか、組数と欠場者・人数のみの紹介とするのか関係部署と打ち合わせをしておく。予選は人数のみ、決勝はフルネームでの O by O 等、トラック競技と同じ方針で行うことが多い。
- ② O by O の要領については、事前にフィールド審判員と打ち合わせをしておく。競技場所に遠い方から試技順に並ばせ、紹介された選手から待機場所へ戻るというやり方が多い（いずれもピブスナンバーは省いてよい）。
- ③ 予選通過標準記録がある場合は、その記録を伝える。予選で通過標準記録突破者が12名に満たなかった場合は、決勝ラウンドに進出した α の選手の記録も伝える。
- ④ 練習がある程度進んだところで種目紹介を入れておき、競技開始直前に O by O を行うことが多い。席の移動が可能な競技会であれば、予め種目紹介をしておけば、観客がアナウンスを聞いて競技場所近くに移動することもできる。O by O のおよその所要時間は、12名で1分～1分10秒を目安として、競技開始時刻に遅れないタイミングで始める。
- ⑤ 競技開始の「旗上げ」とアナウンスの同期をとってもよい。競技開始のコメントが適時にできない場合は、アナウンスを待つことなく競技開始時間に合わせて旗上げするよう、フィールド審判員に伝えておく。旗上げとアナウンス同期のために準備を終えている競技者を待たせる必要はない。

5 競技の描写

トラック競技を優先しがちだが、「トラック競技の予選よりはフィールド競技の決勝や最終局面、大会記録挑戦等が優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方で意識統一する。「トラック競技の合間にフィールド競技を入れる」のではなく「フィールド競技の合間にトラック競技を挟み込む」といったイメージで描写を入れると、フィールド競技をより際立たせることが

できる。フィールド競技で好記録が期待できる場面と、トラック競技のスタートが重なりそうな場合は、トラック競技の選手の入場を遅らせるなどの措置ができるよう早めに判断し、出発係との連携をとる。

進行担当総務員やEPMがいなければ、アナウンサーがどの種目を選んでコメントするかを判断しなくてはならない。主任や可能ならばその時間に担当が外れているアナウンサーが進行役となり、どの種目に注目してコメントするかを的確に選択したい。進行役を中心に連携がスムーズにできるよう、自分の担当する種目だけでなく、同時に行われている種目の進捗状況を把握する必要がある。自分の担当種目の状況など声を掛け合いながら進めていくとよい。

(1) トラック競技

- ① 見ればわかることをあえてコメントする必要はない。

不要なコメントの例：「100m競走がスタートしました」「接戦です!」「バトンは第2走者に渡りました」「最終コーナーを回り最後の直線です」「先頭は鐘がなりましてあと1周です」

- ② 短距離種目ではコメントを入れず、「見せる」ことに徹してもよい。

決勝レースでは、声援でかき消されることが多い。沈黙がレースを引き立てることもある。

- ③ 中長距離種目では、途中の通過タイムからフィニッシュタイムを予想、大会記録等の更新可能性がある場合は強調する。

- ④ スタートのやり直しについての説明は、不正スタートや警告(YC)については、名前ではなくレーンナンバーと警告の内容を、また、原因が選手以外にある場合はその内容を(機器の不具合等)、それぞれ簡潔に説明する。体が動いたなどの理由でグリーンカードが示された場合は、コメントしなくてもよい。事前にスタートチームと打ち合わせをしておく。いずれにしても迅速なリスタートにつなげたい。スタートのやり直しは、最初の1～2回にとどめ、状況に応じてコメントなしでも構わない。事前にその旨を出発係やスターターに伝えておく。

- ⑤ フィニッシュタイマーを使用している場合、トップがフィ

ニッシュした後、一旦表示が消えてレーンナンバー・記録・風向風力が表示された場合は、その記録は確定されたものであり、それが新記録であれば、新記録の誕生となる。ただし、黄旗が挙がっている場合は、正式結果を待つようコメントし、記録確定後あらためて新記録を称える。

(2) フィールド競技

- ① トラック競技の進行状況にも留意し、可能な限り試技毎に描写を入れる。次に試技をする選手の名前だけの紹介ではなく、記録と現在の順位、トップや上位との差等もあわせてコメントする。また、日本新、大会新、歴代〇位、自己ベスト、シーズンベスト等についてタイムリーにコメントするためにも、最新の情報収集は欠かせない。
- ② 可能であれば大型スクリーンに、各ラウンド終了時点でのライブリザルトを表示してもらい、上位選手の紹介をする。TOP8選出前ならその時点での8位の記録(選手名は不要)を言うと、選手全員に対しても必要な情報提供となる。
- ③ TOP8の記録と4回目以降の試技順については、すぐに確認し、可能な限り4回目の試技に入る前に発表する。システムを使用する競技会では、大型スクリーンにTOP8を表示することで、正式発表とすることもある。TOP8は、確定され次第すぐに発表するべきであり、競技場所で競技役員が該当選手に口頭で伝達する前にアナウンスしてもかまわないので、発表のタイミングと方法をフィールド審判員とも事前に打合せておく。
- ④ 2番目の記録や無効試技数等で同記録でも順位に差が付くこと、高さを競う種目での試技時間や、ジャンプオフのやり方等の競技規則を理解しておく。必要に応じてルールの説明をする。
- ⑤ 複数のフィールド競技が同時に進行している時には、担当者間で優先順位を決めておく。6回目の試技、大会記録への挑戦等、佳境に入ってきた種目を重点的にアナウンスする。観客の立場からすると、「走高跳は〇〇」「走幅跳は△△」「やり投は□□」のように複数種目を間髪入れずに紹介することは、

どの種目に注目したらよいか混乱し、かえって興味を削がれることになるので避ける。フィールド競技を続けて取り上げる際には、「A種目の描写＋続く3名程度の選手の紹介」「B種目の描写＋続く3名程度の選手の紹介」を一括りとする。トラック競技（特に短距離の場合）の組を挟んで「トラック1組→フィールドA→トラック2組→フィールドB」のように描写のパターンを作るとよい。

- ⑥ 競技終了を伝えるときは、できるだけ1位の選手と記録を合わせて発表する。「旗下ろし」（旗閉じ）とアナウンスの同期をとってもよいが、「旗上げ」同様、アナウンスのために待たせる必要はない。

(3) 混成競技

各種目の結果を発表したあと、累計得点をアナウンスし、順位の変動等のコメントを入れられると良い。更に、その得点差が次の種目の記録に換算して何秒（センチ）差なのかを伝えられるとなおよい。

6 結果発表（リザルト）

- (1) 何着（位・等）まで発表するか、フルネームか、苗字のみか等を統一する。大型スクリーンを使用しない競技会では、聞き手がプログラムに記入することを考慮して、レーンナンバー・試技順等を伝えてもよい。
- (2) トラック競技では、ライブリザルト→リプレイ（VTR）→結果確定まで一連の流れで行うことを意識する。ライブリザルトの途中で画面がリプレイに変わっても、手元のモニターを見ながらライブリザルトのアナウンスを継続して良い。ただし、判定に時間がかかり、タイムテーブルが過密な場合は、この一連の流れにならないこともあり、臨機応変の判断が必要である。アナウンサーの人員不足や過密スケジュールの場合は、結果発表は記録用紙の掲示をもって行う（個別読み上げしない）ことも選択肢のひとつである。最近ではウェブサイトで結果を公表することも多くなり、その場合はアクセス方法を案内する。
- (3) 日本新、大会新、可能であれば歴代〇位、自己ベスト、シー

ズンベスト等のコメントを入れる。大型スクリーンやシステム使用の場合は、記録に略号を併記して表示するものもあるので、その意味も理解しておく。

- (4) 次の項目は、結果発表に説明を加える必要があり、競技規則の理解が不可欠となる。
- ・同着（位）の場合、同タイム着差ありの場合
 - ・DQ, DNS, DNF等の略号の意味や、失格の理由について（失格理由が略号表記されている場合は、競技会によって内容が異なるので、事前に確認しておく）
 - ・トラック種目で、時間で次ラウンド進出者がある場合
 - ・トラック種目で、着順で次ラウンドに進む枠で同着が出た場合
 - ・フィールド種目で予選通過標準記録突破者が12名を満たさず + α がある場合等。
- (5) 抗議があった場合に備え、結果発表時刻は補助員等に進行表やプログラムに記入させるとよい。システムや大型スクリーンを使用する場合は、当該部署に時刻の記録を依頼してもよい。
- (6) 大規模大会では決勝の「フィニッシュ（優勝決定）→優勝者・記録発表→花束贈呈・フラッシュインタビュー→正式結果発表」まで一連の流れで行うことがあるので、その要領についてEPMや進行と共通認識をもっておく。

7 表彰アナウンス

表彰係と表彰方法についての打合せをし、要領を決めておく。

- (1) 各種目の表彰予定時刻を設定しておく。
- (2) 表彰実施のタイミングをよく考える。競技進行の妨げにならず、また、表彰対象者を長時間待たせないようにする。競技日程や競技の進行状況にもよるが、トラック競技がスタート前の準備段階であればスタート前に、長距離種目が行われている場合には1000m毎のラップタイムをアナウンスした直後に表彰を行うことが多い。出発係、大型映像係、表彰係の各部署と無線等で連絡を取りながら、競技進行に支障が出ないように、また表彰関係者の入場タイミングがずれないようにする。

- (3) 表彰は成績発表後に行わなければならない。抗議があることを想定し、原則として成績発表後30分空ける。
- (4) 表彰方法を確認する。
 - ・何位まで表彰するのか、順序は1位からか、3位からか
 - ・プレゼンターの立ち位置・導線、賞状は読むのか、渡すだけか
 - ・何を渡すのか（賞状、メダル、選手権賞、花束、副賞等）
 - ・所要時間はどの位か
 - ・リレーは、賞状、メダル等をどのように渡すか（全員か代表者か）
- (5) 表彰係とアナウンサー間の連絡方法、表彰開始の指示方法を決めておく。
- (6) 演出効果を高めるためにファンファーレや音楽（BGM）を使用することが多い。
- (7) 決勝結果が紙（記録用紙）で配布される場合は別に整理しておく。システムを使用する場合は、画面を確認しておく。
- (8) 入賞者の氏名、所属の読み方、表彰者の氏名、役職、優勝杯等の寄贈者名等をあらかじめ確認しておく。表彰係や主催者に必要事項を記入した表彰カードや表彰者一覧を作成してもらう。式典では特に、氏名の読み方に間違いがないよう、事前に音読を行った方が良い。また、タイミングがずれないように受賞者やプレゼンターの動きをよく確認しながらアナウンスする。
- (9) 過去に何回優勝したか、他の種目とあわせての制覇か等についても事前に調べ、適宜挿入する。特に日本記録や大会記録等が出た種目では、勝者を讃え表彰を盛り上げるよう工夫する。

8 他の部署との連携

(1) 出発係

無線等を使用し、次レースの出場人数、準備完了の合図を受けてから紹介アナウンスを行う。

システムを使用しない競技会では、選手名や所属名等で難読なものがあれば、出発係に選手へ確認を依頼して対応することもある。

る。

スタートやり直しの時は、その理由をできるだけ早く連絡してもらい、必要であれば短いコメントでリスタートのやり直しにつなげる。

長距離種目の選手紹介のタイミング（原則はスタート前だが、状況によってはスタート後の場合もあり）について、連絡を取りながら調整する。

トラック競技のスタートとフィールド競技の試技が重なる際には、進行状況を予想し、フィールド競技を優先させる場合には事前にその旨を伝え、スタートラインへの整列タイミングを遅らせるよう依頼する。

(2) 大型映像係

選手紹介、結果発表等、TOP8等アナウンスと同じ内容が同じタイミングで表示されるのが原則。EPMや進行担当総務員が配置されていれば、その指示に従うが、配置されていない場合には、アナウンサーがスクリーンに表示する内容やタイミングの調整を行う。

(3) 表彰係

表彰係とアナウンサーが離れている場合、無線等で連絡を取りながら、準備状況、表彰者の確認、入場タイミング等を詳細に確認しながら行う。表彰式のタイミングについては時刻ではなく「1000mのラップを言ったら入場してください」等、具体的な指示がわかりやすい。

(4) 進行担当総務員

競技の展開に応じ、次に何を紹介、発表すべきかを瞬時に判断して指示する必要があるので、アナウンサーと同室の配置が望ましい。

(5) EP（イベントプレゼンテーション）チーム

EPMは、進行担当総務員の任務に加えて、各種演出の計画と実施のコントロールをする。EPチームは、EPMを中心にアナウンサー、音響担当・場内映像の専門家等で編成される。

国際ルールではアナウンサーは審判員の位置づけではなく、審判員資格のないアナウンサーがマイクに向かうことを認めてい

る。国内の大規模大会でも、アナウンサーをはじめ各種専門家が
入って、EPMや進行担当総務員の指示を受けながら協働するこ
とが多い。その場合、審判員のアナウンサーもEPチームの一員
として加わり、競技会運営の重要な役割を担うことになる。

9 アナウンサー間の連携

少人数で一つの競技会を担当する場合、時間交代で競技を担当し、
日程通りに進行させるのが精一杯というケースが多い。

一方で、大人数の編成となる競技会では、役割分担も複雑化し、
アナウンサー間のスムーズな連携が不可欠となる。

アナウンサーが進行役となる場合は「間もなく3回目の試技が終
わる」「バーが上がり、残り二人となった」等、自分の担当種目の状
況をアナウンサー間で伝え合いながら進めていくとよい。

どのような場面で、何を優先させるかの判断はマニュアル化でき
るものではなく、臨機応変に判断しなくてはならない。優先順位に
ついての基本的な考え方やよくある事例については、関係者で意思
統一を図っておくことが必要である。

また、休憩時にはアナウンス席から離れて、スタンドや競技エリ
アで他のメンバーのアナウンスを聞き、観客や選手の位置でどのよ
うに聞こえるのか（音量、内容、速さ、タイミング等）を評価、フィ
ードバックすることで、メンバー全体で共通認識を持つことも必要に
なる。

アナウンスで盛り上げる

好記録に沸くスタンド。その主役は競技者であることは間違
いない。しかし観客に正確な情報を伝え共に喜ぶことを通じて
アナウンサーも重要な役割を担っている。

陸上競技の記録、順位はすべて「数字」で示されるが、時と
してその重要な情報である「正確な数字」がアナウンサーに速
やかに届かないということが起こる。

一斉にスタートするトラック競技と異なり、フィールド競技

では全競技者が試技を終えるまで順位が決まらないため、競技途中の正確な記録が重要な情報となる。

フィールド競技の記録表示には記録表示器や「TOP8板」などが使用されることが多い。これら記録表示器の前に審判員や補助員、報道関係者などが立って数字が読み難くなることや、表示器の廻し方が早すぎて読みとれないということもよくある。

また砲丸投などでは競技の展開が速く記録の表示、次の投てき者のナンバー表示が追いつかないことがおこりやすい。接戦の描写で競技者を奮い立たせようと思っても、タイミングがずれてしまつては効果がない。競技者本人もアナウンスを期待し、観客の声援を望んでいるのであればなおのことである。

「長さを競う競技」と「高さを競う競技」ではアナウンスすべきポイントが異なるが、アナウンスの内容やタイミングによって、競技の良いリズムを作ることは可能である。

また、一選手の「開始の合図(試技時間のカウントダウン開始)～試技～判定～記録表示」がひとつのパッケージであると考え、フィールド審判員に「記録表示を確認した上で、次の試技の合図を出す」よう依頼することも必要になる。

さらには、アナウンサー自身がマイクから離れた場所(アナウンス席ではなく、スタンドやピット等)で他のアナウンサーのコメントを聞き、競技者や観客にどのように聞こえているか、聞き手側はどんな情報を欲しているか、話す内容やタイミングを工夫する余地はないか、他の審判部署と連携がうまくいっているか等を客観的に捉えることも必要なことである。

ライブリザルト

陸上競技の面白さに、誰が勝ったのか?という「勝負」と、その記録はどうだったのか?という「記録」の二本柱が挙げられる。いかに早く、正確に情報を伝えることができるかは、「魅せる」競技会を運営する上で重要な課題である。

最近では地域選手権規模の競技会でも、大型映像装置を用い

てライブリザルトを速報として伝えることが一般化してきた。レース結果を迅速に伝えるために、写真判定中の途中経過を表示しているものだが、使用機器の性能向上や関係者の技術向上もあり、黄旗が挙げた場合を除けば、ライブリザルトと正式結果がほぼ一致するようになっている。

ライブリザルトに合わせてアナウンスする場合は、まず「判定中の記録である」ことの断りを入れ、ラウンドに応じた必要な順位までを発表し、表示が「確定」または「Official」に変わったところで結果が確定したことを伝える。

黄旗が挙げた場合には、その旨を伝え、(正式結果は後程と伝え)ライブリザルトでの発表を続ける。フィニッシュタイマーでの1着の速報記録のみを発表し、正式結果が確定した段階で他の順位も含めた結果を発表する。

フィールド競技でもパソコンを使用し一眺一投のデータ入力が行われる場合には、途中経過をスクリーンに表示させ、アナウンスすることも可能である。長さを競う競技であれば、「現在の上位8名の競技者とその記録」「TOP8の試技順とそれまでの記録」「試技毎での記録・順位の変化」等を示すことができ、アナウンスしなくてもスクリーンに表示しておくだけで、ピットから離れた場所にいる観客にも興味を持たせ、当該競技へ関心を持たせることができる。

また、最近では競技者も観客も記録発表の迅速性や途中経過の情報提供に対する期待は極めて高く、写真判定員やフィールド審判員の正確な判定が大前提ではあるが、イベントプレゼンテーションの観点からもスピード感のある対応が課題となっている。

ライブリザルトを導入する大会では、事前に審判長や写真判定員、フィールド競技審判員、記録・情報処理等の関係者と打合せを行い、各部署の協力を得ながら「正確・迅速・効果的」なライブリザルトの活用ができるよう、共通意識を持つことが必要である。

「日本新記録誕生！」をコールするタイミング

長さを競うフィールド競技を担当している際、観客のどよめきが起こり、好記録が誕生した予感を覚える時がある。風の条件を事前に確認しておく必要があるが、その後、マグボードやPC画面に記録が表示された瞬間に「日本新記録誕生！」とアナウンスしても何ら問題ない。

高さを競う競技の場合はもっと単純で、日本新記録にバーをセットしているわけだから、クリアして白旗が上がった瞬間に「日本新記録誕生！」となるわけである。

では、トラック競技の場合どの時点でコールすればよいだろうか？

通常、フィニッシュライン後方にフィニッシュタイマーが設置されている。そのフィニッシュタイマーには最初、光電管を遮った瞬間のタイムが表示される。

ただし、これはトルソー以外の部位で遮った場合もあるので、写真判定員は、一旦表示を消してブランク状態にしたあと、カーソルを合わせて1着の競技者とタイムを確定させ、レーン番号と併せて表示する手順になっている。即ち、この時点で1着のタイムが確定されたこととなる。なお、黄旗が上がった場合は審判長と連携し、1着が当該でないことを確認した後表示することになっている。

勘違いしやすいのが、スクリーンにライブリザルトを表示できる施設での競技会で、2着以降、順に入力して行って全員入力の後「確定（official）」になってからが、正式結果だと思い込んでしまうケースである。

もちろん黄旗が挙がって、1着が失格になるケースもあるので、慎重を期す必要はある。その場合、フィニッシュタイマーがブランクのまま、ライブリザルトが進行していくので、両者を注目しておくことが必要である。

スクリーンが「確定」になるまでの間「日本新記録が誕生した模様です」と繋ぐのは時期を逸したことになる、何とももどかしい。

トラック種目で日本新記録が誕生した際の発表の流れについて、トラック審判長、写真判定員、アナウンサー等で共通理解を持つておく必要がある。

スタート時の警告内容説明アナウンス

スタート時、何らかの理由によりスタートをやり直す際に、出発係が競技者に対してカードを示すが、観客や関係者にも「今、何が起こったのか」をアナウンスすることで、競技への関心を高め、審判行為に対する信頼性を得られる。

状況説明を的確に行う為には、スタートチーム（出発係を含む）とアナウンサー間で、短時間で正確に状況共有する態勢をつくる必要がある。「出発係からアナウンサーへの連絡内容」「アナウンサーのコメント内容」についてパターン化し、符号表カードを双方で持つ例を挙げる。

〈出発係〉例

カード	アナウンサーへの連絡内容
赤黒	「() レーン不正スタートで失格です」
黄黒(混成)	「() レーン不正スタート1回目です」
赤白	「() レーンが抗議中として競技を続けます」
グリーン	「①・②) です」
	①機械の不調(信号器、スピーカー、写真判定装置) ②周りの静寂が保てなかった(声援・手拍子・飛行機の通過等)
イエロー	「() レーンに警告です」

〈アナウンサー〉例

カード	コメント例
赤黒	「()レーンが不正スタートと判定されました」
黄黒(混成)	「()レーンが不正スタートです この後の不正スタートはすべて失格となります」
赤白	「審判長が()レーンの抗議を認め、抗議中として競技を続けます」
グリーン	「ただいまのは不正スタートではありません… …①機械の不具合があったのでスタートをやり直します」
	「…②声援/手拍子/飛行機の通過と重なったため、スタートをやり直します」
イエロー	「()レーンに警告が与えられました」

※ ③フィールド種目の手拍子や好記録が出て観客がわいているのを制することは不要だが、スタート付近で観客が競技とは無関係なことで騒がしい場合は、コメントが必要な場合もある。

競技会開始直後は、上記のようなコメントでもよいが、度重なると耳障りとなり、場合によってはスタートまでの間が空きすぎてしまい競技者の集中に支障をきたすこともある。不正スタート・機械の不調以外は、状況に応じてコメントなしでも構わない。その場合は、スタートチームにその旨を伝えておく。なお、アナウンスのタイミングは、出発係が対象となる選手(行為)に対してカードを示すタイミングに合わせて行うことに注意する。また、出発係は選手だけでなく観客にもわかるようにカードを示す。

ポストイベント (PE) とは? ミックスゾーンとは?

I. ポストイベント (PE) とは?

記録会以外はトラック & フィールド競技会、ロード競技とも表彰式がある。全国レベルの競技会や世界選手権・オリンピック等では入賞者は更衣もままならないほどにインタビューや記者会見、ドーピング検査等が待っている。これら競技終了から表彰(セレモニー)を終え競技場から退出するまでの一連の競技者に科せられる対応を総称してポストイベント (PE) という。

- 1 「国内全国レベル競技会」では、競技を終えミックスゾーンまで誘導された競技者が競技場を退場するまでのすべての範囲での案内・誘導を指す。競技を終えた直後のフラッシュインタビューと更衣・退場、入賞者のインタビュー室や表彰控室への案内・誘導等、一連の競技者対応すべてを意味する。途中にドーピング等の指名が行われることもある。

主に係わる役員：ミックスゾーン係、入賞者管理係、報道係

- 2 「世界選手権/オリンピック」では、ミックスゾーンの先に設置された部屋〔ポストイベントコントロールエリア (PECA) から記者会見場 (PRESS CONFERENCE ROOM) や表彰 [Victory Ceremony] 控室までの入賞者管理を指す。途中ドーピング等の指名や対応が求められることが必然である。ミックスゾーン内の競技者コントロールは別スタッフが担当する。

主係わる競技会役員：PECA係



ポストイベントコントロールエリア (PECA)

- 1 「国内全国レベル競技会」では、
・〔国内：『競技終了後のイベント（ポストイベント）に関わる運営役員』参照〕
- 2 「世界選手権/オリンピック」では、後述の3つのミックスゾーンの先に設置されるエリア〔ポストイベントコン

トロールエリア（PECA）で、競技者の荷物やADカードが届けられる。

世界的に著名な競技者でメダルホルダーとなった競技者は3つのミックスゾーンでのインタビューを相当数こなし、この部屋にたどり着くと、更衣もままならず直ちに記者会見場に誘導されたり、ドーピング検査の指名を受けたりする。PECの出発地点である。

Ⅱ. ミックスゾーン (Mixed Zone) とは？

同じミックスゾーンという呼称も全国レベル競技会〔国内〕は広義に、世界選手権・オリンピックなど〔国際〕では狭義で、メディアが競技者にフラッシュなインタビュー・取材を行うエリア（限定的）を指す。

- 1 「国内全国レベル競技会」では、フィニッシュ先のゲート付近に設けられる。400m競走出場の競技者などの待機所も併設され、この出発を待つ競技者と、競技が終わった競技者及びその競技者の声を拾いたい記者が混在する場をまとめてミックスゾーンと呼んでいる。出発競技者のエリア、更衣エリアまでの動線（一部取材エリア）、更衣エリア（入賞者待機所）、インタビュー室で構成される。主催者が報道員に取材の機会を保障する場所でもある。競技を終えたすべての競技者が競技場から退場するまでの動線上に取材活動を可能にする一定のスペースの確保が必要でありインタビュー室も含め機能的なつくりが求められる。

・〔国内〕『ミックスゾーン係』参照

- 2 「世界選手権/オリンピック」等の国際競技会では、ミックスゾーンはTV・記者等の報道員が競技を終えた競技者に対しフラッシュなインタビューを行う場だけを指し、報道員カテゴリー別に3つのエリアに分かれる。

i Dedicated Mixed Zone

放映権（ライツホルダー）を持つTV局がライブインタビューを行うエリア。権利を有していても最長2分ま

でと制限がある

ii ENG/Radio Mixed Zone

インタビュー録画撮影を行うTV局やラジオ局がインタビューを行うエリア。

III Press Mixed Zone

新聞雑誌記者（リトンプレス）が・取材活動を行うエリア。



〔国内〕競技終了後のイベント (ポストイベント)にかかわる運営役員

1 ポストイベントとは

トラック & フィールドで競技を終えた競技者がミックスゾーンに誘導され、最終的に競技場から退場するまでの各エリアで展開されるインタビューや、ドーピング検査、表彰式などをさす。

2 ポストイベントにかかわる運営役員

◇総務・総務員/EPM (イベントプレゼンテーションマネージャー)

◇マーシャル

◇〔国内〕ミックスゾーン係

◇〔国内〕入賞者管理係=ポストイベントコントロール(PEC)係
／〔国際〕ポストイベントコントロールエリア(PECA)係

◇シャペロン

◇〔国内〕報道係

◇〔国内〕式典表彰係

◇医師(医務員/メディカル)

*その他◇記録・情報処理員◇衣類運搬係◇アナウンサー

3 〔国内〕ポストイベントにかかわる運営役員関係図

総務員：進行または、EPM	〈トラック種目〉		〈フィールド種目〉		【トラック＆フィールド】
		マーシャル			
総務員：PEC報道または進行	(出発係)	入賞者管理係	記録・情報処理員	【ミックスゾーン】	
	報道係 (フラッシュインタビュー担当)	〈ポストイベントコントロール係〉	衣類運搬係	報道係 (インタビュールーム／会場担当)記者	
	医務員／医師	〔PECR〕	シャペロン		
総務員：表彰進行、EPM	(アナウンサー)		式典表彰係	【表彰会場】	

4 〔国内〕ポストイベントの流れと運営役員の連携例

【ミックスゾーン】	◎ミックスゾーン係	[連携部署]
競技前	→ (出発) 控所管理	○出発係
競技中	→ 競技終了者控所 (PECA) 管理	○入賞者管理(PEC)係
	→ スタートリスト確認	○記録・情報処理員
	→ 競技者衣類搬入	○衣類運搬係
[ポストイベント開始]		
競技終了	競技者誘導 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ◎マーシャル	
【ミックスゾーン】	◎ミックスゾーン係	[連携部署]
競技終了	→ 結果確認	○記録・情報処理員
(競技者誘導)	→ 競技終了者引継 / 確認	◎マーシャル ○入賞者管理(PEC)係
ミックスゾーン 入場	→ フラッシュインタビュー	◎報道係 〈フラッシュインタビュー担当〉
〈予選〉▽	→ 競技終了者控所(PECA)誘導	○入賞者管理(PEC)係
	⇒ 退場口案内誘導	
▽〈決勝及び フィールド種目〉	→ 競技終了者控所(PECA)誘導	◎入賞者管理(PEC)係
	⇒ 結果通告	
	⇒ ドーピングチェック通告	◎シャベロン
*表彰対象者	→ 順位札掛け	◎入賞者管理(PEC)係
*表彰対象外	⇒ インタビュールーム誘導	
	→ 退場口案内誘導	
【インタビュー ルーム】	→ 報道員・表彰対象者管理	◎報道係〈インタビュールーム担当〉 ○入賞者管理(PEC)係 ○シャベロン
(表彰者移動)	→ 表彰控室誘導	◎入賞者管理(PEC)係
【表彰会場】	◎表彰係	◎報道係〈撮影エリア担当〉
	→ 表彰式	○シャベロン
	→ 退場口案内誘導	◎入賞者管理(PEC)係

〔国内〕ミックスゾーン係

1 任務

競技を終えたすべての競技者が通過するミックスゾーンの管理を行う。ミックスゾーンには、トラック種目の一部の出発控所が含まれる。

- (1) 競技者係、マーシャル、出発係、衣類運搬係、記録・情報処理員等と連携を図り、競技者や報道関係者の管理をする。
- (2) 競技者係、記録・情報処理員からのリストを確認し、ミックスゾーン入場者チェックをする。
- (3) 衣類運搬係により運ばれた競技者の荷物を競技終了者控所（PECA）に搬入し、入賞者管理（PEC）係に配置の検討を依頼する。
- (4) 入賞者管理（PEC）係と連携し、迎え入れる競技者数に応じた控所（PECA）のレイアウトを随時変更する。
- (5) マーシャルが誘導してきた競技者を引き継ぎ、ミックスゾーン内フラッシュインタビューエリアを経て、控所（PECA）まで誘導する。
- (6) フラッシュインタビューエリアでの報道員によるインタビューのコントロールは、報道係の担当者と連携して行う。
- (7) 決勝種目については、控所（PECA）で、入賞者管理（PEC）係が入賞者を確定・通知するので、それをサポートする。
- (8) 更衣等が終了した競技者を速やかに退場口まで案内誘導する。
- (9) シャペロンの行うドーピング検査通告とサインの受領、対象競技者の管理をサポートする。
- (10) 入賞者を、入賞者管理（PEC）係と連携のもと、インタビュールーム・記者会見場へ誘導する。
- (11) 式典表彰係と連絡を密にして、スムーズな表彰運営に対し入賞者管理（PEC）係と共に協力する。

2 留意点

- (1) マーシャル等に誘導された競技者の引継ぎと入場確認はミックスゾーン入口で確実にを行う（報道員からの問合せに備える）。また入場させる際は、ミックスゾーン内の各係・担当、報道員へ通告する。
- (2) 競技者および報道員への対応が多い部署であるので、言葉遣いに気をつけ、協力を依頼する際は、穏やかな口調で接するとよい。また、親切・丁寧な対応を心がけ、高圧・威圧的な態度は慎む。ミックスゾーン入口で確実にを行う（報道員からの問合せに備える）。また入場させる際は、ミックスゾーン内の各係・担当、報道員へ通告する。
- (3) ポストイベントの誘導に関して、直後に出場種目を控える競技者への対応が生ずることがある。事前に想定し、式典表彰係と対応方法を検討しておくといよい。

3 施設

ミックスゾーン



- ・ミックスゾーンは仮設される場合がほとんどである。テント、長椅子、プラスチック柵等でレイアウト変更が可能な作りが望ましい。
- ・競技者、報道員用にモニターや記録・情報用 PC の設置は必須である。
- ・床面はスパイク保護のため人工芝等で養生されるべきである。

〔国内〕入賞者管理係/ポストイベント コントロール係<PEC係>

1 任務

トラックとフィールドのすべての決勝種目終了ごとに競技終了者控所（PECA）にて、ミックスゾーン係と連携し入賞者を確定する。また、入賞者を管理し表彰控室まで誘導し、表彰係へ引き継ぐ。トラック種目の予選等については、競技終了者控所（PECA）にて荷物の受け取りをさせ場外へ退場させる。

- (1) ミックスゾーン係、報道係、シャペロン、表彰係等と連携し、入賞者をスムーズに管理誘導する。
- (2) 入賞者管理のため、順位カード（首掛け式など）を準備する。

2 任務の留意点

- (1) 複数種目の入室が想定される場合やリレー種目では、ミックスゾーン係と連携し椅子等の配置を工夫するとよい。また、順位カードは複数組作成しておくといよい。
- (2) 入賞者の体調に注意を払い（水分補給・氷等の準備）、医師・医務員の協力を要請する。特に、競歩競技・長距離種目では確定まで時間がかかることがある。
- (3) 入賞者が外部者と接触しないよう監督し、トイレ等の要望に対しては役員または補助員が付き添うことが重要である。
- (4) インタビュールームや表彰控室への誘導の際は、種目ボード等を活用し、全員を確実に誘導する。絶えず表彰係と連絡を取り合い、オンタイムで表彰が実施できるよう入賞者の把握と、スムーズな誘導に努める。
- (5) ポストイベントへの誘導に関して、直後に他種目出場を控える競技者が含まれている可能性があることを想定する必要がある。事前に想定し、式典表彰係と対応方法を検討しておくといよい。

〔国内〕式典表彰係

1 任務

各種目の決勝において入賞した競技者を、表彰進行計画に基づき表彰する。また、栄章授与式が行われる競技会ではその業務も担当する。

2 実施要領

(1) 種目表彰

- ① 表彰進行計画（台本）を作成し、総務の承認を得て決定する。
- ② 総務員（進行担当/式典表彰）、アナウンサー、報道係、シャペロン等関係役員と打合せをしておく。競技会役員
- ③ 表彰方法を競技注意事項等に記載し、競技者に周知する。
- ④ 入賞競技者について、マーシャル、入賞者管理係、ミックスゾーン係等に協力を求め、表彰控室までの誘導方法を事前に打合せをしておく。
- ⑤ ミックスゾーン係、入賞者管理係と連絡を密にする。
- ⑥ 表彰用物品を確認する。

種目ごとに寄贈者が異なる表彰用物品がある場合は特に注意する。

- ⑦ 種目ごとの授与者、表彰予定時刻をあらかじめ決定し、表彰場所およびミックスゾーン等に掲示し案内する。
- ⑧ アナウンサーに表彰一覧を示し、表彰原稿の作成を依頼する。
その際に以下のことに注意する。
 - (a) 表彰者（プレゼンター）氏名、役職名
 - (b) 競技者名、所属（決勝記録等により、アナウンサーに原稿を依頼）。
 - (c) 成績（同上・新記録が出たときは披露する）
 - (d) その種目に寄贈されている賞杯名、寄贈者名など
 - (e) 役職名や氏名の読み方には細心の注意を払う。
- ⑨ 種目ごとに表彰者カードを作成し、あらかじめ表彰者に渡し
ておく。

- (a) 表彰種目
 - (b) 表彰者（プレゼンター）氏名、役職名等
 - (c) 表彰予定時間
 - (d) 集合場所
- (2) 栄章授与式
- ① 受賞者への連絡方法を事前に確認し、出欠者の把握をする。
 - ② 当日の受付場所・控室の確認、案内担当等の手配を行う。
 - ③ 表彰手順等について、受賞者にあらかじめ説明する。
 - ④ 授賞式の場所、手順を報道係、アナウンサー等の関係部署間で事前に協議し共有しておく。
 - ⑤ 授与式直前（30分程度）に出欠の最終確認を行う。
-

3 留意点

- (1) 表彰式典マニュアルを作成する。それに基づく表彰計画で係分担を作成し、十分打合せておくこと。アナウンサーに表彰原稿の作成を依頼しておく。準備が整ったならば関係総務員（進行担当 / 表彰担当）の指示のもとに行動する。
- (2) フィールド内で行う表彰についてはリハーサルを必ず行いスムーズな進行ができるようにしておくこと。トラックを横切るようなケースは、特に注意が必要である。
- (3) 表彰は競技成績の発表後、トラック競技の合間にできる限り行うとよい。また、トラック種目だけでなくフィールド競技の進行にも十分な配慮が必要である。フィールド種目の最終試技回には特に注意を払う。
- (4) 報道関係者が多く取材に入る大規模競技会では、あらかじめ表彰予定時刻をミックスゾーンだけでなく、プレスルーム等に掲示して周知するなどの対応が求められる。
- (5) 大規模競技会ではインタビューやドーピング検査などの対象となる競技者が数多く生ずる。関係部署（ミックスゾーン係、入賞者管理係、報道係、シャペロン等）との連携を密にし、表彰式を計画通りに実施できるようにする。
- (6) 表彰計画では決勝種目終了後に他種目出場を控える競技者が含まれている可能性があることを想定する必要がある。

- (7) 表彰時の競技者の服装は競技会ごとに定めるが、その際は競技会における広告規程に十分注意が必要である。服装等の決定をした場合は事前に関係者に周知しておく。
- (8) 表彰控室は競技会の規模や実施種目数、決勝種目の集中度合いなどを考慮し、適切な広さを確保する。また、椅子などが不足することのないよう、あらかじめ十分に用意する。

「フレンドリーな表彰式の実施」参照

日本選手権混成競技、国民体育大会（全国スポーツ大会）、U20日本選手権、U18-U16陸上競技大会など3名ないし8名まで表彰される全国レベル競技会では、従来の全員が並んで入場するスタイルではなく、一人一人アナウンスで呼び入れられ、ハイタッチで入賞者相互が祝福し合うという形式で行われている。



フレンドリーな表彰式の実施

本連盟が掲げている3つのフレンドリー（Athlete friendly, Spectator friendly, Official friendly）の考え方から、選手がお互いを称えあう表彰形態を実施している。実施に際しての注意点は以下の通りである。

- 1 表彰エリアを確保する。鉢植え等で区別し、観客に式典エリアを周知することが大切である。また、表彰台は可能であれば、順位番号数字を大会名称等で覆うと臨場感が高まり、カメラ写りがよい。
- 2 表彰式に適した楽曲を選定する。歌詞があっても問題はない。この楽曲が競技場に流れると表彰式という概念を観客に与えることも重要である。
- 3 音楽のもと、プレゼンターは表彰台に向かって左側に立ち、表彰台の正面は観客のためにあけるように心がける。
- 4 式典アナウンサーによる選手紹介は、選手の呼び込み時（表彰控えエリアからの入場時）に行う。うまく進行できると8位までの表彰所用時間は、概ね2分30秒である。
- 5 選手の入場は8位から一人ずつ行う。選手紹介にあわせ小走りで表彰台に登壇し、プレゼンターの前まで移動し、賞状等を受け取る。その後、台の右端に台上を移動する。表彰台右側前方の補助員は拍手をし、観衆に拍手を促す。
- 6 7位以降の選手は、選手紹介により入場し、先に登壇している選手の横から登壇し、プレゼンターから賞状を受け取った後、台の右側に移動し下位の入賞者の横に並ぶ。その際、登壇している選手は、拍手で選手を迎えるようにする。
- 7 優勝者への贈呈が終わったら、プレゼンターは表彰台の左側に移動し、終了アナウンスで速やかに退場する。表彰エリアにいる表彰盆持ちの補助員は基本的に1名とし、常に入れ替わるようにする。



リレーの表彰形態については、4名（もしくは走ったメンバー全員）が一度に表彰台上がれる様式を試してみてはいかがだろうか。

全国スポーツ大会（国体）をはじめ、U20日本選手権、高校総体、中学選手権等において実施をしている。競技会における「メダルセレモニー」は、ここ数年の間に重要視されるようになってきている。オリンピックや世界選手権では、競技時間に遅れが生じて、競技者や観客の求めに応じたセレモニーが実施されるようになってきている。競技が終わればお互いの健闘を称えあうことこそが、真のスポーツマンシップではないだろうか。国際大会で、優勝者が下位の入賞選手を自分の台上に招き入れている姿は数多く見られる。競技者が主役で、お互いの健闘を称えあい、観衆も一緒に参加できる雰囲気での表彰式を、ぜひ実施していただきたい。

〔国内〕報道係

報道係については国内外ともに特に規則によって定めはないが、国内の多くの報道関係者が参集する競技会では、運営役員として報道係を設置し、以下の任務を行う。

なお、国際競技会では、この分野はより分業化・専門化され、特にスチールカメラマンへの対応は、フォトコーディネーターが、放送（中継）対応は別の専門チームが役職としてそれぞれ独立しその任に当たっている。

1 任務

任務を一言で言えば、報道関係者へのサービスである。

- (1) 競技運営に支障のない限りにおいて報道関係者が取材や撮影を行いやすいよう対応する。その際は、マーシャルやフィールド種目の競技役員やポストイベントを担当するミックスゾーン係や入賞者管理係、表彰係等と連携をとることが重要である。
- (2) 競技会を取材する報道関係者が、正確かつ十分な報道ができるよう競技成績の記録や、必要な資料を配布する。また、競技運営が円滑に運営され、競技者が所期の目的を達成できるよう報道関係者に協力を求め、これらの任にあたる。

2 報道関係者

日本新聞社協会、写真記者協会、日本雑誌協会、スポーツニュース協会（含系列局）、日本スポーツプレス協会、日本外国特派員協会の各加盟社・協会員で「スポーツ報道」を目的とするメディアをさす。

- (1) 記者：

通信社、新聞社（全国紙・地方紙）、専門誌、写真記者協会員、日本雑誌記者協会員、日本スポーツ協会員、日本外国特派員協会員等の記者。

- (2) スチール（静止画）カメラマン：

通信社、新聞社（全国紙・地方紙）、専門誌、写真記者協会員、日本雑誌記者協会員、日本外国特派員協会員等のカメラマン。

- (3) テレビ局（ENG/動画）カメラマン〔含むディレクター〕：
スポーツニュース協会〔系列局を含む放送会社〕加盟社のカメラマン。
- (4) 中継放送局：
テレビ・ラジオ関係者
- (5) その他：
(1)から(4)以外の団体で都道府県や市町村の広報、競技者所属企業・大学の広報等があげられる。これらからの取材申請については、下記書類の提出を求め事前に審査し、取材を許可する場合がある。
・社名/団体名・取材目的（発表媒体名）/方法・取材期間/人数

3 配置

競技会規模、想定される取材者数により、必要な要員を確保する。

- (1) 主任・副主任
 - ① 担当総務員とともに全体の任務を掌握し報道関係者が正確に報道できるよう関係諸施設も含め統括管理する。
 - ② 関係する部署との連絡・調整に努め連携を図る。
- (2) 受付担当
 - ① 受付業務を行う。
ADカード、報道員ビブス、プログラム、報道のしおり等を配付する。カテゴリ別に応付用紙を用意し、社名、氏名、連絡先電話番号の記入をお願いする。事前申請一覧と照合することが大切である。
 - ② 報道員への情報提供を行う。
 - ③ 【日本陸連主催競技会】地方紙枠対象種目インフィールド立ち入り許可ビブスの受付・抽選業務を行う。
- (3) 記者席担当
 - ① スタンド内記者席とミックスゾーンまでの動線を管理監督する。
 - ② 記録・情報等の速やかな提供を行う。
- (4) 報道員室〔プレスルーム/カメラマン控室〕担当
 - ① 室内の管理全般を行うとともに、報道関係者の対応を行う。
 - ② 記録・情報等を適切に提供する。レターケース等を活用する

とよい。

- ③ ホワイトボード等を活用し、表彰予定時間やその他情報の提供を随時行う。

(5) インタビュールーム（記者会見場）担当

- ① 室内の管理全般を行う。複数種目の同時入室を想定し、椅子等の配置を工夫する。
- ② 取材活動時間を保障する。入賞者管理係、表彰係等と連携調整し、表彰後に実施する場合もある。

(6) フラッシュインタビューエリア担当（ミックスゾーン内）

- ① ミックスゾーン内の競技終了者控所（衣類受取所/PECA）入場前エリアでの報道員による取材活動をサポートする。ミックスゾーンはフィールド種目も含め競技を終えたすべての競技者が通過し、報道員にとって第一声を取材できる重要な場である。
- ② 競技者の通過をミックスゾーン担当者と連携して確認・把握する。

注) ミックスゾーン係がこの任を担う場合もある。

(7) 撮影エリア管理担当 [フォトコーディネーター]

- ① 各撮影エリアを関係審判長、監察員主任等と協議し作成する。
（アウトフィールド/インフィールド/表彰会場/スタンド他）
注) オフィシャル・大型映像用カメラ、中継放送用カメラ位置を事前に優先して定めておくといよい。
- ② カメラマン、テレビクルーへの指導・監督を行う。特に、インフィールドでの安全指導は重要である。
- ③ リモートカメラの設置許可場所を定めておく。設置要領に従って設置させ、設置後の管理を行う。設置申請願提出は事前が原則。

(8) その他必要に応じて

グラウンド内で行われる中継放送局によるインタビューのサポートなどの任務が加わることがある。

4 関係施設・室

(1) 報道員受付所

- ・競技場入り口やプレスルーム前に開設する。
- ・配付物も多く、記者、カメラマン等カテゴリー別に受付できるよう一定程度のスペースの確保と長机、椅子の準備。

(2) (スタンド内) 記者席

- ・スタンド内でフィニッシュライン延長上付近に一定程度のスペースで座席、机を確保する。電源が用意できるとよい。
- ・ミックスゾーンや報道員室へ素早く移動できる動線の確保が重要である。

(3) 報道員室〔プレスルーム〕

- ・国スポやインターハイでは1日あたり150名を超える報道員の来場がある。机、椅子の他、人数分の電源が必要である。併せてインターネットに接続可能な環境の提供も必須である。
- ・資料や記録用紙（スタートリスト、リザルト等）を入れる棚（レターケース）を設置する。最近では、大会 HP から授受を勧める競技会が増えてきている。

注）報道員室の閉鎖は、競技（表彰）終了後1～2時間程度を確保したい。閉室時刻については、あらかじめ報道員へ通知しておくこと（報道員室の管理）。

(4) カメラマン控室

- ・グラウンドへの出入りが容易な場所への控室の設置が求められる。机や椅子、電源が必要なことは報道員室と同様で、機材の持ち込みも想定し、想定人数よりも十分なスペース、席数、電源等を準備したい。
- ・数日間わたる競技会では機材置場として鍵のかかるロッカーや棚の用意が求められている。

(5) インタビュールーム / (記者会見場)

- ・国内競技会では、競技者を報道員が囲み取材する形が一般的であるので、複数の種目の入賞者やリレー種目全走者と報道員が混在しても十分なスペースと備品（椅子、バックボード等）を準備する。

(6) (ミックスゾーン内) フラッシュインタビューエリア

- ・ミックスゾーン内の競技終了者控所（衣類受取所 / PECA）までの競技者の動線上に設置する。競技を終えたすべての競技者への取材機会を保障するものである。取材活動を可能にする環境整備が必要である。

- ・床面は競技者のスパイク保護のため人工芝等で養生したい。

注) 報道員受付所、報道員室、ミックスゾーン、インタビュー室はワンブロックに集中させた方が機能的であり、また、スタンド内記者席からの記者の動線はできる限り短くするように設置したい。ミックスゾーンの設置により、記者はスタンド内記者席、ミックスゾーン付近で競技を観戦し、ミックスゾーン内やインタビュールームで取材をして、また競技観戦に戻ることを繰り返す。したがってスタンド記者席、ミックスゾーン、インタビュールーム間の動線は特に短く確保したい。

(7) 撮影エリア（グラウンド内）【例示参照】

- ・各撮影エリアはロープ、カラーコーン、養生テープ等でグラウンドに明示するとよい。低い姿勢で撮影するカメラマンに配慮し、コーン使用の場合はミニコーンにバーをかける形で設置するとよい。

***報道のしおり**

大会当日の取材要領、撮影エリア図、撮影に関する注意事項等を記載した『報道のしおり』を作成し、報道員受付の際、関係者に配付し協力を求めるとともに指導監督の指針とする。

5 取材活動 <活動区分>

(1) 記者

- 1 報道員席（スタンド内）、ミックスゾーン内フラッシュインタビューエリア、インタビュールーム、報道員室〔プレスルーム〕での活動を認める。
- 2 競技本部、記録室、印刷室、ドーピングルーム、表彰控室等のテクニカルエリアへの立ち入りは認めない。

(2) スチールカメラマン・テレビ局カメラマン・中継放送局カメラ

クルー

〈日本陸連主催競技会でのカメラマン活動区分〉

	アウトフィールド	インフィールド
スチールカメラ（含デジカメ）	オレンジ／グレー	グレー
テレビ局カメラ（含ビデオカメラ）	グリーン／グレー	グレー
中継放送局カメラ	ブルー	ブルー

① オレンジ色ビブス：

スチールカメラマンに貸与され、グラウンド内においては、アウトフィールドに作られた撮影エリアでの撮影活動に限定される。



② グリーン色ビブス：

テレビ局カメラマン及びディレクターを含むクルーに貸与され、グラウンド内においては、アウトフィールドに作られた撮影エリアでの撮影活動に限定される。

③ グレー色ビブス：

本連盟が以下を指名し、この他特別枠も含め最大32枚まで発行する。代表カメラとしてインフィールドでの撮影活動を認める。

- ・写真記者協会 15枚
- ・日本雑誌協会 2枚
- ・日本スポーツプレス協会 2枚
- ・外国特派員協会 1枚
- ・専門誌陸上競技マガジン 2枚
- ・専門誌月刊陸上競技 2枚

注）特別枠とは、フィールド種目限定地方新聞社枠のことである。

④ ブルー色ビブス：

中継放送局カメラクルーに貸与される。グラウンド内アウトフィールド、インフィールドのいずれの撮影音声作業時に着用を義務付ける。

＜参考＞上記以外の主なグラウンド内ビブス着用者

- ・オフィシャル 黒色
- ・大型映像カメラマン 黒色 or 赤色
- ・医務（メディカル）白色 or 黄色
- ・日本陸連科学委員会 白色

6 取材要領

(1) 記者

- 1 競技者への取材は、ミックスゾーン内フラッシュインタビューエリアとインタビュールームとし、取材時間は競技者の協力のもと、各係の指示や案内に従い行うこととする（目安5～10分程度）。但し、テレビの中継放送がある時は、希望選手のインタビューを最優先に実施するので協力すること。
- 2 表彰後の取材活動は競技者の競技場退場後、競技者及び関係者の同意のもとで行うこと。

(2) スチールカメラマン・テレビ局カメラマン

- ① グラウンド内では各撮影と外周、その他（スタンド等）では撮影エリア他観客の視界の妨げにならない範囲で行うこと。
- ② 競技運営本部前からの撮影は認めない。また、移動のための通行も認めない。但し、表彰式撮影の際はこの限りではない。
- ③ グレービブス着用者によるインフィールドでの撮影は、特に危険が伴うため、素早く退避行動がとれる姿勢での撮影のみ許可する。移動の際も同様である。三脚の使用は認めない。現場の競技審判員等からの指示・注意に従うこと。
- ④ 競技審判員の視界を妨げる場所、記録表示板の前、写真判定関連装置の前後での撮影は認めない。
- ⑤ 表彰の際の撮影はどの色のビブスでも表彰台周辺で撮影を認める。但し移動と撮影のタイミングについては表彰係・報道係

の指示に従うこと

- ⑥ リモートカメラ設置希望については、事前申請とする。



7 道路競技

- (1) 競技場をスタート、フィニッシュする場合はトラック & フィールド競技会に準じて諸施設と各担当を配置する。
- (2) 競技場以外の場所がスタート、フィニッシュである場合は、報道員室（プレスルーム）、撮影エリア等を臨時に設置する。
- (3) 折り返し、中継所等は必要に応じて撮影エリアを設置指定する。
- (4) 道路での取材については、道路交通法規則の範囲での取材を認める。
- (5) 歩道橋上での取材は禁止とする。

注) 上記(4)(5)は警察との道路使用許可条件による。

【報道係と他競技運営役員との連携】

担当	主な業務	連携部署
受付担当	◇報道のしおり・ビブス 他配付	総務員（報道）
記者席担当	◇情報提供	記録・情報処理員
報道員室担当 ・プレスルーム ・カメラマン 控室	◇報道員室管理 ◇情報提供 ◇機材管理	総務員（報道） 記録・情報処理員
インタビュー室 担当	◇取材活動時間の保障	ミックスゾーン係 / 入賞者管理係 / シャペロン
フラッシュ インタビュー エリア担当	〈ミックスゾーン内〉 ◇取材機会の保障	ミックスゾーン係
撮影エリア管理担当（フォトコーディネーター）		マーシャル
■フィニッシュ 先撮影エリア	◇右記の各係と事前調整 ◇フィニッシュ時のクリーンな 撮影環境の確保 （レーンナンバー標識等の撤去）	総務員 / トラック 審判 長 / 監察主任 / スター ター / 出発係 / 写真判定 主任 / 大型映像係
跳躍種目 撮影エリア	◇エリア位置の調整 ◇無線カメラ（リモート）位置 ◇フォトセッション ・本部前ピット（ビーム位置調 整）	跳躍審判長 / 跳躍種目主任 大型映像係 写真判定主任
■投てき種目 撮影エリア	◇エリア位置の調整 ◇無線カメラ（リモート）位置 ◇フォトセッション	投てき審判長 / 投てき種目主任 / 用器具係 / 大型映像係
・表彰 撮影エリア	◇エリア位置の調整 ◇フォトセッション	式典表彰係 大型映像係
・上記以外の 撮影 〈外周〉 〈スタンド〉 〈トラック種目新 記録〉	◇境界確定・広告看板位置 ◇エリア位置の調整 ◇ゴールタイマー表示 / フォトセッション	総務員（報道） スターター主任 / 監察主任 総務員（報道） EP・写真判定主任
その他		
・中継放送局 サービス	◇グラウンド内 フラッシュインタビュー競技者 誘導	中継放送局 ディレクター / マーシャル

フォトコーディネーターと撮影エリア

フォトコーディネーターは国内では『報道係』の中に担当者が置かれ中継 TV局・録画撮影 TV局・スチール（新聞雑誌）の各カメラマンへのサービス対応とその撮影エリアの設置・管理を行っている。以下で全国レベル競技会（日本選手権/インターハイ/国民体育大会等）における主な撮影エリア設置管理のポイントを示す。

外周

- ・ 9レーン外側のラインから1m程の距離の確保/リコーラー等の配置明示/中継局及び大型映像用カメラ位置明示
- ・ 看板及び広告幕設置の際はその前での撮影を禁止する。

フィニッシュ先エリア

- ・ 最大限の広さを確保/中継 TV局カメラを基準/大型映像用カメラ位置を考慮/監察員の配置位置を明示/競技者動線を確保/トラック審判長や監察主任の視界を妨げない/スチールカメラマンを最前列とし ENG とのすみ分けの明確化（長イスや台の活用）



- ・ フィニッシュ時のトラック上のクリーン化に協力を依頼（具体的には誘導担当マーシャルのトラック上への立ち入りのタイミングやスターター台、レーンナンバー標識等の撤収などである）

跳躍（走幅跳・三段跳・棒高跳）エリア

- ・ 助走路先延長上（正面）からの撮影の禁止 / 中継 TV局カメラ及び大型映像用カメラを基準 / スチールカメラマンを最前列にする。
- ・ 跳躍の瞬間の他者の横切りに注意を払う。



インフィールド

- ・ 特別に入場が認められたカメラマンのみであり、ビブスの色でしっかりと識別する。



跳躍（走高跳）エリア

- ・着地マットからの距離の確保
- ・トラック側へマットが置かれる場合は外周の撮影エリアが兼ねられるので特に設けない。

投てき（円盤投・ハンマー投）エリア

- ・競技レベルを考慮 / 投てき物が多く落下する距離を避ける / サウスポーなど競技者情報考慮 / サイドネットに注意 / 素早く移動可能な態勢での撮影要請 / 撮影しない時の安全地帯への移動の要請 / 防護ネット等の活用から弧の先（正面）からの撮影保障
- ・当該投てき審判長，主任と連携する。

投てき（砲丸投・やり投）エリア

- ・素早く移動可能な態勢での撮影要請 / 撮影しない時の安全地帯への移動の要請 / 踏切線ジャッジ審判員や光波距離計測装置の配置考慮
- ・当該投てき審判長，主任と連携する。

その他

スタンド内

- ・スタンド内上部のフィニッシュライン付近など適当な場所へ設置する。
- ・観客の視界を妨げない。

リモートカメラエリア

- ・事前申請による設置希望種目の各台数と希望位置の把握 / 当該審判長，主任との位置の事前協議
- ・カメラ設置のタイミングをあらかじめしおり等で案内しておく。
- ・グラウンド周りのリモートカメラ設置許可範囲の把握をしておく。

スタート地点

インフィールド・
グレービースカメランのみ

10m以上

□ スターター

⇒

□ リコーラー

アウトフィールド

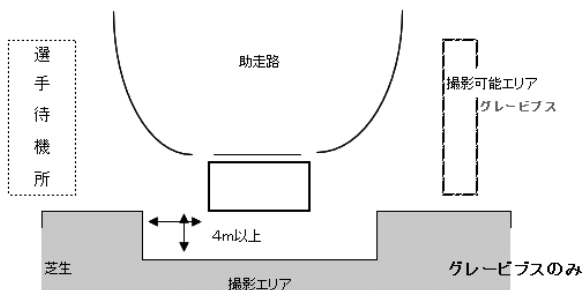
10m以上

The diagram illustrates the starting point for the relay race. It shows a horizontal line representing the field boundary. Above the line, a square labeled 'スターター' (Starter) is positioned. A double-headed arrow indicates a distance of '10m以上' (10m or more) from the starter to the 'インフィールド・グレービースカメランのみ' (Infield: Only Gravel Scamlers). Below the line, a square labeled 'リコーラー' (Relay) is positioned. A double-headed arrow indicates a distance of '10m以上' (10m or more) from the relay to the 'アウトフィールド' (Outfield). A right-pointing arrow '⇒' is located between the two horizontal lines.

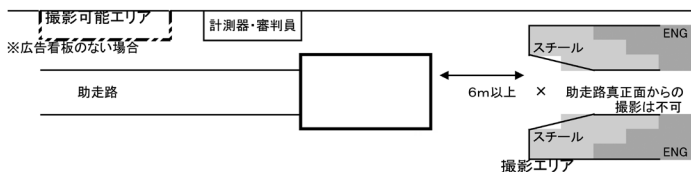
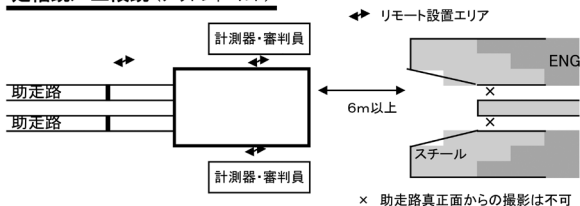
リレー/200m/400mエリア

○走幅跳等に支障のない場合設置

撮影エリア

走高跳 (インフィールド側への跳躍時)

撮影可能エリアは、撮影エリアに加え、さらに競技運営上支障がないと判断した場合に、エリアとして撮影を許可する

棒高跳 (アウトフィールドドット)**走幅跳／三段跳** (アウトフィールド)

砲丸投

防球具(ネット)等を活用し、
弧の外の撮影を可能にする

グレーブスのみ

撮影エリア

撮影エリア

競技者待機所

円盤投

グレーブスのみ

危険区域

防護具(ネット等)を利用し、
弧の外の撮影を可能にする

右投、左投で危険区域が変わるので注意

リモートカメラ設置
(シニア大会)

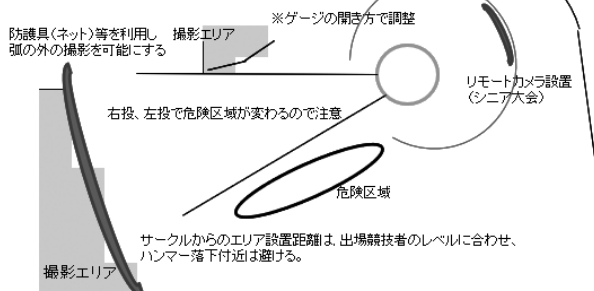
撮影エリア

※ゲージの開き方で調整

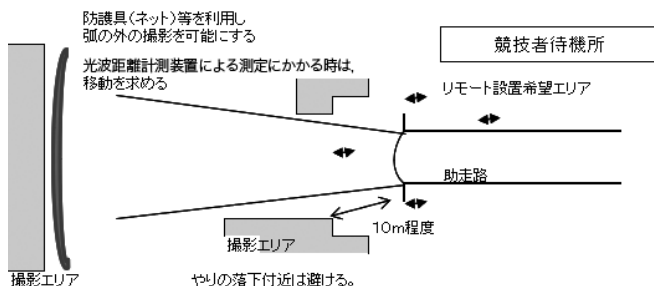
サークルからのエリア設置距離は、出場競技者のレベルに合わせ、
円盤落下付近は避ける

撮影エリア

ハンマー投 グレーブスのみ



やり投 グレーブスのみ



記録・情報処理員

現在の記録・情報処理システムは、道路競技においては、1980年の福岡国際マラソン、トラック・フィールド競技においては、1984年の8か国対抗陸上からコンピューターによる競技記録処理を導入して以来、大会運営の根幹にかかわる業務となっている。日本選手権、国民スポーツ大会などでは申し込み競技者の資格審査の補助データとしての利用やプログラム原稿作成、主放送局、通信社へのリアルタイムな情報提供、競技終了後の総合記録作成、ウェブサイトや携帯サイトへのアップ、本連盟への記録申請まで、一貫して行えるシステムとして定着している。

また、大型映像が設置されている競技場では、システムを用いて競技終了後ただちに結果を発表している。

しかしながら、記録・情報処理にコンピューターが活用されない競技会も数少ないが、残っていることから、コンピューターを利用するしないにかかわらず、記録・情報処理員は従来の番組編成、記録集計・配布、公認記録申請書作成等を行う。

《番組編成員》

1 番組編成関係(番組編成員)の任務

番組編成員の任務については、TR4、TR20、TR25、TR45等によりレーン、オーダー、試技順を決定し発表する(第1ラウンドの発表はプログラム掲載、その後は総務、審判長の承認を得て、招集所付近等に掲示)。

2 番組編成の留意点

トラック競技

① 9レーンの競技場

基本的に1レーンは空け、400mまでの競技は8人でレースを組むことが基本だが、予選の場合は、9レーン全部を使用してレースを行うことが効率的であるなら、1レーンも使用する。

予選より後のラウンドでは、1レーンは救済レーンとして使

用したり、次のラウンドに進む際に同記録者がいた場合などに使用したりする。

② 予選より後のラウンドの番組編成

ルールに従って、予選は資格記録を見ながら、記録上位者が次ラウンドに進出できるように組み、予選が終わった後はその記録と次ラウンド進出条件を見ながら、番組編成する。通常の競技会であれば、決勝進出者は8名、準決勝進出者は16名あるいは24名など8の倍数になるはずだが、競技会で起きたアクシデントなどにより、そうならないケースもある。また、競技場が6レーンしかない場合もある。

どのような場合でも、ランク付けをして組を決定し（TR20.3.2.a, b及びTR20.3.3）、3つのグループに分け、レーンを決定する（TR20.4参照）。審判長救済等で追加のラウンド通過者がいる場合は1レーンに配置する。競技場が6レーンしかない場合は、上位グループ、中位グループ、下位グループにそれぞれどのレーンを割り当てるかなど競技開始前から決めておくといふ。

1500m以上の競技に関しては、進出者を間違えないように抽出し、ランダムに編成する。

③ 欠場者が多数出た場合

組数を変更したり、予選を中止して、決勝だけにしたりする場合がある。招集状況を招集所審判長と共有し、レース前に確認が取れ、変更可能であるなら臨機応変な対応をしたい。ただし、そうするかどうかはトラック審判長の判断による。

フィールド競技

① 予選が行われる場合、その人数により組数を決定する。予選通過標準記録を突破した競技者は全員決勝ラウンドに進める。また、記録突破者が12人に満たない場合、予選の成績から追加補充をする。12位の競技者が同記録で複数名のときにはTR25.22、TR26.8を適用する（TR25.15）。

② 決勝ラウンドの試技順は抽選でランダムに組み、発表すると共に、決勝用のフィールド記録用紙を準備しておく。

混成競技

- ① 混成競技におけるトラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は最終種目（800m, 1, 500m）を除いてプログラムに掲載する。200m, 400mは、TR20.3.1, TR20.4.4, および20.4.5に従ってレーン順を決めなければならない。それ以外の種目の試技順やレーン順は抽選によって決める。最終種目はそれまでの総得点の上位者が最終組に含まれるように編成し、混成審判長に確認を受ける（TR39.7）。
- ② 途中、棄権者等により、混成競技審判長から組編成を変更するよう指示があった場合は再編成する（TR39.7）。
- ③ 各組の人数は5人以上で編成することが望ましく、3人未満にしないようにする（TR39.7）。走高跳、棒高跳では競技運営面から2ピット（2組）編成にすることもある。

8レーンの競技場にて発生した番組編成上の問題点

近年では9レーンの競技場にて開催される大会が増えたため、予選においては9レーンをフルに活用することにより、予選の組数を減らす効果を生み出していた。

準決勝以降の番組編成において、9レーンの競技場では1レーンを救済レーンとして確保しておく考え方が一般的になってきていたために、次に発生したような事例について、競技規則に記載のない場合、解釈によって考え方が色々あることが判明した。

予選9組2着 +6で24名を選出し、3組2着 +2で決勝を行う予定だったが、予選において抗議による次ラウンド進出者が1名増えたために、レーンに空きが無くなり、組数を増やして、24名の有資格者 +1名の25名4組で準決勝を争うこととなった。

主管陸協で普段行っている番組編成の基本的な考え方として3グループに分けて、上位グループ4名、中位グループ1名、下位グループ1名とし、2レーンから割り当てた。

この時、抗議による進出者をどこの位置で扱うかが議論になった。番組編成の基本に習えば24番目と25番目が同じ組になる。抗議による次ラウンド進出者は当然25番目である、という考え方から1レーンに入れる、という案と2レーンから割り当てているから1レーンは必ず空けるという案があった。

1レーンを空けて2レーンから組んだ場合

組	下位		上位				中位	
レーン	1	2	3	4	5	6	7	8
1組		24	1	8	9	16	17	25
2組		23	2	7	10	15	18	
3組		22	3	6	11	14	19	
4組		21	4	5	12	13	20	

この場合、25番目を8レーンに入れると中位グループとして扱う事になり、21、22、23、24の下位グループに割り当てられた者と不公平が生じる。
1レーンに入れる案もあるが、8レーンが空いている状態になり、内側のレーンを空けることが望ましいという規則に反することになる。

最終的には以下のように方針を決めて編成を行った。

○上位、中位、下位の3グループを作るという競技規則の最初の大前提を崩さずに編成する。

○救済者を順番として22番目として扱い、21番目の有資格者と同じ組にする。

○蛇腹による組み分けは以下の通り。

組	下位		上位				中位	
レーン	1	2	3	4	5	6	7	8
1組		25	1	8	9	16	17	
2組		24	2	7	10	15	18	
3組		23	3	6	11	14	19	
4組		22	4	5	12	13	20	21

《記録・情報処理員》

1 記録・情報処理関係の編成

記録情報部署は班編成により任務の正確・迅速化を期す。

〈班編成〉例

- ・主任（副主任）
- ・成績記録班（トラック/フィールド/混成の部、得点計算）
- ・記録整理班（記録の確認、成績一覧表、公認記録申請書作成）
- ・印刷・送信班

各班員は各自が以下の任務を行うと同時に互いの連携を密に

する。

2 記録・情報処理の任務

① 競技会前の情報処理

(a) 出場競技者の基礎データ

氏名（漢字，読み仮名），所属団体（学校）名，学年，生年，ナンバー，出場種目，参加資格記録等を整理し，番組編成員に渡す。

(b) 訂正，変更等の競技会開始前の諸連絡事項

監督会議における変更事項（予選通過標準記録の修正，高さの競技の高さの修正等），その時の欠場等の情報を把握し，関係部署に連絡する。

(c) 競技会に必要な記録の把握

世界記録，日本記録（含む U20・U18），学生記録，高校記録，中学記録，大会記録等その競技会に必要な記録を確認し，プログラム原稿とする。また新記録が誕生したとき，どこまでをコメントとして発表するのかあらかじめ主催者や総務と打合せをしておく。

② 競技会当日の記録・成績の集計

各審判長，計時員主任，決勝審判員主任，写真判定員主任，競技者係，風力計測員，フィールド審判員，科学計測員から提供される各種目の結果を集計する。

(a) トラック競技の集計は，記録用紙に写真判定の記録，もしくは決勝審判員主任からの着順および計時員主任からの計時値，風向風速が必要な種目については風力計測員からの風力値などを記入する。欠場（DNS），途中棄権（DNF），レーン侵害（L），失格（DQ），各種の新記録が生じた場合，備考欄に記入する。失格の場合にはその理由も簡潔に記す（競技規則違反の場合はどの規則に違反したかを明記（CR25.4））。

(b) フィールド競技の集計は記録担当者，科学計測員，審判長によって整理されてくる記録表について，最高記録，順位，各種の新記録，風力の確認（走幅跳，三段跳）を行う。

(c) 得点集計は各決勝種目終了後、速やかに大会で定められた得点を発表する。

(d) 各種目の順位の決定は競技規則にあるが、対抗（校）戦の順位決定方法については、総務と確認する。

※記録の集計・確認が済んだら成績記録表を必要部数作成する（複写等）。

※次のラウンドが行われる場合は、データを番組編成員に渡す。

③ 成績の発表

各種目の結果（リザルト、スタートリスト等）をアナウンサー（含む大型映像係）に伝え、総務に渡し（審判長、表彰係、報道係等に配布する）、掲示板に発表する。

④ 記録証明・記録申請等について

公認記録の申請書作成のためにプログラムの変更点を訂正し、成績表を作成する（コンピューターを使用している場合は、データベースでよい）。

日本記録等の申請用紙及びドーピング検査（必要な場合）の準備をする。記録誕生時には申請書類の作成のために総務に協力する。

また、記録証明書発行の手順を確認しておく。

3 記録・情報処理の留意点

① 競技開始前

競技者係において、招集完了時刻後、出場者と欠場者が把握されたスタートリストが配布される。このデータにより成績記録用紙のレーン順、ナンバーをチェックしておく。

また、トラック競技において欠場者が多く、前ラウンド実施の必要がない場合や組をまとめることが適当であると判断される場合には、総務や審判長に確認する。

② 競技中

競技の状況を監察し、競技中のトラブルをチェックしておく。

③ 競技後

競技中にチェックしたトラブルが解決されているか確認する。

トラック競技で黄旗が上がった場合には、必ず審判長より監察員記録用紙を受領し、裁定結果をリザルトに反映させる。記録を確定させる前に、未記入（DNSの記入漏れやDNFの把握）がないか、フィールド競技で記録がない場合に記録なし（NM）が記入されているか等の最終確認を行う。

④ リザルト，スタートリストの配布

リザルト（予選，準決勝，決勝），スタートリスト，番組編成の用紙は、色分けされていると分かりやすい。

コンピューターを利用する競技会運営

全国大会や国際大会規模の大会処理は、ほとんど参加申込みから記録集印刷原稿作成までを行う場合が多い。大会によっては、プログラム作成と大会運営システムは、別々に依頼していることがあるので、各加盟団体主催競技会等を含めてコンピューター処理はどの段階までを行うのか後々の混乱を避けるために事前に確認する必要がある。

〈確認事項〉

- ・ 申込から資格審査の段階で利用するか、競技会処理だけを行うか。
- ・ プログラムの印刷原稿を作成するか。
- ・ インターネット上に記録等を発表するか。
- ・ ペーパーレス大会運営をどこまで行うか。
- ・ 競技終了後、デイリープログラムを作成するか。
- ・ 記録集を発行するための原稿が必要か。
- ・ 参加した各加盟団体に電子データを提供するか。
- ・ テレビ中継等オンラインによるリアルタイムのデータ提供が必要か。

1 記録センターの設置

コンピューターを利用する競技会では、記録センターを設置する。記録センターでは総務または総務員（総括）の下で記録に関するすべての情報を管理把握するとともに、各部署で使用しているコンピューターが正常に作動しているかについても管理把握する。

① 構成

全国的大会における基本人数（大会期間、1日の競技時間、競技会の性格、種目数等によって増減する）

＜センターメンバー＞

記録センター長 1人（総務員になる場合が多い）

副センター長	1人（記録情報主任になる場合が多い）
番組編成員	2～3人（得点集計係を兼ねることもある）
記録担当	2～4人
情報処理担当	6～10人
システムエンジニア	2～4人（公認審判員とは限定しない）
印刷係	8～10人（必要な場合のみ割り当てる）
※どの担当にも補助員が必要な場合がある。	

競技者係、番組編成員、大型映像操作員（競技場に設置されている場合）、アナウンサー、得点集計係（記録員や番組編成員が兼ねる場合もある記録員や番組編成員が兼ねる場合もある）、混成競技係、科学計測員、風力計測員、写真判定員、フィールド審判員、出発係、監察員など、それぞれの場所で機器を操作する部署との密接な連携が重要である。それらの部署の機器操作に記録センターから審判を派遣する場合は、任務に応じた増員が必要である。

② 任務

記録センターの大会での業務は、機器の設営から開始される。事前に競技開始時刻を周知徹底し、業務開始集合時刻を決定して準備に入る。

大会前日までに準備を開始することが可能であれば、可能な場所から設営しておくことが望ましい。

(a) 記録センター長

センター内におけるすべての業務を統括し把握する。

(b) 副センター長（記録情報主任）

センター長を補佐し、他部署との調整を行う。

(c) 番組編成員

予選以降のラウンドの番組編成を行う。競技会の性格によっては決勝後の得点集計係を兼ねる。申合せ事項等により規則に定める以外の編成を行う場合には、事前に主催者に編成基準を確認しておく。

(d) 記録担当

記録の点検を複数人で行う。新記録の管理、競技会記録・申

請書類の作成も行う。

(e) 情報処理担当

コンピューターやインカムの管理、測定機器（写真判定装置、光波距離計測装置）や表示装置（大型映像表示盤、フィールド競技記録電光表示盤）との運動接続等を担当する。

競技会前に情報処理機器の操作方法を各担当部署の競技役員に講習し、操作間違いや機器のトラブルのときに対応する。

(f) システムエンジニア

ハード・ソフトウェアの専門技術を担当する。加盟団体内で機器・操作に熟知した審判員を割り当てることが前提だが、全国規模の大会等では、予期せぬ事態が発生することがあるため、専門職があたることもある。

特に競技規則以外で特別な申合せ事項を決めている場合には、ソフトウェアの機能追加・修正などが必要な場合もあるので、大会準備の段階から連携していることが望ましい。

(g) 印刷係

各種リストの印刷・配布を担当する。あらかじめ配布先、必要枚数を確認しておく。大規模な大会で印刷室が複数になる場合は人数を増やす（配布は補助員が行うこともある）。

2 留意点

① 情報処理の機器整備と位置付け

加盟団体内で情報処理を行うには、二つの大きな要素が整備される必要がある。

まず、第一にコンピューターなど情報機器のインフラ整備である。情報機器は全国大会や国際大会を開催する第1種公認競技場の使用条件になっているが、実際に競技場に導入されたとしても、そこに出かけてデータ作りを行うわけにはいかない。

競技会のときだけ特別に業務が発生するのではなく、日常恒常的に業務が行われているのが実状なので、委員会や部を位置付けるとともに加盟団体で自由に使用できる機器を導入することも計画しなければならない。個人の好意で機器を使うことにもおのずから限界がある。十分に検討した上で、一部の人間だけに業務が

集中しないように方向付けを行うことが望ましい。

第二に情報処理部門の位置付けである。コンピューターを取扱う情報処理部門については、加盟団体内での機構に組み込み各種競技会や講習会で部門員を養成することが必要である。このことは浸透してきているが、より多くの競技会でのコンピューター導入のために継続的な養成をお願いしたい。

② 個人情報の保護

コンピューターを利用することで情報を簡単に交換できるようになった。データをまとめ、メールでエントリーしたり、結果を簡単にブラウザ上で見たりすることができる。安易にそのようなことができるようになったが、だからこそ必要な人が必要な情報だけを見られるように制限をかける必要がある。個人情報保護の観点からは是非、この問題に関してはじっくり考え、対応したい。

〔参考〕

① 配電施設の配慮

競技場に情報機器等の弱電施設が整備されるようになってきている。今後、競技場に弱電設備を導入または改修するときは、以下の点を考慮して計画することが望ましい。

〈弱電施設の導入・改修時の留意点〉

- ・競技場の規格に合致しているか。
- ・コンピューター室（記録室）やフィールドアリーナの弱電ハンドホールの電力容量は十分か。
- ・コピー機や内線、Faxが設置されているか。
- ・屋内および屋外のケーブルの取り出し位置が適切か。
- ・コンピューターやインカム、タイミングシステムのケーブルが正しく敷設（埋設）されているか。
- ・コネクタ盤のコネクタの取り付け方が統一されているか。
- ・インカム配線の端子台はチャンネルごとに分けられているか、混線はないか。
- ・コネクタ取付のピンアサインは間違っていないか。

- ・ハンドホールおよび屋外のコネクター端子盤の防水加工は十分か。
- ・無線 LAN を使用する場合、利用台数を想定した負荷を考慮してアクセスポイントが設置されているか。
- ・低電位のバックアップバッテリーは確保されているか。
- ・その他加盟団体が特に要望する設備、規格等満たされているか。

など

② システム導入について

- ・現在、陸上運営システムとして、数社が開発運用しているが、すべて統一されているものではないので各加盟団体で競技場や使用条件等を検討する必要がある。
- ・競技場内のネットワーク (LAN)

大別すると下記のネットワークが考えられる。今後、新設・改修する場合、LAN 方式の単体使用より組み合わせて使用することが増えると考えられる。

名称	伝送導体	規格・伝送速度	最大伝送距離
イーサネット (Ethernet)	ツイストペアケーブル 光ファイバー	IEEE802.3 10M/100M/1000Mbps 10Gbps	100m 100m～数十 km
無線 LAN (WirelessLAN)		IEEE802.11 a/b/g Wi-Fi4～6 2Mbps～9.6Gbps	数 m～数百 m

ただし、組み合わせた場合は、最低の速度となる。

※無線 LAN を屋外で使用する場合には、他の無線設備や電子機器等との干渉を受けやすいためあらかじめ通信状態の確認が必要である。新しい規格も出現し、さらに複雑になってきているが、まずはその競技場にあったものを専門家と相談しながら導入することが望ましい。特に大規模大会では警備の関係上、他に無線を多く用いる部署もあることから注意が必要である。

3 記録の速報について

コンピューターを利用することで迅速で正確な記録処理が可能になった。しかし、コンピューターも一つの道具に過ぎないので、使い方を間違えるとまったく機能しなくなるため、人間がきちんと管理しなければならない。

そのことを踏まえ、コンピューターを利用した記録速報について検討したい。

現在、大型映像表示装置が設置してある競技場では映像と記録発表を効果的に組み合わせて、競技会を盛り上げるとともに、競技を見る人がいろいろな意味で陸上競技に対して興味や関心を持てるように工夫をしている。その中で記録速報は、フィニッシュ付近に置かれたフィニッシュタイマー（トラックタイマー）、フィールド各ピットに置かれた記録電光表示盤、また大型映像表示装置を利用して写真判定の結果をその場で見せるライブリザルトという手法が用いられている。すべて速報であるので、アナウンサーが「速報です。正式結果をお待ちください」などとアナウンスしたり、大型映像には「判定中」等の文字を表示したりするなどして、今、どのような結果が競技場内に知らされているのかを確認しながら、正式結果をできるだけ迅速に正確に示す必要がある。

大型映像での速報表示ができない競技場では、別の記録速報の出し方を検討する必要がある。フィニッシュタイマー（トラックタイマー）やフィールド電光表示盤（フィールド記録掲示板）などがあれば、それを有効に活用して正確で迅速な記録速報を発表する工夫をしたい。また、正式結果をいち早くたくさんの人に伝えるために、速報サイトに記録を掲載し、携帯電話（スマートフォン）から記録が確認できるようなサービスなども有効である。

その競技会に合った記録速報の形を探り、迅速かつ正確な発表ができるよう心がけたい。

ラウンド通過と番組編成に関して

A：トラック競技

1. レースの全部か一部に各自のレーンを用いる種目
- (1) ラウンド通過者に同着があるときは下記(2)の場合を除いて同着者全員を次のラウンドに進ませ、記録上位によるラウンド通過数を減じる。
- (2) 複数組のラウンド通過者に同着があり、記録上位によるラウンド通過数をゼロにしてもなおレーンが不足する場合は次の手順で通過者を決定する。
- 1) 各組内の同着者で抽選し組内の着順枠通過者を決定する。
- 2) 残りの枠は、前のラウンドの記録に関係なく、上記1)での抽選に漏れた競技者全員で抽選し次ラウンド進出者を決定する。
- 〈例1〉 3組2着+2の準決勝結果が以下の状況であった場合
- 第1組 1着 A君2着 B君2着 C君4着以下省略
- 第2組 1着 D君2着 E君2着 F君4着以下省略
- 第3組 1着 G君2着 H君2着 I君2着 J君5着以下省略
- 1) B, Cから1人, E, Fから1人, H, I, Jから1人を抽選によって選び着順枠の6人を決定する。
- 2) 残りの枠(8レーン競技場では2, 9レーン競技場では3)は、上記1)での抽選に漏れた4人全員で抽選して決定する。
- 〈例2〉 2組4着の準決勝の結果が以下の状況であった場合
- 第1組 1着 A君2着 B君3着 C君4着 D君4着 E君
- 第2組 1着 F君2着 G君3着 H君3着 I君3着 J君
- 1) D, Eから1人, H, I, Jから2人を抽選によって選bi、着順枠の8人を決定する。
- 2) 9レーン競技場では、上記1)での抽選に漏れた2人で抽選して1人を決勝進出者に加える。
- Q：第2組の落選者は3着同着なので、第1組の4着同着落選者よりも上位ではないか？
- A：第1組の落選者の格付けは組内で5番目、第2組の落選者も

組内では5番目となるので同格とみなす。着順は組内で独立しており、他の組の着順と比較はしない。

(3) 救済措置があり、ラウンド通過数が増えた時の番組編成

1) 9レーン競技場の場合

前のラウンドで救済があった場合は9レーン目を使用し、救済者のレーンシードは下位グループに含める。救済が無く、9レーン目が空いている場合は、前のラウンドの通過最終枠同着者を次のラウンドに進ませるが、同着者が複数ある場合は先に示した方法によって抽選して通過者を決定する。

2) 8レーン競技場の場合

準決勝は組数を増やすなどして対応するが、決勝は前のラウンドの着順あるいは着順+記録上位のみとし、前のラウンドでの救済は原則として行わない。

2. レーンを用いない種目

ラウンド通過者に同着がある場合は、その全員を次のラウンドに進ませ、記録上位による通過数は変えない。

B：フィールド競技

1. 予選を行う場合は各組の競技力が均等になるように編成する。
2. 決勝だけを行う長さの跳躍種目において、最初の3回の試技を2か所に分けて行う場合は両組の競技力が均等になるように編成する。

1つのレーンに2人を入れることができる 800m

前ラウンド通過後の100mから800mまでのレーンシードの方法はTR20.4に示されているが、同条項で800m競走ではそれぞれのレーンで2人の競技者が走ってもよいとしている。

つまり、次のラウンドにタイムで進出する最終枠に同記録者がいたり、妨害を受けた競技者を審判長が救済するときなどは、この〔注意〕を適用して1つのレーンに2人を配置して、レーン数を超える競技者数で実施することが可能となる。

そうした状況下でしばしば議論されるのは「どのレーンに複数の競技者を配置するべきか」という問題である。競技規則に従って考えると1, 2レーンとなるが、接触等の安全面を考慮すると外側のレーンを使用すべきという意見がある。

ただし、近年の大規模競技会（例：日本選手権やゴールデングランプリ）では、外側レーンぎりぎりまで広告ボードがぐるりと配置され、sisに連結しているスターティングブロックも外側レーンのぎりぎりに置かざるを得ない状況がある。したがって、このような状況では8レーンの競技場の場合、一番外側の第8レーンを避け、一つ内側の第7レーンを使用することが適切であると言えよう。広告ボードやsisの機器がない場合は一番外側の第8レーンを使用することが適切である。

当日、混乱をきたさないようにするためには、競技注意事項の中に「800m以上の種目で最終枠に同タイムがあった場合は、その全員が次のラウンドに進出できることとし、800mについては中位の第8（7）レーンに2名の競技者を配置する」等のように明記しておくことを推奨する。

また10人で実施しなくてはならない場合は7, 8レーンの混雑を避けるために第8（7）レーンの次には第2レーンに2人を入れるとよい。いずれの場合も外側レーンは中位グループで、内側レーンは下位グループで抽選する。

9レーンある競技場では通常、第1レーンは予備レーンとして空けておく。救済があり10名で実施しなければならない場合の例を以下に2つ示す。

〈中位の8, 9レーンに3名配置する場合〉

救済された2名は1, 2レーンに, ランキング8位の1名は第3レーンに配置される。ランキング中位(5~7位)の3名は抽選で8, 9レーンに配置される。この場合トラックの状況にもよるが第8レーンまたは第9レーンに2名の場合もある。

〈1~3レーンに4名配置する場合〉

救済された競技者2名は1, 2レーンで抽選され, ランキング7, 8位の競技者は2, 3レーンで抽選され第2レーンに2名配置することが望ましいと言える。

医師(医務員)

1 医師および医療チーム

(1) 国際競技会役員

CR3で、世界選手権、オリンピック大会、WAS大会、エリア大会、エリア選手権大会において、医事代表およびアンチ・ドーピング代表を置くとされている。医事代表は、医事関係の事項について最終的な権限を有し、競技場において医学的検査、治療、救急医療を行える適切な施設の提供、および選手村における医療の提供を確保する(CR6)。アンチ・ドーピング代表は、ドーピング検査を行う適切な施設を整え、ドーピングコントロールに関する事項について責任を負う(CR7)。

(2) 国内競技会

CR13で、主催者は競技会役員として医師(医務員)1人以上を任命することと規定している。規模の大きな競技会(都道府県選手権クラス以上)や道路競技会では医療活動を医師1人で行うのではなく、医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士などで構成される医療チームで行うべきである。道路競技では審判員を医務係としてチームに加え、救護車および収容バスに同乗させる。

参加する医療スタッフ全員は、主催者から競技会役員としての委嘱を受ける。

競技規則では医師の権限や任務についての記載はないが、競技会運営上、医師の判断や指示が必要な事項が多いため、その役割は重要である。代表的な事例は、競技中の医療処置である。競技中の競技者に対する助力は厳しく禁止されているが、主催者が任命した医療スタッフ(医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など)による医療処置は、助力とはみなされない。TR6(競技者に対する助力)に「診察、治療、理学治療は、大会組織委員会に任命され、腕章、ベスト、その他識別可能な服装を着用した公式の医療スタッフが競技区域内で、または、この目的のために医事代表もしくは技術代表の承認を得たチーム付き医療スタッフが競技区域外の所定の治療エリアで行うことができる」と記載されている。

競技者は、主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命じられたときは、ただちに競技をやめなければならない（TR6.1）。現実的には、医療スタッフから競技者に対する競技中止の助言をもとに、主催者が競技者へ競技中断を指示することとなる。

2 資格

競技会における医療スタッフ（医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など）には公認審判員の資格は不要である。しかしながら、医師については日本医師会による健康スポーツ医研修制度、日本スポーツ協会によるスポーツドクター研修制度、日本整形外科学会によるスポーツドクター研修制度が実施されているため、これらを修了した者であることが望ましい。また、陸上競技を行っていた、もしくは現在行っている医師は、競技規則にも精通しており、かつ陸上競技者の心身の変化を理解しやすいので適材であろう。スポーツ看護に関する研修制度はないが、スポーツ現場に精通している保健師・看護師がよい。保健師・看護師資格をもっている公認審判員も多く、このような審判員に医療チームに加わってもらおう。トレーナーは本連盟が実施している陸上競技に特化したトレーナーセミナーを受講修了した者、または日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を持つ者が望ましい。鍼師、灸師、あん摩・マッサージ・指圧師、柔道整復師、理学療法士の資格を持っているトレーナーは、その資格の範囲内で競技者への対応も自ら行える。医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士は心肺蘇生術や自動体外式除細動器（AED）の取り扱いに習熟していることが求められる。

3 任務

医療チームの任務は、競技者、サポートスタッフ、競技会役員、ボランティアスタッフ、報道関係者、本連盟関係者、観客およびVIPに対して医療サービスを提供することである。主催者は大会の規模により医事衛生委員会を組織し、事前の打合せと適切な準備を行うことが必要である。

国内競技会の場合、医療サービスを行う場所の範囲は主に競技場

とウォームアップ場であるが、国際競技会の場合には練習場、選手村、VIP ホテルや報道関係者宿舎も含まれる。競技会の応急処置に対する医療サービス費用は主催者がまかなうのが原則である。しかし、応急処置のみでは対応できない事態に備え、主催者は参加者全員を対象とする疾病・傷害保険に加入するか、もしくは参加者・参加チームに疾病・傷害保険への加入を義務づける。また、主催者は後方協力医療機関を前もって指定し文書で依頼する。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。競技会における医療サービスは応急処置を行うまでであることを競技会要項に明記する。

本連盟（医事委員会）はドーピング検査を実施する国内競技会に対して、医事およびドーピングコントロールに精通したナショナルフェデレーションリプリゼンタティブ（NFR）を派遣する。NFRは本連盟および主催者の立場で、競技会における検査、治療、救急、処置についての設備を確保し、かつ日本アンチ・ドーピング機構（JADA）認定 DCO（ドーピングコントロールオフィサー）と協同し、ドーピング検査が円滑に行われる設備を確保する。NFRが派遣される競技会では、主管都道府県陸協は医事確認書を本連盟に送付し、NFRに情報提供をして必要であれば指示を受ける。

国際競技会の場合には、医事代表とアンチ・ドーピング代表がWAもしくはアジア陸連より派遣されるので、連絡を密に取り、競技会運営が円滑に行われるようにする。

4 競技場における医務活動

主催者は医療スタッフを任命する。

競技会の属性（競技会の規模や出場する選手の年齢層など）に応じて、医療チームはメディカルステーション（医務室、救護室）、トレーナーステーション、スタジアム救護ステーション（以下 FOP 救護ステーション）の3ステーション制を敷くことが望ましい。その場合、主催者は大会規模に応じて十分な人数の医療関係者を任命することが必要である。

メディカルステーションには医師、保健師・看護師が常駐する。主に競技場、ウォームアップ場において傷害を受けた者に対して応

急処置を行うため、競技の進行や傷害の発生機転が把握でき、かつ傷害を受けた競技者の移送を考え、競技場フィニッシュ付近のトラックに面した場所が望ましい。トレーナーステーションは、ウォームアップ場の中でメインスタジアムへの動線に近いところに設置し、競技者へのサービスとしてのコンディショニングやテーピング等に加え、競技中の事故や外傷、疾病を未然に防ぐことを目的とするため、様々な資格背景のトレーナーを複数名任命することが望ましい。FOP救護ステーションの人員を補完する機能も有している。FOP救護ステーションはメインスタジアムのフィニッシュ付近と第二曲走路入口あるいは棒高跳のピット付近に設置し、トレーナー等陸上競技のルールや競技特性を理解した救護人員が待機する。大会の規模が小さく、救護人員が不足する場合でも、競技エリアを直接観察できる場所に複数名常駐することが必須であり、人員が豊富な場合には2班から4班程度の編成で行う。待機場所はトラック、フィールド両方の選手の競技が見える位置が望ましい。競技会役員が医療チームスタッフに必ず連絡がとれるようにするため、各ステーションには携帯電話（スマートフォン）、トランシーバーなどを用意することが望ましい。また、医療チームスタッフは、それとわかる目印となるものを身につける必要がある（TR6：競技者に対する助力を参照）。

5 ドーピングコントロール

競技会におけるドーピング検査（競技会検査）はWAから指示され実施するものと、JADAが実施するものがある。

ドーピングコントロールを実施する競技会は、その旨を競技会要項に記載する。また、WAおよびJADAは競技会外検査も実施することがある。競技会外検査の対象となる競技者は主として、WAもしくはJADAの登録検査対象者リスト競技者である。

主催者は競技会役員としてシャペロン役員、検査室役員を任命する。それぞれの役員の要件はJADAにより定められている。JADAは、リードDCOおよびその他のDCOを決定する。DCOはリードDCOの指揮のもと、ドーピングコントロールステーションの設営、採尿立ち会い、検査手続きなどを行う。採尿立ち会いDCOは競技

者と同性でなければならない。本連盟（医事委員会）より派遣される NFR は本連盟および主催者の立場で、DCO と協同し、ドーピング検査が円滑に行われるようにする。ドーピング検査の対象競技者は基本的にリード DCO の指示により定まる。

シャペロン役員は 18 歳以上の成人とする。シャペロン役員は検査対象競技者と同性でなければならない。JADA から指定のあった男女それぞれの人数を手配する。シャペロン役員は JADA が指定した時間に集合する必要がある。シャペロン業務中に他の業務を兼務することはできない。シャペロン役員はドーピング検査の対象競技者に通告し、それ以降、競技者に付き添う。対象競技者は通告後、速やかに検査室に到着しなければならない。競技者が 18 歳未満の未成年の場合には、成人のサポートスタッフを通告時およびドーピングコントロールステーション入室時、検査時に付き添わせるように競技者に伝える。対象競技者から水分摂取の要求があれば、3 本程度の中から対象競技者自身に選択してもらう。シャペロン役員から直接手渡してはならない。主催者はシャペロン役員数について NFR に事前に報告しなければならない。検査室役員はドーピングコントロールステーションの設営、セキュリティの確保、対象競技者などの受け入れ、他の競技会役員との連絡調整などを行う。

ドーピングコントロールステーションは独立した区画で、対象競技者の競技終了後の動線と、関係者以外の出入りをコントロールできるセキュリティを考慮して配置する。検査室は、1. 受付、2. 待合室、3. 検査手続き室、4. 採尿室（トイレ）で構成される。実施する検査数の規模により広さや採尿室数は異なる。血液検査が実施される場合には、採血室を準備する。詳細については、当該競技会 NFR およびリード DCO に確認する。

ドーピングコントロールステーションにおいて必要な物品について挙げる（表 3）。ドーピング検査を新たに実施する希望のある競技会は、事前に本連盟事務局まで相談すること。

ドーピングコントロールについては本連盟発行「クリーンアスリートをめざして 2024」、またはその最新版および JADA ウェブサイトを参照のこと。

国際競技会では WA もしくはアジア陸連より派遣されるアンチ・

ドーピング代表の指示に従う。同記録を含む世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録（もしくは同記録）として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出なければならない。なお、同記録を含む世界記録とアジア記録は、U20およびU18のものを含むものとする。

日本国籍を有する競技者が世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した際の検査費用は、国内外の競技会を問わず本連盟が負担する。海外の競技会で、現地支払いを求められる場合は、競技者個人の立替え払いとし、帰国後本連盟が検査費用を弁済する。

海外の競技会において、日本記録を樹立しドーピング検査が行われなかった場合は、日本に帰国後ただちにドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように競技者は本連盟事務局へ連絡しなければならない。対象者は、禁止薬物を摂取することがないように注意しなければならない。国内の競技会において、同記録を含む日本記録（オリンピック種目のみとする）を樹立した場合は、記録確定後24時間以内にドーピング検査を受ける必要がある。主催者は本連盟事務局員にただちに連絡し、ドーピング検査の実施方法について確認する。

18歳未満の競技者については親権者からドーピング検査に関する同意書を得る。そのことも大会要項に記載されなければならない。18歳未満の競技者が検査対象となった場合には、リードDCOが本人から同意書を受け取る。万一検査時に同意書が取得できなかった場合には、速やかにJADAに直接郵送してもらう。DCOは同意書の取得に全く関与しないので、NFRが対象である18歳未満の競技者に伝える。また、この同意書は1度提出されれば、それ以降の検査時に提出する必要はない。

6 トレーナー活動

主催者により任命されたトレーナーはそれと明示されたビブスや腕章等を着用する。

メディカルステーション(医務室、救護室)、トレーナーステーショ

ン、FOP救護ステーションの3ステーション制を敷く競技会でのトレーナー活動は、競技者の安全確保のため、トランシーバーなどを用い、メディカルステーションと緊密な連絡を行わなければならない。ステーションの人員は、相互に連携、補完し、配置を順次転換することも可能である。大会規模が小さく人員が少ない場合には、メディカルステーションとFOP救護ステーションが優先されるが、国内競技会にあっても、競技者の総合的な安全確保のため、主催者は3ステーションの体制を整える努力をする必要がある。

トレーナーステーション班はメディカルステーションと密に連絡をとらなければならない。競技者へのテーピングやストレッチ等、コンディショニングだけでなく、競技中の事故や受傷、疾病を未然に防ぐことを目的とするための、予防的な活動を行う。3ステーション制を敷かない場合であっても、競技者の安全確保のため、ステーション毎に体制を整える必要がある。通常はウォームアップ場付近に設営される。トレーナーの人数に合わせてマッサージベッドが必要である。治療器を用いることも多いため、屋外に設営される場合でもAC電源の準備は必要である。設備について挙げる(表4)。受傷時の応急処置としてだけでなく、暑熱下での不調(熱中症等)に対応するのに必要な氷を十分量用意し、応急処置用とコンディショニング用のアイスバスを分けて準備することが望ましい。

FOP救護ステーション班は、競技中に受傷した競技者に対して、現場にて緊急的処置を行い、または車椅子や担架等にてメディカルステーションに搬送する。通常はフィニッシュライン付近に加え、当該時間に実施中の競技を観察し得る場所に設営する。棒高跳の場合には、ピット付近へ移動し、特にボックスやマット上を観察できるようにする。頭頸部損傷に備え、頸椎カラー、スクープストレッチャー(ヘッドイモビライザーやベルト等の備品を含む)を準備することが必要である。

受傷時の応急処置用としてだけでなく、暑熱下での不調に対応するのに必要な氷を十分量用意する。迅速な深部体温の低下には氷嚢でのアイシングでは不十分であることから、熱中症への対応を行う場所(Heat Deck)を設置し、冷水浸漬法(CWI)やアイスタオルが実施できるように準備することが望ましい。

呼吸や心停止時に備え、迅速な救急要請の準備と、AEDの設置は必須である。

救護ステーションは可能な限り、競技監察可能な日陰を確保することが望ましい。また、その交代要員を準備する必要がある。

7 道路競技における医務活動

スタート、フィニッシュ地点には必ずメディカルステーションを設置する。また、走路上に救護テントを設置する。医師、保健師・看護師、救急救命士などを配置する。メディカルステーション、救護テントにはAEDを配備する。

熱中症発症の危険性が高いと判断する際には、できる限りWBGT計を用いる。道路競技、クロスカントリー等では、競技者がレース中に水分補給できるように、主催者に指示する（TR55.8, TR56.7）。

競技者は、医師または主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命ぜられたときは、ただちに競技をやめなければならない（TR6.1）。

TR6.2「助力」に関する規則では、主催者が任命した医療スタッフが行う理学療法や医療処置は助力とは見なさないとしているが、「上記（公式の医療スタッフが競技区域内で、または、この目的のために医事代表もしくは技術代表の承認を得たチーム付き医療スタッフが競技区域外の所定の治療エリアで行う）以外の他者によるこのような介助や手助けは、競技者がひとたび招集所を出た後は、競技開始前であろうと競技中であろうと、助力である」と規定している。しかしながら、この条項は主として競技場内で実施される種目に関して規定されたものであり、競技が広域にわたって展開される道路競走では医療スタッフが直ちに現場に到着できないことが多いので、主催者は緊急事態が発生した場合に臨機応変に対応できるよう、医療スタッフが到着するまで、監察員や走路管理員に医療スタッフの権限の一部を付託しておく。

AEDを配備した移動救護車、収容バスを用意し、医療スタッフを同乗させる。十分な飲料、毛布などを準備する。競技者を収容したらただちに、大会本部へ競技者名とナンバー、収容地点を連絡する。

主催者は後方協力医療機関を前もって指定し、文書にて依頼する。

医療機関に対しては、道路競技があることを事前に連絡しておく
とよい。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へ
その旨を依頼しておく。

8 医師不在の場合

様々な理由で、主催者が医師を任命できない場合がある。主催者
は審判のなかから、医療スタッフを任命し、後方協力医療機関や救
急隊へ連絡がとれるようにしておく。公認審判員の中の保健師・
看護師免許をもつ者、もしくは救急救命士で心肺蘇生術に習熟し、
AEDを取り扱うことのできる者が望ましい。

主催者から任命された医療スタッフは、競技者に競技中断を命じ
ることができる。

9 選手村、VIP ホテル、報道関係者などの宿舎における医 務活動

世界選手権などの国際競技会では、宿舎において医療サービスを
提供する。宿舎には医務室を設け、医療チームスタッフが対応する。
夜間はオンコール体制とし、24時間対応できるように準備する。

地元医師会へ医師、保健師・看護師の派遣を依頼し、後方協力医
療機関を決めておく。

トレーナーサービスも不可欠である。各国選手団が自由に使える
ように、マッサージ台を備えたマッサージルームを確保する。

細かな点については医事代表の指示に従う。

10 感染症対策

新型コロナウイルス感染症の潜伏期間は最大で14日で、エアロ
ゾル感染、飛沫感染、接触感染で人から人へ伝播する。感染力は
発症の2～3日前から発症直後に最大となり、発症前や無症状の感
染者（感染を受けたにもかかわらず無症状の者）から感染しやすい。
新型コロナウイルスの感染、重症化、後遺症発症に予防効果のある
ワクチン接種を受けることが勧められる。

いかなる立場での競技会参加であっても、参加前後の健康状態を
自身でモニターする習慣づけが重要である。大会医療スタッフは、

大会主催者、行政、保健衛生当局と連携しながら感染症対策の検討、実施において重要な役割を持つ。

陸上競技大会・ロードレース大会医事確認書

この確認書は、大会医事運営を滞りなく行うために必要なチェックリストです。陸上競技審判ハンドブックを参照し、チェック項目を確認のうえ準備を進め、大会 2 週間前までに陸連事務局(E-mail: medical@jfaf.or.jp)へご提出下さい。

大会名	:				
開催会場	:				
競技会開催日	:				
総務ご担当者	:		携帯電話	:	

1. 医師または医療チーム					
統括医事責任者(メディカルディレクター)		氏名		所属:	
医師総数	_____名	看護師	_____名	トレーナー	_____名
				救急救命士	_____名

2. スタジアムでスリー・ステーション制を採用する	・はい	☐	・いいえ	☐	
---------------------------	-----	--------------------------	------	--------------------------	--

3. スタジアムでのステーション設置箇所		
・メディカルステーション	:	
・トレーナーステーション	:	
・スタジアム救護ステーション	:	

4. ロードレースでの救護所設置場所	
--------------------	--

※別紙設置場所の図面をご提出いただく形で問題ございません

5. 物品等のチェック				
・医療品備品チェック		☐	確認済(✓をいれてください)	
・医薬品チェック		☐	確認済(✓をいれてください)	
・自動体外式除細動器(AED)配備		☐	確認済	台数 _____ 台

6. 後方協力病院への連絡		☐	確認済(✓をいれてください)
・病院名		連絡先	

7. 日本陸連医事委員会へ連絡事項などがあればご記載ください	

記入者	:		連絡先	:		記入日	
-----	---	--	-----	---	--	-----	--

表1 メディカルステーションの設備, 備品

下記の設備, 備品は競技会規模やメディカルステーションの広さによって異なる。原則として競技場設備として考える。

流し	1台 (お湯も出る)	
診察用机	1台	
診察用椅子	2脚	
ベンチ	1台	
血圧計	2台	
診察用ベッド	1台 (トレーナー用ベッドのように硬めのもの)	
休養用ベッド	2台	
毛布	4枚	
シーツ	4枚	
まくら	3個	
まくらカバー	3枚	
バスタオル	5枚	
酸素ボンベ	1本 (充填されているもの)	
携帯用酸素ボンベ	2本	
鼻カニューラ	2本 (ディスプレイ)	
洗面器	2個	
大型製氷機	1台	
小ビニール袋	20枚 (アイシングのために必要)	
冷蔵庫	1台	
ロッカー	2台	
場内モニターテレビ	1台	
点滴架台	2台	
ストレッチャー	1台	
電話	1台	
ビニールゴミ袋	5枚 (嘔吐用に黒い袋も準備するとよい)	
WBGT計	1台	

自動体外式除細動器 (AED) 複数台
車椅子の準備も検討すること。

表2 メディカルステーションの医薬品と医療用品・医療器具

Ⅰ. 競技会医薬品（代表的薬剤名をあげる）

(A) 医療用医薬品

（＊：禁止物質であるため、取り扱いに注意を要する）

1. 抗菌薬	
ケフラール, セフゾン, クラビットのうち1もしくは2	
2. 抗ヒスタミン剤	
タベジール, ニポラジンのうち1もしくは2	
3. 鎮痛解熱剤, 抗炎症剤	
ロキソニン, ボルタレン, バファリンのうち1もしくは2	
4. 抗不安剤, 鎮静剤	
セルシン	
5. 電解質溶液	
0.9%生理食塩水, 500ml (TUE必要), 20ml	
乳酸リンゲル液500ml (TUE必要)	
5%ブドウ糖液500ml (TUE必要)	
20%ブドウ糖液20ml	
6. 眼, 耳, 鼻	
タリビット点眼薬	
プリビナ鼻用	
7. 気管支用	
メジコン, レスプレンのうち1もしくは2	
8. 胃腸薬	
セルベックス	
ガスター	
ブスコパン	
9. 局所麻酔剤, 抗炎症剤	
リドカイン1%注(局所注射用)	
デカドロン注(＊：TUE)	
10. 交感神経刺激剤	
(i) エピネフリン注(＊：TUE)	
(ii) サルタノールエアゾル	
11. 狭心症治療薬	
ニトロール舌下錠	

TUE：治療使用特例の申請が必要。

上記は医務室として保健所の認可を得た場合に準備、使用が可能である。そうでない場合は下記(B)で代用する。

(B) 一般用医薬品（医師の処方箋なく、薬局で購入できる医薬品）

解熱鎮痛薬	バファリン A、イブ A 錠
鎮咳・去痰薬	新コンタックせき止めダブル持続性
胃腸薬	ガスター 10、ブスコパン A 錠
アレルギー用薬	アレルギール錠
点鼻薬	パブロン点鼻
目薬	新サンテドウ α
うがい薬	パブロンうがい薬 AZ
皮膚外用薬	バンテリンコーワ

Ⅱ. 競技会医療用品と医療器具

1. テープ	
40mm	
25mm	
25mm エラスティックテープ	
75mm エラスティックテープ	
アンダーラップ	
75mm 弾力包帯	
150mm 弾力包帯	
3M テープ（翼状針用）	
2. 消毒用	
滅菌ガーゼ大、小	
アルコール消毒	
イソジン消毒	
ソフラチュール	
綿球	
7.5cm × 20cm 粘着被覆材 (adaptic dressings)	
ディスボ消毒セット（セッシ、ハサミ、ガーゼ、綿球入り）	
3. 注射器 / 注射針	
5ml 注射器注射針つき	
10ml 注射器注射針つき	
20ml 注射器	
注射針 18、21、23 ゲージ	
点滴セット	
駆血帯	

4. 診断用医療用具	
聴診器	
血圧計	
ペンライト	
パルスオキシメーター	
打鍵器	
電子体温計または鼓膜体温計（測定部カバー付き）	
5. 蘇生用機器	
自動体外式除細動器（AED）	複数台
可能ならばアンビューバッグ	
可能ならば携帯用心電計	
6. その他	
XLバンドエイド	
25mmバンドエイド	
綿棒	
バラマイシン軟膏	
ディスポ舌圧子	
ディスポ外科用メス、 #11と #15	
ディスポ検査用手袋（M, L）	
ペアン	
ウェルパス 300ml（手指消毒用）	
シップ剤	
7. 非消耗品	
1リットルスクイズボトル洗浄用（0.9%生食）	
頸椎カラーポリネック（M, L）	
ソフトシーネ下肢用, 上肢用	
ハサミ	
三角巾	

表3 ドーピングコントロールステーションの備品

DCOが準備する書類，器材以外に競技会主催者が用意するもの
競技会の規模により，備品の準備は異なる。

血液検査を実施する場合には，事前に別途相談を要する。

受け付け	机	1台	
	椅子	2脚	
検査手続少なくとも2室準備する	机	2台	
	椅子	6脚	
	水洗トイレ	1式	
	(十分広くて，採尿の立ち会い役員も一緒に入ることができる。検査数によって複数あることが望ましい。検査手続き室付随)		
待合室	机	1台	
	椅子	10脚	
	ソファ	1台	
	毛布	5枚	
	冷蔵庫	2台	
	(1台は飲料保冷用で待合室に設置する。1台は検体保冷用で錠がかかり検査手続き室に設置する)		
	競技者用飲み物		
	ミネラルウォーター	必要時（カン入りが望ましい）	
	スポーツドリンク	必要時（カン入りが望ましい）	
	カン入り飲料入手困難ならば，ペットボトル可。JADAが事前に準備していることが多いので，要確認。		
	テレビ	1台 待合室に設置	

表4 トレーナーステーション用設備

1. トレーナーステーションが屋外の場合(大会主催者が準備する)
規格は大会規模によって変動する場合がある

(1) テント：2張り～3張り（40～60M）	
(2) 横幕：四方を完全に覆うもの	
(3) 床板：パネルによって床全体を覆うもの雨天に備えて高さ10cm程度が必要である）	
(4) 電源：電源ドラム1～2基（治療機器に使用）	
(5) 照明：電灯の設置（日没後に活動する場合）	
(6) サインボード（日本陸連トレーナーステーション）	

2. 共通設備(大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する。)

(1) マッサージベッド：2～10台	
(2) 救急キット：1～3セット（FOP（競技エリア）救護班2セットを含む）	
(3) 固定装具（リスト A）1～3セット （FOP（競技エリア）救護班用2セットを含む）	
(4) テーピング用品（リスト B）	
(5) 衛生材料（リスト C）	
(6) アイスボックス：大型1～3台	
(7) トランシーバー：メディカルステーション1, トレーナーステーション1, FOP（競技エリア）救護2	
(8) 治療機器：活動するトレーナーの所有資格による。 ホットパック, 低周波治療器, 超音波治療器, その他の治療機器	
(9) テーブル：折りたたみテーブル3～10台	
(10) イス：5脚～15脚	
(11) 担架：1台	
(12) パーテーション：4～8面	
(13) ゴミ箱	
(14) バスタオル30枚/日, フェイスタオル30枚/日	
(15) その他トレーナー活動に必要なもの	

3. FOP（競技エリア）救護ステーション用設備（班数に応じて）

（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する）

(1) 固定装具（リスト A）	
(2) テーピング用品（リスト B）	
(3) 救急キット（リスト C）	
(4) 担架・スパインボード・スクープストレッチャーおよび車椅子	
(5) トランシーバー	
(6) アイスボックス（携帯用）	
(7) パラソル（主に暑熱対策のため）	

【リスト A】固定装具

副子（各部位，各サイズ）	
エアスプリントまたはバキュームスプリント	
頸部固定装具（各サイズ）	
三角巾	
その他の固定装具	

【リスト B】テーピング用品

非伸縮性テープ 12mm, 25mm, 38mm, 50mm	
伸縮テープ（ハード） 25mm, 50mm, 75mm	
伸縮テープ（ソフト） 50mm, 75mm	
伸縮テープ（キネシオソフト） 25mm, 50mm, 75mm	
アンダーラップ	
ラバー（スポンジ）パッド（各種）	
粘着スプレー	
リムーバースプレー	

【リスト C】衛生材料：（救急キットの内容を含む）

滅菌ガーゼ（S, M, L）	
カット綿	
洗浄綿	
滅菌綿棒	
サージカルテープ（12mm, 25mm）	
圧迫用伸縮包帯（75mm, 100mm, 150mm）	
医療用伸縮包帯（50mm, 75mm）	
バンドエイド（各種）	
アイスバッグ	
テープシザーズ	
テープカッター	
ラテックスグローブ	
CPRマスク	
手指消毒液	
創傷用消毒液	
ワセリン	
ビニール袋（40cm以上）	
バスタオル（女性競技者対応，暑熱対応，AED対応のため）	
マッサージ用ローション	
各種軟膏類	
スクイズボトル（洗浄用）	
その他衛生材料	

競技会ドーピング検査(ICT)の手順

1 ドーピング検査対象競技者の選び方

特定の競技者を選ぶこともある（ターゲット検査）が、通常 JADA から対象種目と順位が事前に指定されていることが多い。学生選手権など複数の種目にエントリーしている選手が多いと考えられるケースなどで、JADA による指定が競技運営上不適切と思われるようであればリード DCO と相談の上、変更を依頼することもある。予選、決勝を問わず競技会参加者は誰でも検査対象となる可能性がある。

同記録を含む世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック記録のみ）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出ること。

- (1) 日本国籍を有する競技者が世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみ）を樹立した際の検査費用は、国内外の競技会を問わず本連盟が負担する。海外の競技会で、現地支払いを求められた場合は、競技者個人の立替え払いとし、帰国後本連盟が検査費用を弁済する。
- (2) 海外の競技会において、日本記録を樹立しドーピング検査が行われなかった場合は、日本に帰国後ただちにドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように、競技者は本連盟事務局へ連絡しなければならない。
- (3) 国内の競技会において、日本記録（オリンピック種目のみとする）を樹立した場合は、記録確定後24時間以内にドーピング検査を受ける必要がある。主催者は本連盟事務局員にただちに連絡し、ドーピング検査の実施について確認する。DCO から直接主催者に連絡が入る場合もあるので、主催者は調整を図る。

連絡先：本連盟事務局

※該当が予想される大会の担当者は事前に詳細を本連盟事務

局に問い合わせをすること。

2 対象競技者への通告とドーピングコントロールステーションへの来訪

シャペロン役員は競技終了後速やかに、対象競技者に対して「ドーピング検査の対象である」ことを伝える。その競技者は通告書に署名し、競技者は監視下におかれる。署名の拒否はドーピング検査拒否で、アンチ・ドーピング規則違反と判断される可能性がある。対象競技者が署名した時刻（24時間制）が通告書に書き込まれ、競技者は速やかにドーピングコントロールステーション（DCS）に到着しなければならない。競技者は、DCSに、監督、コーチ、ドクター、トレーナーなどの成人を一人だけ同伴することができる。国外の大会では通訳も一人同伴可能である。未成年者は同伴者がいる前で通告を受ける必要がある。ただし、18歳以上は成人であるため、18歳および19歳の対象者についてはこの限りではない。明確な理由がなく、DCSに速やかに到着しないと、ドーピング検査拒否で、アンチ・ドーピング規則違反と判断される可能性がある。通告後はシャワーを浴びたり、トイレを利用したりすることはできず、着替えもDCO監視下で行う。インタビューや表彰などの時は、シャペロンが付き添う。

3 ドーピングコントロールステーションでの作業

DCSは待合室、検査室、採尿室/採血室で構成される。DCOまたはシャペロンは、競技者を通告書とアスリートビブスで確認し、受付をする。ADカードがある国際競技会ではAD確認をする。DCOは本人確認のために写真付きAD呈示を要求するので、対象者はパスポート、運転免許証、学生証などを用意する。競技者は、十分な量の尿が出そうでないと思ったら、待合室に用意されているスポーツドリンクやミネラルウォーターを飲んでゆったりと待機する。飲み物は冷蔵庫などから自分でとり、きちんと封がなされていることを自分で確認する。ただし、尿検体の低比重化を避けるために飲み物を飲み過ぎないように注意する。開封後に一度目を離した飲料は、何らかの異物が混入される可能性も考慮して絶対に口にしない。

尿が出そうな時は DCO にその旨を告げて、同伴者と検査手続き室に入る。手順については、DCO の指示に従い、水で手を洗った後、密封された採尿カップを1つ選び、競技者と同性の DCO と一緒に採尿室に入り 90 ml 以上の尿を採尿する。同伴者は特別な場合以外は、採尿室には入らない。検査対象競技者が 18 歳未満の場合、同伴者（競技者と同姓でなくとも可）は DCO を採尿室の外から監視できる。競技者は検査手続き室へ戻り、尿サンプルキットを1つ選ぶ。DCO の指示に従い、競技者自身がキットを開封する。A 容器、B 容器、検体番号ラベルを取り出し、すべての番号が同一で、かつ外箱の番号と同一であることを確認する。

競技者は容器のフタを開け、まず B 容器に 30 ml の尿を注ぎ、続いて A 容器に残りの尿 60 ml 以上を注ぎ、フタをしっかりと閉める（これを A 検体、B 検体と呼ぶ）。A、B 検体をビニール袋に入れてキット内に戻し、蓋をする。ビニール袋に入れるのは DCO でも競技者、同伴者でもよい。DCO は採尿カップに残った尿の比重を測定し、各種物質の分析に適した尿検体であるかどうかを確認する。尿量が 90 ml 以上 150 ml 未満の場合、尿比重 1.005 以上、尿量が 150 ml 以上の場合、尿比重 1.003 以上を適正な比重としている（2020 年 3 月より）。尿比重が上記基準未満の場合には、JADA が結果管理する競技会では検査を繰り返すが、次の採尿までの時間間隔の規定はない。

競技者は使用した薬物やサプリメントに関して申告することができ、救急治療や急性病状の治療で禁止物質や禁止方法を使用した場合は、事後であっても遡及的に TUE を申請する必要がある。この場合、通常の申請条件に加え、「緊急性を証明する医療記録」が必要になる（予め TUE の提出が必要とされている大会以外で禁止物質が検出された場合には、遡及的に TUE の提出が求められることもある）。DCO がドーピング検査公式記録書に記入終了後、署名を行い、同伴者と競技者は記載内容を確認する。問題なければ同伴者が署名し、競技者が最後に署名する。競技者は競技者用のコピー（ピンク色）を受け取り、これで競技会ドーピング検査は終了する。尿検体は世界アンチ・ドーピング機構認定分析機関である LSI メディエンスヘチルドゆうパックで送られる。

一度の採尿で90mlに足りない場合には、部分検体となる。部分検体を安全に保管するためDCOの指示に従い、競技者本人が採尿カップを密封する。DCOは部分検体に記載された番号をドーピング検査公式記録書に記載する。部分検体の入った尿サンプルキットはDCOが保管する。競技者は待合室で水分補給をし、尿をためる。

同様の手順で再度、採尿カップを選び採尿を行い競技者本人が採尿カップを密封する。部分検体が正しく保管されていたことを、DCOと競技者が確認する。1度目と2度目の採尿が十分な量であれば、上記のように検査は進むが、足りなければ再度部分検体となる。

待合室で水、スポーツドリンクなどの飲み物は準備される（ビールなどのアルコール飲料は準備されない）が、食事の準備はない。競技者は自己責任のもと、自分で準備した飲み物および食事を摂ることができる。

ひとたび検査室に入ると室外に出られないのが原則であるが、表彰、インタビュー、医師やトレーナーによる処置、もしくはクーリングダウンが必要な時はDCOに相談し、シャペロンが付き添いのもと、室外へ出ることができる。

DCS内では写真撮影、ビデオ撮影は禁止され、検査手続き室では携帯電話（スマートフォン）の使用も禁止される。

また、NFRは国内競技会ではDCSで検査に立ち会うことができる。

18歳未満の競技者については、親権者からドーピング検査に関する同意書を取る。そのことも大会要項に記載されなければならない。未成年の競技者が検査対象となった場合には、リードDCOが本人から同意書を受け取る。万一検査時に同意書が取得できなかった場合には、速やかにJADAへ直接郵送してもらう。この同意書を1度提出すれば、それ以降の検査時に提出する必要はない。

4 血液検査

ドーピング検査の一環として血液検査が行われる大会もある。昨今は競技会検査でも実施されている。特に指定がなければ運動終了後2時間以降に採血する。通告書にサインをした後、検査室で椅子に座り、両足が地面についた状態で10分間安静にする。もし途中で立ち上がるとその後座った時点から再度10分間の安静が必要と

なる。18歳未満の競技者は通告書にサインをする時点から成人の同伴者がいなければならない。

検査に使用する器具を3つ以上の中から選択し、番号などを確認した後、BCO（Blood Collection Officer）が採血を行う。3回穿刺して必要な量の採血ができなければその時点で検査は終了する。この場合は検査未了とはみなされない。

検査終了後の手順は尿検査と同じである。

〔国内〕公式計測員（副技術総務）

1 任 務

公式計測員は、2018年のWA競技規則から削除された。国内競技会では、技術総務の任務の一部を公式計測員に任せている競技会が多く公式計測員は、国内規定で定められた任務である（CR36〔国内〕）。副技術総務が分担して任務にあたっている競技会もある。国際大会では技術総務の下に副技術総務として任務を分担している。技術総務の任務の一部を行うことは、副技術総務の任務の一部となる。

- (1) 競技会前に公認陸上競技場のマーキングと競技施設の正確性を確認し、その旨を技術総務に報告する。これを確認するために、競技場の設計図、図面および最新の計測報告書を閲覧できるようにしなければならない（CR36.1〔国内〕）。

WAの競技会はWA認証競技場で行われる。WA認証競技場は認定された検査機関でマーキングと競技施設の正確性を確認している。国内のWA認証競技場は日本陸連施設用器具委員会の検定が検査機関として認められている。

- (2) 上記の任務のほか、用器具について技術総務に代わって確認する（CR16〔国内〕2）。また、公式計測員は技術総務が兼任するときもある。

2 留意点

競技会では、次の事項について点検、確認をし、技術総務に報告する。用器具係や担当部署が行う設置作業と連携して点検、確認を行う。また、検定報告書を閲覧できるようにする。

- (1) 走路・各施設の確認

- ① トラック1周の距離の確認…検定時の計測結果を確認し、縁石が正しく設置されているか状況を確認する。
- ② 走路の確認…検定時の計測結果を確認し、走路の状態を確認する。
- ③ 走高跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、着地場所

と助走路の状態を確認する。

- ④ 棒高跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、着地場所と助走路の状態及ボックスの設置状況を確認する。
 - ⑤ 走幅跳、三段跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、砂場、踏切板、助走路の状態を確認する。
 - ⑥ 砲丸投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークル、着陸場所（落下域）、足留材の設置状態を確認する。投てき角度、距離ラインを確認する。
 - ⑦ 円盤投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークルの状態を確認する。投てき角度、距離ライン、囲いの設置を確認する。
 - ⑧ ハンマー投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークル、兼用サークルの設置状態を確認する。投てき角度、距離ライン、囲いの設置を確認する。囲いの開口部までの寸法、高さが円盤投用囲いと異なるので注意する。
 - ⑨ やり投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、助走路の状態を確認する。投てき角度、距離ラインを確認する。
 - ⑩ 障害物競走設備の確認…検定時の計測結果を確認し、水濠、固定障害物、移動障害物の位置・高さを確認する。スタートから第1障害まで70mを確保するため第1障害を移動する競技場があるので、注意する。内水濠の時は、移動障害の配置方法が異なる。
 - ⑪ 各スタートライン、テイクオーバーゾーン、ブレイクライン、ハードルの位置の確認…検定時の計測結果を確認する。標識タイルからスタートライン、テイクオーバーゾーン、ハードルの位置を設置する時には、技術総務、用器具係主任と連携して、標識タイルから正確に設置する。2段式スタートの縁石の設置状態を確認する。
 - ⑫ フィールド内のレベル確認…検定時の計測結果を確認する。
 - ⑬ 計測器具の確認…鋼製巻尺、走高跳用高度計、棒高跳用高度計、電気距離計測装置、跳躍距離透視計測器等を確認する。
- (2) 器具の確認
- ① 公式用器具の確認

事前に検査をし、主催者が準備する投てき器具のリストを作成する。(投てきリスト(例)参照)競技規則に規格のあるものは、競技開始前に検査をし、事前に番号を付けておく。国内の規則で行う大会では検定のシールがあるか、刻印の有無を確認する(国内検定済)。国際大会・WRk対象競技会では本連盟検定品かつWA認証品でなければならないので(TR32.1)リストにWA認証番号、規格(色)を記載する。認証品でないものはリストに入れない。

② 借り上げ公式用器具の検査 ※コラム「借り上げ用器具の検査方法」参照

本連盟が主催、共催する競技会において、主催者が用意した投てき用具としてリストに記載されていないものを競技注意事項等で借上げを認めることができる。本連盟検定済みのもので競技前に主催者により検査を受け合格のマークが記したものでなければならない(TR32.2〔国内〕)。

個人の投てき用具の借り上げを許可した国内競技会では、持ち込まれた本連盟検定済みの器具を検査する。WRk対象競技会では、投てき物は本連盟検定品かつWA認証品のみを使用する。

検査に合格した投てき用具には検査シールを貼付するかマークをし、番号を付けておく。技術総務が特に決めない限り、個人の用具は2個までの持ち込が認められる。WA規則で行う大会では投てきリストにあって、2個まで個人の用具を持ち込むことが認められる。世界記録、エリア記録、日本記録が達成された時に使用された用具を競技終了後に再検査する必要(CR31.17.4)がある。

検定印 焼き鏝・ポンチ



検定品シール



WA認証シール



検査申請書例

投てき用具 検査申請書 (東京陸協)			
受付日時	月	日	時 分
預かり用具	やり		
メーカー・名称 色・等			
記載例	・ノルディック ダイアタタシツ 青色 ・ニシ ロンズ DR RQ10 青黒黄色		
所 属			
氏名 (姓・名)	選手名		
携帯電話：(連絡先)			
会この部分は保管し、「投てき器具」と共に公式計測員に引き継ぐこと			

投てき用具 預かり証 (本人入)			
受付日時	月	日	時 分
預けた用具	やり		
メーカー・名称 色・等			
記載例	・ノルディック ダイアタタシツ 青色 ・ニシ ロンズ DR RQ10 青黒黄色		
所 属			
氏名 (姓・名)	選手名		
携帯電話：(連絡先)			
※競技終了後の返還はこの場所です。 この用紙と引換えに投てき器具をお渡します。			

検査合格シール例



(3) マラソンコース、競歩コースの確認

技術総務と連携して、競技会当日のコースが計測されたコースと合致しているか確認する。競技に支障となる個所のコーン等の位置、スタートライン、フィニッシュライン、折り返し点、中間点、5km毎等のポイントを確認する。

借り上げ用器具の検査方法

国内競技会では、本連盟の検定品で規格に合った物だけが使用できる。規格に一致しているか、技術総務の担当あるいは公式計測員（副技術総務）が以下の要領で検査を行い、合格したものには印またはシールを貼付する。

競技場に備え付けの用器具の一覧を作成しておくことよ。

WA規則で行う国際大会やWRK対象競技会では、本連盟検定品かつWA認証品でなければならないので、本連盟の検定品シールおよびWA認証シールで借り上げ検査を行うことになる

ので注意が必要である。技術総務が特に決めない限り、個人の用具は2個まで持ち込むことが認められる。WA規則で行う大会では主催者が用意した器具（投てきリスト）であっても、2個まで個人の用具を持ち込むことが認められる（TR32.2）。

検査結果は、エクセルシートでの管理を推奨している。

(1) 砲丸

- ① 本連盟の検定印（刻印）または検定シールがあるか。
- ② 完全な球形で滑らかであるか、変形がないか確認する。
- ③ 振って音がしないか、ガタツキを確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量、直径を確認する。
- ◆ 検査に必要な器具…はかり、砲丸検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリバー）

(2) 円盤

- ① 本連盟の検定印（刻印）又は検定シールがあるか。
- ② 外側の縁（枠）の表面は凹凸がなく、仕上がり全体は滑らかであるか、板の歪み、傷、変形を確認する。
- ③ 振って音がしないか、ガタツキを確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量、直径、縁の外側の直径、金属製の平板の直径、中心部の厚さ、外縁の厚みを確認する。
- ◆ 検査に必要な器具…はかり、円盤検定器（ない場合＝厚みを計れるノギス・キャリバー）

(3) ハンマー

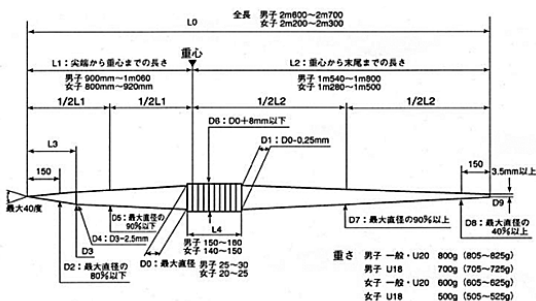
- ① 本連盟の検定印（刻印）または検定シールがあるか。
- ② 頭部は完全な球形であるか、変形を確認する。
- ③ 振って音がしないか、ガタツキを確認する。
- ④ ベアリングまたはボールベアリングが回転するか確認する。
- ⑤ 接続線（ワイヤー）が屈折していないか、テープ等で補修していなか、確認する。
- ⑥ 規格を調べる。…重量、直径、ハンドルの内側よりの全長の検査、重心の検査（ツルを外して検査）を確認する。
- ◆ 検査に必要な器具…はかり、ハンマー検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリバー、メジャー）、重心検

査器

(4) やり

- ① 本連盟の検定シールがあるか。
- ② 表面が滑らかであり、湾曲部分がないか確認する。
- ③ グリップの紐の緩み、ほころびがないか確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量、全長、先端から重心までの距離、定められた位置とその直径、グリップの幅を確認する。

◆ 検査に必要な器具…はかり、ノギス、計算機、やり検定器(ない場合=重心を計測する山型の部材、メジャー)



Lengths 長さ 単位:mm				Diameters 直径 単位:mm			
記号	説明	Range 範囲	Measurements 測定値	記号	説明	Maximum 最大	Minimum 最小
L0	Overall 全長	2600~2700		D0	In front of grip グリップの直前部分	30	25
L1	Tip to C of G 先端から重心までの長さ	900~1060		D1	At rear of grip グリップの直後部分	D0	D0-0.25mm
1/2-L1	Half L1 L1の半分	-		D2	150mm from tip 先端から150mm	D0D80%	-
L2	Tail to C of G 尾端から重心までの長さ	1540~1800		D3	At rear of head 頭部の直後部分	-	-
1/2-L2	Half L2 L2の半分	-		D4	Immediately behind head 直後部分の直後部分	-	D3-2.5mm
L3	Head 頭部	-		D5	Half way tip to C of G 全長の半分(200mm)部分	D0D90%	-
L4	Grip グリップ	150~160		D6	Over grip グリップの直後部分	D0+8mm	-
C of G	Centre of Gravity 重心	-		D7	Half way tail to C of G 全長の半分(150mm)部分	-	D0D90%
	Weight 重量	805~825		D8	150mm from tail 尾端から150mm	-	D0D40%
				D9	At tail 末端の部分	-	3.5mm

やりの検査表

【パラ陸上】こん棒

パラ陸上の種目にこん棒がある。以下のような形である。

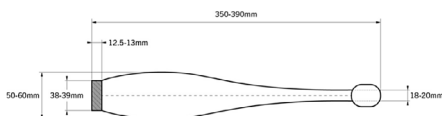


Figure 22 – Club

- ① 構造を確認する。
 - ・先端部（ヘッド）、首部（ネック）、胴体部（ボディ）、底部（エンド）の4つの部分からなる。
 - ・先端部、首部、胴体部は木製で、全体として固定され、一体化した頑丈なものであること。
 - ・胴体部は金属製で刻み目や突起や鋭い縁のない円筒状の底部に固定されていること。
 - ・先端部は球状または円筒状で、首部に向けてすぐに細くなる形状であること。
 - ・首部に向けて均等に細くなり、金属製底部に向けて少しだけ細くなっていること。
- ② 表面にくぼみ、でこぼこ、溝、畝、穴、ざらつきがなく、滑らかであるか確認する。
- ③ 規格を調べる。…重量、全長、首部の直径、胴体部の最も太い部分の直径、金属製底部の末端の直径、金属製底部の厚み
 - ※ 湿度によって重さが左右される木製であることを考慮し、400gのこん棒は、検査の際に397g以上であれば構わない。
 - ◆ 検査に必要な器具…はかり、厚みを計れるノギス・キャリバー

投てき物リスト (例)

2024.●現在

器具	種別	メーカー	品名等	Certification No.	規格・色等	数量	合計
砲丸	男子(7.260kg)	NISHI	鉄製	I-99-0083	φ129mm,Silver	5	12
				I-99-0087	φ125.5mm,Silver	5	
				I-16-0765	φ120mm,Silver	2	
	女子(4.000kg)	NISHI	鉄製	I-99-0084	φ109mm,Silver	4	12
				I-99-0089	φ103mm,Silver	4	
				—	φ99mm,Silver	4	
	高校男子(6.000kg)	NISHI	鉄製	I-03-0292	φ117mm,Silver	6	12
				—	φ120mm,Silver	6	
	中学男子(5.000kg)	NISHI	鉄製	I-06-0357	φ110mm,Silver	12	12
円盤	男子(2.000kg)	NISHI	スーパーHMカーボン	I-18-0891	φ220.5mm,White/red/blue	3	12
			スーパーHM	I-02-0255	φ200.5mm,Purple/black/white	4	
			スーパー	I-99-0078	φ220.5mm,Black/red/white	3	
	女子(1.000kg)	DENFI	ユンゲンシュルツ	I-99-0098	φ200mm,White/yellow centre	2	12
				スーパーHMカーボン	I-18-0890	φ181.5mm,White/red/blue	3
				スーパーHM	I-02-0256	φ181.5mm,Purple/black/white	4
				スーパー	I-99-0086	φ181.5mm,Black/red/white	3
	高校男子(1.75kg)	DENFI	ユンゲンシュルツ	I-99-0099	φ181mm,White/yellow centre	2	12
				スーパーHM	I-07-0390	φ210.5mm,Purple/black/white	6
	ユース(1.5kg)	NISHI	スーパー	I-03-0293	φ210.5mm,Black/red/white	6	12
				スーパーHM	I-06-0359	φ201.5mm,Purple/yellow/white	6
				スーパー	I-06-0358	φ201.5mm,Black/red/white	6
ハンマー	男子(7.260kg)	NISHI	タンダステン入り	I-99-0079	φ110mm,Orange	12	12
	女子(4.000kg)	NISHI	タンダステン入り	I-14-0700	φ95mm, orange	6	12
			ダグタイル	I-99-0080	φ95mm,Blue	6	
	高校男子(6.00kg)	NISHI	タンダステン入り	I-06-0360	φ105mm,Green	12	12
やり	男子(800g)	NEMETH	クラシック85m	I-09-0429	Violet/yellow/magenta	2	12
		NORDIC	177ライダー・スティーレルflex6.1	I-99-0011	Red/white	2	
			オーベット・スティーレルflex6.6	I-99-0014	追風用,Blue/white	2	
		NISHI	Super GD Type I	I-18-0931	Red/white	2	
			スーパーDR	I-01-0236	80m,Silver/yellow/red	2	
	女子(600g)	NEMETH	※ミディアムDR	—	60m,Silver/yellow/red	2	12
			クラシック75m	I-99-0103	Violet/yellow/red	2	
		NORDIC	ダイナ・スティーレルflex6.2	I-99-0018	Lilac, white	2	
			スーパー・エリート600flex7.0	I-14-0715	追風用,White/black spiral	1	
		NISHI	ダイナ NKS, Metal alloyflex7.2	I-99-0015	Pink/white spira	1	
			HYBRID GENOME X	I-12-0573	White/pink/yellow/black	2	
		NISHI	スーパーDR	I-01-0235	70m,Silver/yellow/red	2	
			※ロングDR	—	60m,Silver/yellow/red	2	

※混成競技用(WRK種目外)

●●陸上競技協会作成

公認審判員

公認競技会と公認記録

競技会役員

トラック競技

フィールド競技

用器具係

1 任 務

技術総務のもとに用器具係をおく。用器具係は、各競技に必要な用器具を整備し、その競技開始前にこれを配置し、競技終了後にこれを撤収する（CR16〔国内〕3）。

用器具係は、日本で必要な役員として国内で定められた任務である。（CR13）技術総務の指示により、競技者が満足な競技ができるように競技日程に従って整備計画をつくり、不備がないようにする。

競技会に必要な用器具を詳細に点検整備する。各競技の用器具は配置あるいは各担当審判員に引き渡し、その担当審判員が設置・撤収を行う（用器具配置分担表参照）。競技実施中における競技場、道路競技におけるコースの状況管理を行う。

用器具係の基本的な任務は、以下のこととなる。なお、都道府県陸協により違いがあり、他の係の任務を行っている場合や、他の係が以下の任務を行っている場合もある。

なお、トラックを整備するために置かれていた競技場整備係は、全天候舗装の競技場が普及したため、用器具係が行っている。

WRk対象競技会の用器具は、WA規則に沿った器具が必要であることを主催者に確認しておく（投てき器具は本連盟検定品かつWA認証品でなければならない）。

2 準備・引き渡し・配置

(1) トラック

縁石の設置状況のチェック、障害物用代用縁石の設置、水濠の注水、ラップ用旗、コーナートップ用旗、レーンナンバー標識、スターティングブロックの配置。ハードル・障害物の設置。手旗、ブレイクラインマーカー等の審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。

(2) 各跳躍場

助走路の確認、砂場の砂の量と湿り具合の確認、棒高跳ボックスの設置、マットおよび支柱の搬送、競技者用長椅子の搬送。踏

切板等の審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。ディスタンスマーカーの確認，雨天時の競技者用テントの設置。

(3) 各投てき場

足留材の取り付け，兼用サークルの設置，やり投の助走路の確認。

円盤投・ハンマー投の囲いを投てき審判員と共同で設置・移動，サークル両側の750mmのラインの確認。白色等テープ・距離標識，投てき器具および審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す（投てき角度線・円弧は状況により投てき審判員と共同で設置する場合もある）。天候に応じて競技者用テントの設置。

3 留意点

- (1) 技術総務の指示によりプログラムに基づく競技進行計画表と施設配置図をつくる。
- (2) 電気機器関係では，各競技場所の電源確保と情報機器の設置場所の確認をする。特に担当審判員に貸し出された電子機器の適正な取り扱いを徹底するようにする。また，電気距離計測器，デジタル式風力計の管理状況について，技術総務と連携して競技場管理者と十分な話し合いを行い，保管，整備の配慮をしてもらう。
- (3) 5,000m，10,000mでグループスタートを行う場合，外側の走路の走る距離は，縁石があることを前提に計算されているので，代用縁石は全部置く。競技場により代用縁石が不足する場合は，やむを得ず1本おきとする。後方からスタートする選手の走行を確保するため，スタートラインの約10m先より代用縁石を置くようにする。この時，スタートライン，縁石のはじめ，中間に設置することを原則とする。コーンの間隔は4m以内。詳細はコラム参照。
- (4) ハードルの種目毎の高さ，位置を確認し配置をする。設置はスピーディーできれいに設置できるように心がける。担当の場所だけでなく，前後のハードルも確認する。競技前の練習，競技中の修正は，監察員の任務となる。
- (5) 障害物競走の代用縁石の設置と水濠の注水時間の確認。

水濠への代用縁石は全部置く。競技場により代用縁石が不足する場合は、やむを得ず1本おきとする。スタートから第1障害まで70mを確保するため、第1障害を移動する競技場がある。内水濠の競技場は、外水濠と移動障害の設置方法が違うので、注意が必要である。

- (6) 跳躍競技では風向きにより助走の方向が変わる場合があるので、跳躍審判長、技術総務と砂場、マットの位置を協議して決める。(設置は担当競技審判員)
- (7) 走幅跳・三段跳では踏切板・粘土板、計測機器を担当審判員に引き渡す。粘土は油性のものを用意する。三段跳では助走路が短い場合、補助全天候マットを用意する。国際大会では投眼式メジャーは使用できない。
- (8) 高度計、投てき用公式用器具(投てき物)は天候などの影響を受けないよう競技練習に合わせて引き渡すようにする。
- (9) 電光掲示盤、フィニッシュタイマー、テント等大型の機器、器材については観客席より競技中に死角にならないよう配慮して配置する。
- (10) 配置、設置した各機器等の撤収について、競技の邪魔にならないようにタイミングを考慮する。
- (11) 雨天時における走路、助走路の雨水処理について担当主任審判員と打ち合わせをする。
- (12) 走路、助走路が土質の場合は、レベルの調整、適切な硬さを維持するため、撒水のうえローラー仕上げをし、各スタートライン、テイクオーバーゾーン等のライン引きを行う。棒高跳の助走路は、ボックスの入口が助走路と同じレベルになるようにする。
- (13) 用器具が故障又は破損したときには使用部署の主任が故障、破損報告書等で技術総務に報告し、総務、技術総務、競技場所有者と協議する。

4 パラ陸上の留意点

技術総務の頁も参照されたい。

- (1) 座位投てきの固定器具の設置撤去が必要な場合、設置撤去を

行う。

- (2) 車いすの競技者のリレー競走ではテイクオーバーゾーンが40mであり、テイクオーバーゾーンの入の設置を行う。(出は変わらない)。このテイクオーバーゾーンの位置は競技場に入っていないので、事前にパラ担当者に設置方法と大会当日の設置時間帯について確認しておく。
- (3) 視覚障害のクラス(T11およびT12)がレーンのすべてまたは一部を走るトラック種目、車いすの競技者が含まれるリレー競走については、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるために、スタートラインの延長を行う。また、ユニバーサルリレーにおいては、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるため、テイクオーバーゾーンのラインの延長を行う。この時第4走の車いすのテイクオーバーゾーンは40mとなる。
- (4) 800m以上の車いす競走において、スタートから50mの位置をマークし、スターターに引き継ぐ。スターターは50mの位置にコーンを設置する。
- (5) 車いす800m競走において、危険回避のために、ブレイクラインにコーンや角柱は置かない。その代わり、高さ1.5mの旗をインフィールド側とトラック外側に設置しなければならない。また、50mm×50mmの色付きの平らなマーカーをブレイクラインに置くことができる。準備、設置、撤去については監察員主任と協議のこと。
- (6) 視覚障害のクラス(T11およびT12)の走幅跳は、踏切板・粘土板は使用せず、長さ1.00m×幅1.22mの長方形を踏切エリアとしてパウダー(石灰が使われることが多い)を敷く。また、安全確保のため、砂場の幅は3.5m以上が強く推奨されており、その幅が確保できない時にはマットを敷く等の追加の安全措施を講じる。準備、設置、撤去については跳躍審判員主任と協議のこと。パウダーの撤去方法は事前に確認をしておく。

☆用器具係1日の動き(ある陸協での例)☆

各都道府県陸協で異なるので、それぞれの役割を確認されたい。

～競技開始前～

- 集合、準備分担の確認
技術総務と連携してその日の種目等を確認し、誰が何をどこにどのくらい設置するかを分担する。
- フィールド関係の準備
 - ・円盤投・ハンマー投囲いの設置
投てき審判員と協力し移動、設置する。間口の寸法などは技術総務、公式計測員が確認する。
 - ・マットの運搬
棒高跳・走高跳のマットを運搬する。ピットの方向、細かい位置は、技術総務、跳躍審判長が確認する。
- トラック関係の準備
 - ・スターティングブロック、レーン表示板、ラップ旗、ブレークラインマーカーの運搬
行われる競技に必要なものを運搬する。設置はそれぞれの審判員が行う。
 - ・ハードルの運搬
 - ・移動障害物の運搬
 - ・水濠への注水
- 競技者用のテント・椅子の運搬、設置
参加人数を確認し、必要な数をそれぞれの競技場所に運搬し、設置する。
- 全てのセッティングの確認
技術総務、公式計測員、用器具係主任でその日行われる競技が行えるかを最終確認する。

～競技中～

- ハードルの設置・撤去
行われる種目のインターバル、高さを確認し間違いのないように設置する。設置はスピーディーできれいに設置できるように心がける。設置の確認は、技術総務、公式計測員、用器具係

主任が行う。練習を含む競技中の修正は、監察員が行う。

- 移動障害物の設置・撤去
高さの固定ネジはしっかり締めているか確認する。
- 代用縁石の設置・撤去
障害物競走，グループスタートが行われる場合の設置・撤去を行う。
- 競技者用テント・椅子の増設・移動
天候により，競技者用のテント・椅子の増設・移動を行う。

～競技終了後～

- フィールド関係の撤収
 - ・ 円盤投・ハンマー投用囲いの移動
翌日にも競技がある場合，どこまで移動（撤収）するかを競技場管理者に確認しておく。
 - ・ マットの撤去
翌日にも競技が行われる場合，置き場所については競技場管理者に確認しておく。雨天用シートを被せて置いておく場合もある。
- トラック関係の撤収
それぞれの種目終了後，適宜撤収する。
- 競技者用テント・椅子の撤去
翌日にも競技がある場合，脚を畳んで置いておく場合もある。
- 完全撤収の確認
競技場を一回りして，撤収が済んでいないものがないか確認する。

主な用器具と分担表（参考例）

	担当審判員	用器具係にて配置する用器具	当該主任審判員渡しの用器具	共同で設置の用器具
競技全般	総務・総務員		机, 椅子	本部席
	審判長		椅子, 審判用警告カード(赤・黄)	
	番組編成員		机, 椅子, 抽選器	大会役員席(アナウンサー)
	アナウンサー		時計・双眼鏡, 通信放送一式(競技場施設)	大会役員席(番組編成員)
	報道係		報道関係者制限ロープ, 机, 椅子, コーン, コーンバー	記録配布箱, 報道に関するものすべて(庶務)
	記録・情報処理員		机, 椅子, 雨天用覆い, 印刷機器一式(競技場施設)	通信機(インカムなど), 事務用品等記録に関するものすべて(庶務)
	マーシャル		報道関係者制限ロープ, 椅子, 安全ロープまたはコーン, コーンバー	
	医師		机, 椅子, 担架	救急箱(庶務)
	競技者係	競技者用長椅子	机, 椅子, 掲示板, スパイク検査用ノギス・ゲージ, はさみ	
	役員係		机, 椅子	テント(役員, 庶務)
	庶務係		机, 椅子	事務用品(庶務)
	表彰係		机, 椅子, 表彰台	お盆(庶務)
	風力計測員		机, 椅子, 風力速報表示器, 風速計, 温湿度計, パラソル, 吹流し, 風力計測用曲走路標識(コーン)	通信機器, 事務用品(庶務)
	公式計測員		ノギス, 10kgはかり, 鋼鉄製巻尺, 砲丸検査器, 円盤検査器, ハンマー検定器, やり検定器, 検査合格シール	
	用器具係	ハードル(100mH, 110mH, 300mH, 400mH), 障害物, 障害物競走・グループスタート代用縁石, 競技者用長椅子, スタートイングブロック, レーンナンバー標識, コーナートップ用旗, ラップ用旗		

トラック関係	写真判定員		椅子、望遠鏡、写真判定に関するものすべて(競技場施設)	
	決勝審判員	フィニッシュポスト	机、椅子(ビデオ関係)、トラック競技速報表示器、フィニッシュタイマー、折りたたみ椅子	通信機(インカムなど)、テント(計時員、記録・情報処理員、アナウンサー)、事務用品(庶務)
	計時員		机、椅子、ストップウォッチ(主任が一括)、折りたたみ椅子	テント(決勝審判員、記録・情報処理員、アナウンサー)、事務用品(庶務)
	監察一員	コーナートップ用旗、ラップ用旗、ブレイクラインマーカー	折りたたみ椅子、監察マーカー、黄手旗、(ラップ用旗、ブレイクラインマーカーの競技中の配置、撤去)	通信機器(インカム)(庶務)
	スタータリコーダー		折りたたみ椅子、信号器、拡声器、スターター台、スタート合図用黒板	記録板、通信機器(インカム等)、雷管(庶務)
	出発係	競技者用長椅子	スターティングブロック、バトン、スタート用警告カード(赤/黒、黄/黒、緑)、レーンナンバー標識、脱衣籠、	リレー用テープ(庶務)
	周回記録員		机、椅子、周回表示器(鐘付)、画板	画板、記録用紙その他(庶務)
フィールド関係	競歩審判員		競歩警告用円板、失格用円板、警告掲示板	
	跳躍審判員【高さの跳躍】	跳躍マット、走高跳用支柱、棒高跳用支柱(設置は担当審判員)、ボックス、電光掲示板、テント、ボール置台、競技者用長椅子	机、椅子、高度計(走高跳、棒高跳)、炭酸マグネシウム、炭酸マグネシウム入台、成績表示器、順位表示器、位置表示器(A・B)、制限時間告知器、バー、バー上げ器、距離表示マーカー、赤白・黄手旗、ハンドマイク、ビーチパラソル、吹流し、白色ビニールテープ、白色粘着テープ、タッカー(ホチキス)、合成樹脂巻尺、止め金具、雨天用プラスチックカバー	走高跳助走用テープ(庶務)

フィールド関係	跳躍審判員 【長さの跳躍】	電光掲示板、テント、 競技者用長椅子	机、椅子、距離測定器、 鋼鉄製巻尺、距離標識、 成績表示器、順位表示 器、位置表示器(A・B)、 制限時間告知器、踏切 板、粘土板、計測ピン、 距離表示マーカー、赤 白・黄手旗、ハンドマ イク、粘土、チョーク、 ほうき、レーキ、スコッ プ、散水用ホース、レー キ、スコップ、ビーチ パラソル、吹流し、白 色ビニールテープ、合 成樹脂巻尺、白色粘着 テープ、タッカー（ホ チキス）、雨天用プラ スチックカバー	
	投てき審判 員	電光掲示板、砲丸返 送台（設置は担当審判 員）、用具置き台、テ ント、競技者用長椅子、 防護網（公式計測員、 用器具係）	机、椅子、炭酸マグネ シウム、炭酸マグネシ ウム入台、距離測定装 置、鋼鉄製巻尺、距離 標識、成績表示器、順 位表示器、制限時間告 知器、足留材、兼用サー クル、距離表示マー カー、競技者表示用ペ グ、計測ピン、足拭き マット、赤白・黄手旗、 ハンドマイク、チョー ク、ほうき、レーキ、 コーン、ライン引器、 ビーチパラソル、吹流 し、白・黄色等ビニー ルテープ、止め金具、 投てき用器具（置台含 む）、雨天用プラスチ ックカバー	囲い（投てき、用器 具）

スタートラインを延長する時の注意点

参加人数の多い中距離種目では、スタート直後の接触・転倒を防ぐために、3000m競走(歩)以上の種目ではグループスタートを行うことを推奨している。1500m競走においては、1レーンから競技者を並べてしまうと、3、4レーン辺りからスタートする競技者と接触する可能性が高まるので特に注意が必要である。この問題を回避するためには、腰ナンバー標識の大きい競技者から順に外側から並べるようにすると良い。特に走路と同じ全天候舗装(素材・厚さ)であることを条件として、曲走路の外にスタートラインをはみ出して引くことが認められており、本連盟の検定のもと、スタートラインが延長している競技場においては、有効に活用していただきたい。

代用縁石の置き方について

国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から300mmの所で計測している。そのために、国内の競技場の10000mにおけるグループスタートのスタートラインは直線の長さにも関係するが、800mのスタートラインの前方に引かれている(図1参照)。

一方、海外の競技場のグループスタートのスタートラインは(5レーン)800mのスタートラインと重なっている所から引かれている。これは内側のライン外側から200mmの所でトラックの計測を行っているためである(図2参照)。

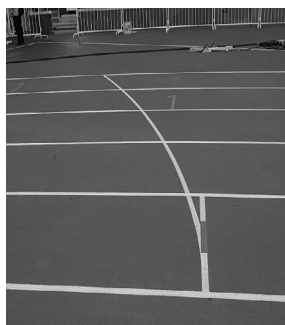
厳格に言えば国内競技会において代用縁石を設置する際は、競技規則に則れば全線に置く必要がある(図3参照)。しかしながら、競技場保有の代用縁石の数が足りなければ、1本おきに置かざるを得ない。なお、現在の競技場の検定では全線に設置できる数があることを確認しており、不足する事象は数年で解消の見込みである。また、国内で実施する国際大会においては全線設置を基本としてレースがスタートした後は速やかにすべ

での代用縁石を撤去することとなる。グループスタートのレースが複数組ある場合もレースごとに並べることが望ましい。

グループスタートする際に第2グループのスタートラインからすぐに代用縁石を設置すると、第1グループの外側の競技者が代用縁石につまづくことがある。そのため、第2グループのスタートラインから8m程度は縁石を設置せず、コーンをスタートライン、代用縁石のはじめ、中間に設置することを原則とする（コーンの間隔は4m以内）。なお、出場競技者が多い場合は、スタートから10m程度から代用縁石を並べる（10mの時にはコーンは4本置く）。第1グループからスタートする（特に外側の）競技者はコーンの間を通ることができる。代用縁石に代わりコーンを設置していることをあらかじめ競技者に伝えておくといふ。



国内競技場におけるグループスタートのスタートライン（図1）



海外競技場におけるグループスタートのスタートライン（図2）



全線に設置した代用縁石（図3）

招集所審判長

1 任務

招集所審判長は必要に応じて1名以上任命され（CR18.1），以下の任務を負う。

本連盟の指定した競技会には招集所審判長をおく。

(1) 監視責任

招集が競技規則，競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視し，その結果について責任を負う（CR18.2）。

(2) 技術的な問題の処理

招集所で起こったすべての技術的問題（規則に違反したかどうかの問題を含めて）について，適切に処理し決定する。また，競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する（CR18.2）。

(3) 規則にない事項

競技規則や競技注意事項に明らかに規定されていない事項についても，的確に処理し決定する（CR18.2）。

(4) 本連盟が主催・共催・後援する競技会や広告協賛を付した競技会におけるスポンサー広告保護について

競技者が着用する衣類やバッグ等についても，的確に対応する（競技会における広告・商標，競技会における広告および展示物に関する規程）。

2 権限

招集所審判長は，CR18により以下の権限を有する。

(1) 欠場の裁定，および失格

つぎの競技者を，欠場したものと裁定し処理し，また規則に違反した競技者を失格させる権限を持つ。

- ① 招集完了時刻に遅れた場合。
- ② リレーのオーダー用紙提出時刻に遅れた場合。
- ③ リレーのオーダーを不正に編成して提出した場合。
- ④ その他，規則や競技注意事項に違反した場合。

(2) 警告と除外

- ① 不適切な行為をした競技者に警告を与えたり、当該競技から除外したりする権限を持つ。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らせる。警告や除外の事実は記録用紙に記入する（CR18.5）。
- ② 競技場所、ウォームアップエリア、招集所、コーチ席も含めた競技に関連する場所で競技者以外の者がふさわしくない行為や不適切な行為をしたり、競技規則に違反したり助力を行ったりした場合、（競技ディレクターがいる場合は相談の上）警告を与えたり除外することができる（CR18.5）。

3 実施要領

(1) 競技開始前競技会役員

① 競技注意事項等の確認

プログラムに記載されている競技注意事項および申合せ事項（監督会議があった場合はそのときの決定事項）を確認し、競技運営が円滑に行われるように準備する。

- ② 競技者係主任の任務を確認するとともに、競技者係の役割分担を徹底させる。
- ③ 招集場所とそこで使用する機器・器具の準備状況を点検し、落ち度のないように整えさせる。もし準備に支障をきたすようなことがあったら、ただちに総務、技術総務と連絡をとり、競技開始前に処理させる。
- ④ 混成競技が行われる競技会においては、事前に混成競技審判長と役割について十分打合せをしておくことが望ましい。

(2) 競技中

- ① 招集が競技規則、競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視する。（競技種目、組別、招集開始時刻、アスリートビブス（ビブス）、ユニフォーム、スパイク、商標（バッグ、シャツ）、持ち込み禁止品の有無などの点検・確認、招集完了、誘導等）
- ② 規則に違反する行為があった場合について、適切に処理し決定する。また、競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する。

リレーメンバーの登録と交代

リレーメンバーの登録と交代に関する規則が変更になってから久しいが、未だにメンバーの組み方の可否に関する問い合わせがあるばかりでなく、規則違反による失格事例も少なくない。

提出されたオーダー用紙のチェックに関わる審判部署（競技者係やTIC）においては、規則違反のオーダーが提出された場合には瞬時に指摘して再提出をさせるなど、大きなトラブルに発展しない確認・指導システムを設定しておくべきである。

1. 最初のラウンドからリレーメンバーに登録していない競技者が出場できる。

最初のラウンドに出場できるのはリレーに登録した競技者以外に、その競技会の他種目にエントリーしている競技者であれば出場できる（ただし、後述の4.遵守）。

2. 予選に出場した4人からすべての作戦が始まる。

交代とは「一度出場した競技者が他の競技者と代わること」であるので、リレーに登録していない競技者が最初のラウンドに出場する場合は交代ではない。従って、最初のラウンドで出場した4人が基本となり、以後すべてのラウンドを通して2人以内の交代が可能である（ただし、後述の4.遵守）。

3. 一度出場した後で交代した競技者でも再びメンバーに戻ることができる。

以前は、一度出場した後で交代した競技者はチームに戻ることができなかったが、現規則では可能であり、しかも復帰は新たな交代数に加算されない。

例えば、予選を通過した後、メンバーを2人交代して準決勝も通過したが、決勝までの間に何らかのアクシデントが発生して走れない競技者が出てしまった場合、以前の規則では新たな交代は許されないので決勝を棄権するしかなかったが、現規則では、予選の時に走った競技者であれば新たな交代数には加算されないの、再びメンバーに戻って決勝に臨むことができる。

4. 全ラウンドとも、リレー登録者が2人以上含まれていなければならない。

上記の如く、メンバーの組み方は多様化したが、どのラウンドにおいても出場する競技者4人のうち少なくとも2人はリレーに登録している競技者でなければならないことに十分留意しなければならない。

5. 一度提出したオーダーは差し替えできない。

オーダーの提出は、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までである。一度提出されたオーダーはまだ締切時刻前だとしても、差し替えることはできない。ただし、他の種目に出場して怪我をしたり、熱中症等で体調を崩した場合、その組の招集完了時刻までに医師（医務員）の診断があれば変更が可能である。その場合、出場選手の変更のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。

**同一所属団体が複数のリレーチームを
エントリーしたときのメンバー変更**

各陸協が主催する競技会のリレー種目では、同一所属団体が複数のチームをエントリーすることを認めている場合が多いが、「同一所属団体であればチーム間にまたがるメンバー変更は認められるか？」との議論があり、本連盟への問い合わせも多い。

これに対する本連盟競技運営委員会の見解は「リレーのチームはそれぞれが独立しており、たとえ所属団体が同じであっても、チーム間にまたがるメンバー変更は認められない」と統一している。

しかしながら記録会等の小規模競技会では、できるだけ多くの者に競技会出場の機会を与えてやりたいという配慮から、4人ぎりぎりのメンバー構成で多くのチームをエントリーする団体もあり、チーム間にまたがるメンバー変更を一切認めないとすると、当日何かの事情で誰かが出場できなくなった場合はそ

のチームの全員が出場の機会を失うので、何とかしてやりたいという要望もある。

そうした競技会での最終判断は主催者側の決定であり、上記の本連盟見解を基本としながらも主催者があらかじめリレーのメンバー変更に関するローカルルールを設定して、申し込み時に周知徹底しておけば問題はない。

ただし、最初のラウンドでチームが組めなくなったメンバーがどこかのチームに加わることを認めたとしても、前のラウンドに出場して敗退したチームのメンバーを勝ち上がった他のチームに加えることは認めるべきではない。

競技者係

1 任務

- (1) 競技注意事項に定められた競技者招集の規定に基づき、出場者の出欠および競技にさしつかえない準備の状況を点検し、速やかに競技場所に誘導し定刻に競技開始できるように配慮する(CR29)。
- (2) 参加確認・点検が終了した競技者名を、コンピューター処理を行う競技会ではコンピューター端末に入力し完了する。コンピューター処理を行わない競技会では、流し記録用紙に記入して、手早く関係役員に配布する。
- (3) 参加確認・点検が終了した競技者を適切な時刻に競技場所まで誘導する。
- (4) 解決すべき問題が発生している場合は、問題を招集所審判長あるいは競技者係主任に委ねる。

2 実施要領

- (1) 競技会の規模に応じて以下の項目について、招集方法を決めておく。
 - ① 招集場所
 - ② 招集完了時刻
 - ③ 招集方法（複数組の場合は、1組単位の招集が望ましい）
 - ④ 2種目以上兼ねている時の招集方法
 - ⑤ 各種申請用紙の提出および確認の方法（リレーオーダー用紙、2種目同時出場届、欠場届など）
 - ⑥ 点検・確認事項
 - ⑦ 混成競技の招集方法（次の種目への間隔は最小限30分を確保する）
- (2) 招集進行計画（確認事項）
 - ① 競技種目
 - ② 組別（組数が多い場合は数組に分けて実施）
 - ③ 競技時刻

(4) スタートリスト

コンピューターで処理する場合は、出場者・欠場者を入力し、各部署が確認できるようにする。以下は、コンピューター入力を実施しない競技会の例である。

① トラック競技

スタートリストは、予選においては競技開始10分前までに配布を完了する。

配布先(例)

競技者係控/総務/担当総務員/トラック審判長/アナウンサー/出発係(リレー4枚)/決勝審判員主任/計時員主任/写真判定員/大型映像係(施設がある場合)/本部記録/情報処理員/監察員主任(リレー4枚)/報道係/周回記録員(800m以上)

② フィールド競技

スタートリストは、招集完了後速やかに配布を完了する。

配布先(例)

競技者係控/総務/担当総務員/アナウンサー/フィールド審判長/フィールド審判員主任/フィールド審判員記録担当(2枚)/風力計測員/本部記録/情報処理員/報道係

1 決勝(参加競技者が24人を超え予選を行った場合)

番組編成員から編成用紙を受け、速やかに配布を完了する。

2 欠場、追加、2種目以上出場している場合

欠場の印は、赤線で明瞭に抹消する。また、追加の際は、ナンバー・氏名・所属を記入する。他の種目に出場している時は、〇〇出場中と明記する。「2種目同時出場届」がある場合は配布、受領を行う。

3 リレーのオーダー用紙の提出時刻は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに提出(TR24.11〔国内〕)。

また、用紙は招集所に用意する。競技注意事項に明記しておく。

(5) アスリートビブス(ビブス)、ウェア、スパイクシューズ、バッグなどの点検

競技者の点呼と同時にアスリートビブス(ビブス)が胸・背・腰に確実にかつ、脱落ないように付けられているか、スパイク

シューズ、ユニフォーム、および持ち込む荷物についてルールに抵触していないかを確認する（TR5 競技会における広告および展示物に関する規程）。

1 服装

全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は、ランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する（短パン・スパッツ、ランニング・長袖・レオタード・セパレートの違い等は許容範囲）。

2 商標の取り扱い

特に、Tシャツやトレーナー、ベンチコート、バックなどには規程に抵触する大きさ、数量のものがあるので、持ち込む場合にはテープで隠すなどの処置をする（競技会における広告および展示物に関する規程）。



大会のロゴマーク等の入ったステッカーを使用した例

3 競技用靴

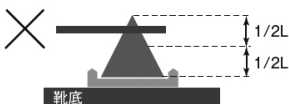
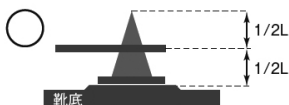
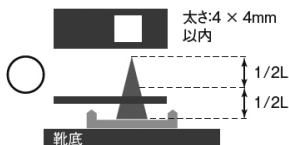
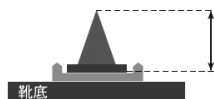
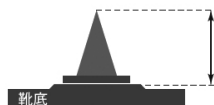
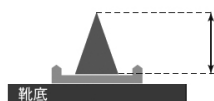
- (a) 競技用靴は競技者にどんな補助をも与えるように作られたものであってはならず、バネやその他の仕掛けが靴に組込まれてはならない（TR5）。
- (b) 靴底および踵は11本以内のスパイクを取り付けられる構造とする。11本以内であれば、スパイクは何本でもよい。
- (c) スパイクの長さは9mm（走高跳、やり投は12mm）を超え

てはならない。またスパイクの直径は先端近く（少なくとも長さの半分）で4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。

(d) 靴底または踵にはうね、ぎざぎざ、突起物などがあってもよいが、これらは靴底本体と同一もしくは類似の材料で作られている場合に限る。

(e) 靴底の最大の厚さについて以下の表のように規定する。

長さ:最大9mm HJ&JT 12mm



トラック種目（ハードル種目、障害物競走、リレー種目を含む）	20mm スパイクシューズまたはノンスパイクシューズ
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたはノンスパイクシューズ
クロスカントリー	25mm（スパイクシューズ） 40mm（ノンスパイクシューズ）
ロード種目（競歩・競争）と競技場内で行う競歩種目	40mm

4 アスリートビブス（ビブス）

- 競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のアスリートビブス（ビブス）を付ける。ただし、跳躍競技の競技者はどちらか1か所でもよい（TR5.7）。
- 配布された形で着用する。切ったり、折ったり、たたんだりしてはならない（TR5.9）。
- 長距離種目では、風通しの穴をあけてもよいが、数字や文字の部分に穴を開けてはならない（TR5.9）。
- 写真判定装置を使用する競技会では、腰ナンバー標識を付けさせる（TR5.10）。
- いかなる競技会であろうと、競技者は自分のアスリートビブス（ビブス）その他の標識を着用せずに参加することは認められない（TR5.8）。
- 競技中にアスリートビブス（ビブス）が外れないように、競技者がアスリートビブス（ビブス）をユニフォームに結着する際、確実にかつ、脱落しにくく付けられているか、アスリートビブス（ビブス）の4隅のそれぞれ2ヶ所に安全ピンを通し競技中にアスリートビブス（ビブス）が外れないよう注意する。また、競技中上着で腰ナンバー標識が隠れることのないように注意する。



5 助力に係る所持品について（TR6）

携帯電話（スマートフォン）、トランシーバーなどの通信機器やビデオ装置、携帯音楽プレイヤーも競技場内に持ち込むこ

とが禁止されているので注意を促すこと。申合せ事項によって一時預かる場合もあるので注意する。

- (6) 招集所以降は、競技場所という扱いとなるので、競技開始前であろうと競技者以外の者は進入することは許されないので注意すること。
- (7) 「第1招集」「第2招集」と区別する必要はない。完了時刻に招集所に来ていれば問題ない。
- (8) 招集完了時刻に遅刻した競技者の扱い

必ず複数の者、ウォームアップ場係の協力を仰いで呼び出しを行い、遅刻を出さない努力をすること。定刻になっても招集に来ない場合は欠場扱いとしてスタートリストを流す。招集完了時刻以降に招集所に来た場合は招集所審判長の判断を仰ぐこと。招集所審判長をおかない場合は、総務の判断を仰ぐこと。

持ち込み禁止品の取り扱い

TR6「競技者に対する助力」の中で、ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバー、携帯電話（スマートフォン）やその他通信機能を備えた機器もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することを禁止している。特にフィールド内で着替えたり練習を繰り返すフィールド種目出場者に対する格段の配慮・注意が必要となる。

持ち込みを防ぐためにはいくつかの方策があるが、招集所付近にポスターを用意し、注意を促すのが効果的である。外国人競技者が出場する競技会ではイラストや写真で禁止品目を表示するとわかりやすい。

また、カバンの中の持ち物まで検査する必要はないが、全員が揃ったところで今一度注意を喚起しておく必要もある。学生が参加する競技会では、招集所付近まで同僚が付き添って来るのが常であるから、その人に預かってもらうように指示すべきである。

預ける関係者がいない場合は招集所で預かることになるが、

その場合には保管場所の設置や預かり証の発行が必要となる。

また、携帯電話（スマートフォン）などではプライバシー保護のために本人にロックをかけて貰ったり、封筒を用意して競技者本人の手により厳封してもらう必要もでてくる。

万が一競技場内で発見された場合には、その場で回収して競技終了後に返却すべきであり、仮に使用していたとなれば、審判長により警告され、守らない場合には失格になることを勧告する。

お互いが気持ちよく競技に臨めるよう、マナーある参加を強く呼びかけたいものである。

役員係

1 任務

大会総務の直轄下で、以下の任務を担当する。

- (1) 競技役員、補助員の把握とその連絡をする。
- (2) 競技役員の出欠整理、報告処理、公認審判員手帳の記入をする。
- (3) 競技役員、補助員の食事、その他給与物の支給、休憩室の管理をする。
- (4) 競技役員の集合解散の処置
- (5) 競技役員の服装のチェック

2 実施要領

- (1) 競技役員の受付場所において、競技運営要領、プログラム等を配布し、審判員手帳を提出させ、出欠を確認し、役員原簿に記入する。
- (2) 総務に競技役員の出欠状況を報告する。
- (3) 欠席した競技役員の補充については、総務、各係主任と協議する。
- (4) 競技役員の服装をチェックし、異装の者に対して注意を喚起する。
- (5) 競技役員の駐車場利用については、総務、総務員、駐車場係と連絡を取り、協力する。
- (6) 競技役員に食事、日当等を支給する。弁当については、空き箱、残飯等の回収・廃棄についても連絡し徹底する。
- (7) 競技役員の控室を確保し、管理する。
- (8) 補助員の扱いについて各係に依頼、協力を求める。
- (9) 雨天、荒天に備えて、競技役員用の貸し出し雨具を準備する。



3 留意点

- (1) あらかじめ競技役員に控室，任務につくときの出入経路を知らせる。
- (2) 競技終了後の措置について，あらかじめ連絡する。
- (3) 日当，雑費を交付するときは，交付要領を伝達しておく。

庶務係

1 任務

大会総務の直轄下で以下の任務を担当する。総務の片腕とも言える部署である。

- (1) 大会本部の開設運営をする。
- (2) 来賓、大会役員の対応をする。
- (3) 総務の担当する競技場施設の管理についての協力、および申込み文書、印鑑等の管理を行う。
- (4) 競技会収支を取り扱う。
- (5) 競技会に必要な物品、記録用紙、プログラム、消耗品等の保管管理。
- (6) 役員係と協力して競技役員、その他の役員の弁当、支給物の受け渡しを行う。
- (7) 表彰資材の受け渡しを行う。
- (8) 参加競技者の受付、監督・コーチとの折衝を行う。
- (9) 対外関係者との交渉を行う。
- (10) 会議会場の設営をする。
- (11) 他の係に属さない事項を取り扱う。



庶務係の支給物受け渡し風景

特に規模の大きな競技会の場合は、会議場の手配、部屋や門の開閉、ADカードによる入場規制、警備、場内整備について会場管理係を設置し独立して任にあたらせることもある。

2 配置

担当別に班編成をする。

- (1) 来賓、大会役員の対応を担当（プロトコールが置かれる場合は、プロトコールと協力）する。
- (2) 競技役員、その他役員等の弁当、支給物の受け渡しを担当する。

- (3) 参加競技者の受付、監督・コーチとの折衝を担当する。
- (4) 競技会の収支を取り扱う担当する。
- (5) 競技会に必要な物品、記録用紙、プログラム、消耗品等を担当する。

3 実施要領

- (1) 競技会申込原簿ならびに、関係書類を整理しておく。
- (2) 競技会に必要な物品、消耗品等はあらかじめ各係主任と連絡をとっておく。
- (3) 抗議申立書、用器具借り上げ（持ち込み）申請書、同時出場届け等、諸書式をあらかじめ用意する。
- (4) 競技場管理者と連絡をとり、ゴミの回収について確認し各係に徹底を図る。



庶務系の支給物受け渡し風景

マーシャル (Marshal : 場内司令)

1 任務

- (1) 場内の完全な統制権をもち、役員とその競技に出場する競技者あるいは入場が正式に許可されている者以外、何人も競技区域内 (FOP) に出入りさせない (参照 CR26)。
- (2) 競技が安全に行え、その上で観客の利益やテレビ中継のために、総務と協同して、許可された者以外が競技区域内 (FOP) に立ち入らないよう、可能な限り競技実施場所をクリアにする (参照 CR15)。
- (3) 以下のような良好な競技環境の確保にあたる。
 - ① スタート時の静粛や集団応援等の自粛要請
 - ② フィールド競技では、助走路がトラックと交差する個所の安全確保
- (4) 競技を終了した競技者および、競技継続が認められなかった(失格等) 競技者をミックスゾーン (退場口) へ速やかに誘導する。
- (5) フィールド競技において、トラックを横切りコーチとのコミュニケーションのため (参照 TR6.4.1) や、トイレのため競技場所から離脱しようとする競技者を、フィールド審判員と協力して、試技順に影響が出ないよう誘導・案内する (参照 TR25.19)。
- (6) 総務や報道係と協力して、TV中継関係者や報道カメラマンの行動や撮影場所を監督する (参照 総務・報道係)。

2 配置

トラック種目統制区域

- (1) スタートライン付近やその後方
(静粛要請と待機競技者の混雑防止) [出発係と連携]
- (2) 周回種目各所とりわけ障害物競走が行われている時の障害物や水濠付近
[監察員と連携]
- (3) フィニッシュライン付近やフィニッシュ先および退場動線経路誘導
[監察員・報道係・ミックスゾーン係と連携]

フィールド種目統制区域

- (1) 各競技種目実施場所付近および退場動線経路誘導
〔実施種目審判員・ミックスゾーン係と連携〕
- (2) 跳躍種目スタート地点付近および、着地場所付近
〔跳躍種目審判員と連携〕
- (3) 投てき種目サークル・スタート付近
〔投てき種目審判員と連携〕

競走種目と重複のおそれのある区域

- (1) やり投、走高跳の助走路と競走種目の重なり
〔進行総務員・出発係・当該フィールド審判員との連携〕

3 実施要領

- (1) マーシャルの人数は競技会の規模や、競技実施重複度（特にフィールド競技）によって異なる。複数日開催で過密なスケジュールの全国規模大会では、交代要員も含め、相当数の人数が確保されなければならない。
- (2) 軽快に動け、ルールや競技運営に熟知し、各方面に配慮できる人材がこの任にあたることが望ましい。
- (3) 場内の統制方法は、競技の行われている場所（区域）を重点的に統制する方式が主流であるが、他にはトラック・フィールド分割方式や競技場内をいくつかのエリアに分けるゲートを中心とする方式などを採用する競技会もある。
- (4) 競走種目と重複のおそれのある区域では、競技の進行を確認しながら任務にあたる。競技日程では重なる予定はなくても、進行の遅れ等によっては重なる場合もある。

4 留意点

- (1) マーシャルが特に注意しなければならない事項としては、対応の対象が競技者、監督、コーチ、観衆、報道関係者と多岐にわたり、いずれも親切丁寧な対応が求められることである。相手の立場を思いやり丁寧な対応を心がけたい。過去の競技会においてしばしば報道関係者と思わぬトラブルが起こったのも、そのほとんどが不適切な言行によるものであった。報道関係者はよりよい報道を

するために仕事として取材しているので、運営側も競技運営に支障のない範囲で取材には最大限協力することが必要である。したがって、行動を規制するときにはルールや事前の取り決めに従って行うことと、お互いの立場を尊重して（もらって）、話し合うようにしていかなければならない。〔参照 総務・報道係〕

- (2) 競技場所を離脱する選手への対応では、当該種目審判員の許可を得ることなく、かつ伴わないで離脱した場合は警告の対象となり、悪質な場合は失格となるので注意する。〔参照 TR25.19〕
- (3) 「競技者に対する助力」項目について理解し、該当事項については、速やかにできるだけ穏便な方法で処置する。〔参照 TR6〕
- (4) 競技区域内に入れることを許可された証として、報道関係者には主催者側が発行するマーク（ビブス、ADカード等）の着用を義務づけ、役員・競技者と区別できるようにするとよい。

〔参照 報道係の頁〕

※ 報道係が任命されていない競技会では次の事項について報道員を指導・監督する。

- ① トラック上での撮影は認めない。
- ② フラッシュ使用で競技の撮影は禁止する。
- ③ トラック種目の撮影は、第1レーン内側および第9（8）レーンの外側で、トラックの縁石や外側ラインから1m以上離れる。スタートラインから10m以上離れる。
- ④ フィニッシュライン付近では、撮影エリア以外禁止とする。
- ⑤ 特に競技役員から要請のあった場所（例：曲走路などのスターター、リコーラーの立つ位置、監察員が監察するのに支障をきたす箇所など）では移動を求める。
- ⑥ インフィールドで実施のフィールド種目の撮影は、競技運営上および危険予防のため原則認めない。
- ⑦ 取材許可エリア（ミックスゾーン・インタビュールーム等）以外での取材は禁止する。



ウォームアップ場係

1 任務

- (1) すべての競技者が競技に臨む前に、安全に秩序ある練習が十分できるように場所を確保する。
- (2) 競技者係と連携し、競技者が招集場所にスムーズに移動できるようにする。

2 実施要領

- (1) ウォームアップ場のコンディションの保持・管理をする。
- (2) 秩序ある練習法ならびに危険防止に努める。
- (3) 練習に必要な器具、器材の確保をする。

3 留意点

- (1) ウォームアップ場に入出りできる者について、競技注意事項に明記する。競技会の規模によっては、報道関係者、ADを持たないチームメイトも規制を受けることがある。
- (2) 定められた練習日程やトラックのレーン割り当てを守らせる。
- (3) 雨天、荒天時に適切に対応する。
- (4) 競走路、助走路、投てき場の使用方法について、危険防止について周知徹底する。
- (5) 本部との連絡手段、競技者への招集時刻の連絡手段を確保する。
- (6) 競技者係と協力して、競技者の招集時刻厳守を呼びかける。
また、ウォームアップ場でも準決勝、決勝進出者の掲示を行うことに協力する。

審判員（ウォームアップ場係）



インフィールド内への
横断を調整する役員

曲走路と直走路の交差付近に立ち、
競技者同士の接触を注意している

ウォームアップ場におけるレーン割り当ての例

（直走路8レーン，曲走路6レーン）

〈曲走路〉

1～2レーン：周回，タイムトライアル用

3～4レーン：流し，バトンパス用

5～6レーン：400mH用

〈直走路〉

1～2レーン：周回，タイムトライアル用

3～5レーン：流し，スタートダッシュ用

6～8レーン：ハードル用

ウォームアップ場掲示板と係控室

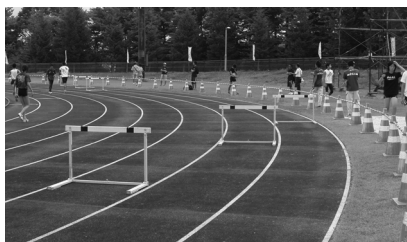


※競技日程に応じ、特にハードル種目、リレー競技等が行われる場合に出場する選手がウォームアップを行う時間帯には集中するので、ハードルやバトンパスの練習に使用できるレーンをその時間帯に限って増やすなどして対応する方法もある。

レーンの割り当て



ハードルのレーン を増設した例



風力計測員

1 任務

- (1) TR17, TR29に基づいて風向風速計を設置する。
- (2) 当該競技における風向および風速を測定し記録する。
その結果に署名した後、記録・情報処理員に報告する。
- (3) 競技進行中の気象状況についても観測する。

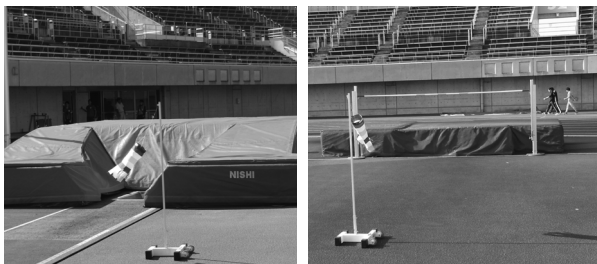
2 配置

- (1) トラック競技の場合、風向風速計は直走路の第1レーンに隣接して、フィニッシュラインから50mの地点（50m～60m競走では30mの地点）で、第1レーンから2m以内に設置する。



- (2) 走幅跳、三段跳において風向風速計は踏切板から20m、助走路から2m以内の位置に設置する。
- (3) 風向風速計を設置する高さは、地上から1m220とする。
- (4) 計測員の配置は、当該競技の運営に支障のない位置で、かつ風向風速計に影響を与えない位置とする。風向風速の表示板は、当該競技の記録速報板と並んで見やすいところに配置することが望ましい。
- (5) 競技者がおおよその風向と風速を知ることができるように、すべての跳躍競技と円盤投・やり投においては、適切な場所に1つ以上の吹流し状のものを置く。砲丸投、ハンマー投では不要である。

吹流しを置いた例



3 実施要領

(1) 観測、計測の結果は次の各係に連絡する。

- | | | |
|---|---------|-----------------|
| ① | トラック競技 | 記録・情報処理員 |
| ② | フィールド競技 | 跳躍審判員記録担当 |
| ③ | 定時観測 | 記録・情報処理員、アナウンサー |

(2) 新記録が出た場合、気象状況、風向風速の確認と証明を行う。

(3) 風向風速の計測時間

トラック競技

200mまでの種目を計測する。

150m及び200mを除く種目では、スタートと同時に計測するが、150mと200mにおいては、先頭の走者が直走路に入った時から10秒間計測する。但しショートトラックでのレースは除く。

50m, 60m	5秒間
50mH, 60mH	5秒間
100m, 150m, 200m	10秒間
100mH, 110mH	13秒間

フィールド競技

走幅跳では踏切板から40m、三段跳では踏切板から35m離れた地点にマーカーを設置し、競技者がそのマーカーを通過したときから計測するが、これよりも助走距離が短い場合、助走を開始した時から計る。

走幅跳・三段跳	5秒間
---------	-----

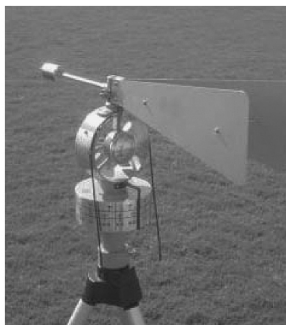
4 留意点

- (1) 主任は、計測器が正確に設置されているか、作動するかどうかを点検する。
- (2) 記録の公認という観点から、風力速報表示器を利用して風力の記録を表示する。
- (3) 機械式の風速計の場合は追い風 (+), 向かい風 (-) の方向に注意する。
- (4) アナログ式 (中浅式) の場合は、メーターの目盛りの移動量と同時に、測定時間内に振れた角度も同時に観測し、風速換算表で走路 (助走路) 方向の分速になおす。
 - ・ 方位磁石で東西南北を合わせる
 - ・ 矢羽根の下、中央が風力計
 - ・ 両側のひもは風力計のメーターのロックスイッチ

デジタル風力計



中浅式風向風速計



- (5) 定時気象状況の観測は、通常、正時 (00分) に行う。慣例として競技開始時の気象状況も測定し発表している。
- (6) 定時気象状況の観測場所は競技場中央部ホームストレート側で第1レーンから2m以内に設置する。トラック競技の風力測定場所と違うので注意する。また、風力の測定は気象学的には10分間の空気の移動量と定義されているが、陸上競技場では簡略化して、3分20秒 (200秒) 間測定し、秒速に換算するのを標準とする。

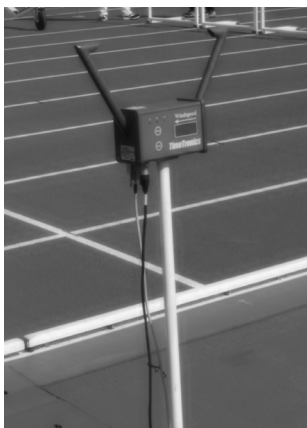
- (7) 乾湿計は地上から1m500の高さに設置する。競技場の気温湿度を代表すると思われる場所（ホームストレート中央付近のスタンド下など日陰の部分が望ましい）で観測する。

※測定値の有効数字については、使用する機器の精度に応じて読み取る単位を決める（0.1度単位でも0.5度単位でもかまわない）。



A, Bピット並行して設置されている例

超音波風向風速計



風速計の故障

多人数が参加する走幅跳や三段跳では2つのピットを用いて同時に予選を行うケースがあり、最近の国内競技会では2ピット同時進行で決勝を行う例も少なくない。当然跳躍審判員と風力計測員も2班編成にする必要がある。そんなとき風向風速計が故障して、予備の計器もないとなったらどうすべきであろうか？

当然2ピットを交互に跳躍させ、それぞれの風力を計測すべきなのだが、問題はその計器の設置場所である。たとえばトラック側が故障した場合、スタンド側においてある計器からトラック側の助走路まで2m以上離れてしまうため公認記録とらなくなってしまうのである。TR29.11で助走路から2m以内に設置することになっているので、2つの助走路の間に置く必要がある。

ただし、電源からコードをどのように引いてくるかは工夫が必要である。延長コードが十分にあれば助走路の後方から回してくることも可能であろうが、それができない場合、走高跳のスタンドを利用して助走路の上を通して2ピットの間で計測したという報告もある。